

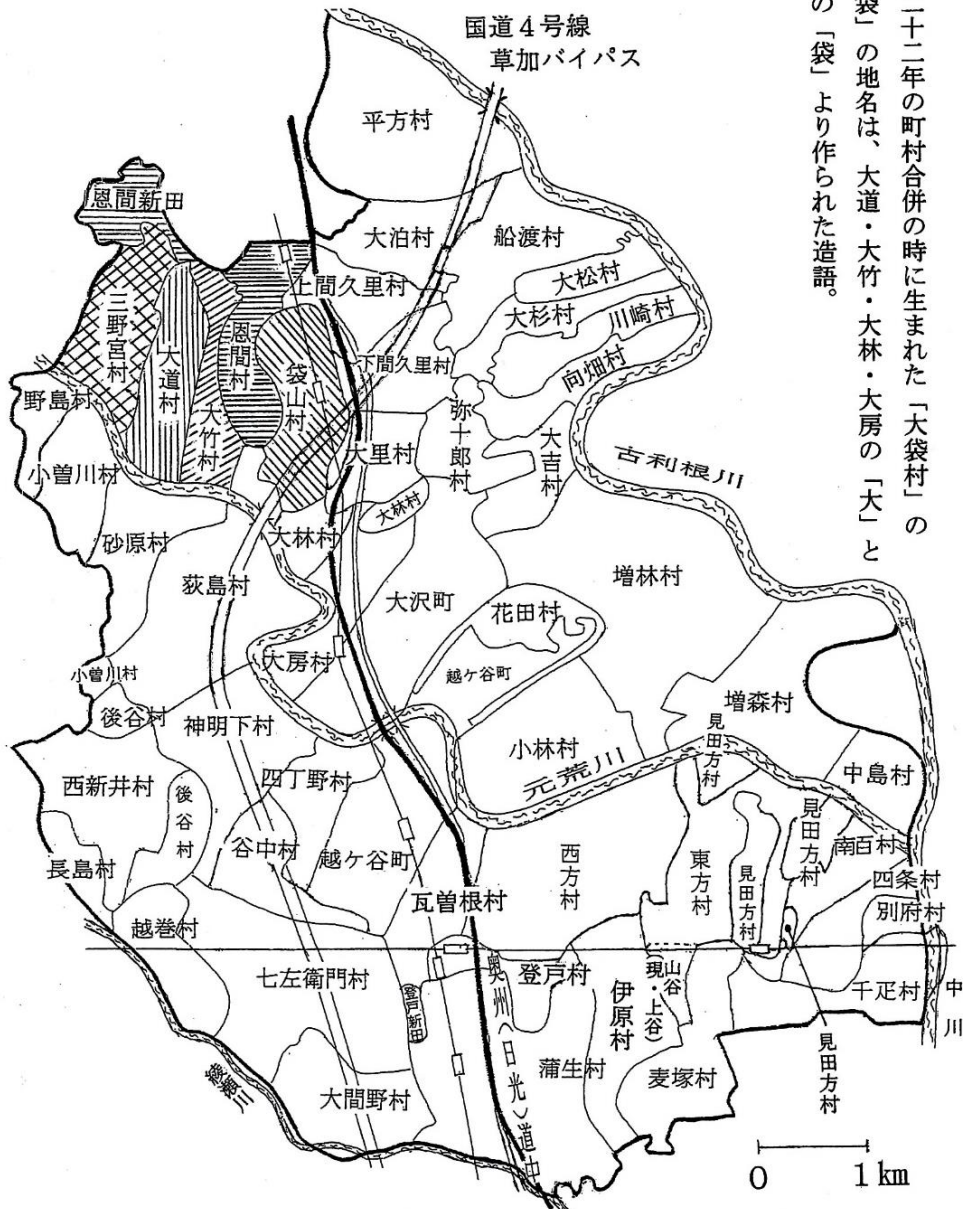
平成9・10年度調査

# 大袋地区 石 仏

三野宮村・大道村・大竹村・  
恩間村・袋山村・大林村・大房村

平成27年12月改訂

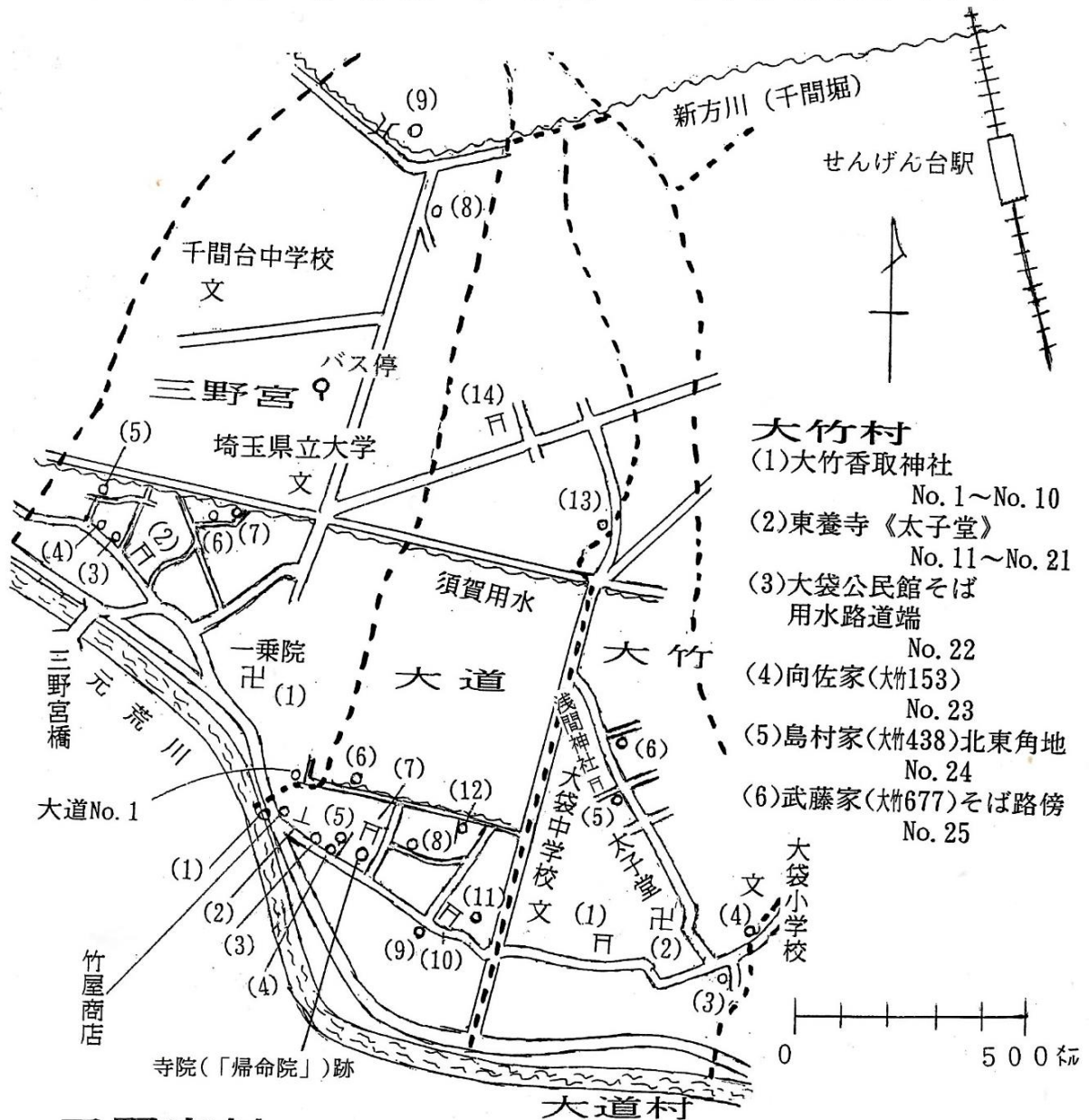
明治二十二年の町村合併の時に生まれた「大袋村」の「大袋」の地名は、大道・大竹・大林・大房の「大」と袋山の「袋」より作られた造語。



加藤幸一

0 1 km

# 三野宮・大道・大竹の石仏案内図



## 三野宮村

- (1)一乗院 No. 1~No. 16
- (2)三野宮香取神社 No. 17~No. 23
- (3)坂巻家(三野宮246) No. 24~No. 26
- (4)森田家(三野宮248) No. 27~No. 28
- (5)森田家(三野宮194) No. 29
- (6)森田家(三野宮291) No. 30
- (7)森田家(三野宮447) No. 31~No. 33
- (8)榎本家(三野宮1912) No. 34~No. 36
- (9)須賀家(三野宮1971) No. 37~No. 42

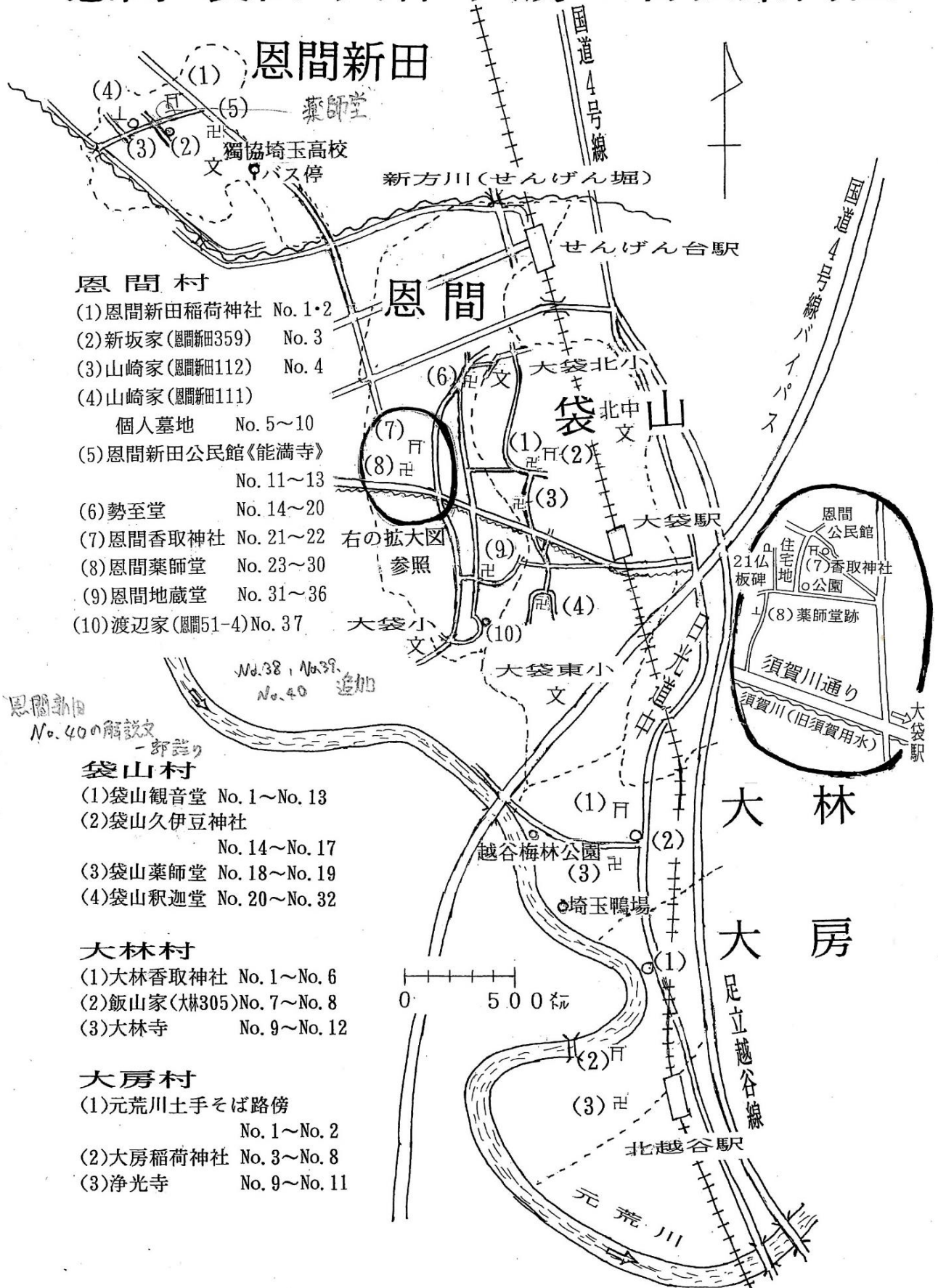
## 大道村

- (1)竹屋商店周辺路傍 No. 1~No. 3
- (2)『寮』(大日堂)の墓地 No. 4
- (3)上手組(わてぐみ)管理の香取社 No. 5
- (4)鈴木家(大道65)路傍 No. 6
- (5)鈴木家(大道108)邸内 No. 7
- (6)川島家(大道16-1)そば用水路 No. 8
- (7)大道香取神社 No. 9~No. 10
- (8)川原家(大道184)路傍 No. 11
- (9)八坂神社そば路傍 No. 12
- (10)八坂神社 No. 13~No. 14
- (11)八坂家(大道487) No. 15~No. 16
- (12)川島家(大道212)路傍 No. 17
- (13)小林家(大道14) No. 18~No. 19
- (14)大道新田稻荷神社 No. 20~No. 26

※これは、平成9年現在の地図である。



# 恩間・袋山・大林・大房の石仏案内図



## 恩間村

- (1) 恩間新田稻荷神社 No. 1・2
- (2) 新坂家(恩間新田359) No. 3
- (3) 山崎家(恩間新田112) No. 4
- (4) 山崎家(恩間新田111)  
個人墓地 No. 5~10
- (5) 恩間新田公民館《能満寺》  
No. 11~13
- (6) 勢至堂 No. 14~20
- (7) 恩間香取神社 No. 21~22
- (8) 恩間薬師堂 No. 23~30
- (9) 恩間地藏堂 No. 31~36
- (10) 渡辺家(恩間51-4) No. 37

## 袋山村

- (1) 袋山観音堂 No. 1~No. 13
- (2) 袋山久伊豆神社  
No. 14~No. 17
- (3) 袋山薬師堂 No. 18~No. 19
- (4) 袋山积迦堂 No. 20~No. 32

## 大林村

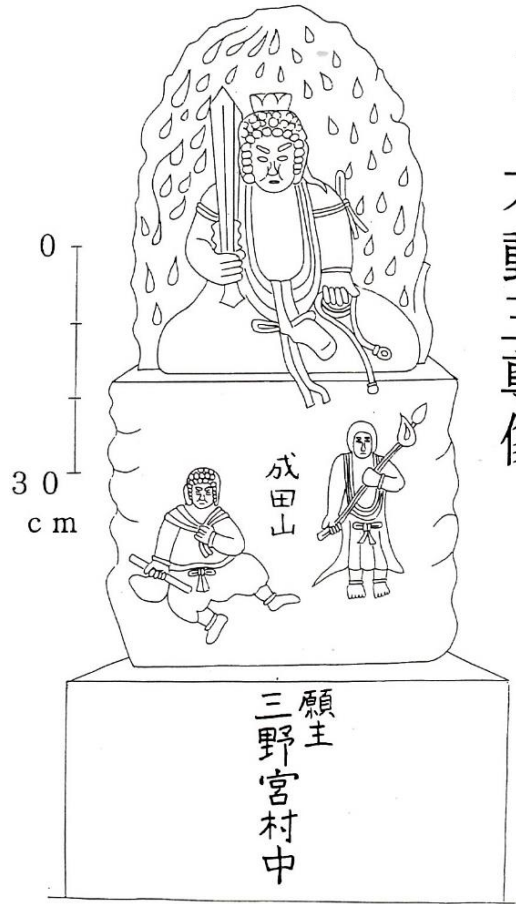
- (1) 大林香取神社 No. 1~No. 6
- (2) 飯山家(大林305) No. 7~No. 8
- (3) 大林寺 No. 9~No. 12

## 大房村

- (1) 元荒川土手そば路傍  
No. 1~No. 2
- (2) 大房稻荷神社 No. 3~No. 8
- (3) 浄光寺 No. 9~No. 11

1. 三野宮

不動三尊像



一乘院

文久元 (1861)

2. 三野宮

「白山大権現」文字塔

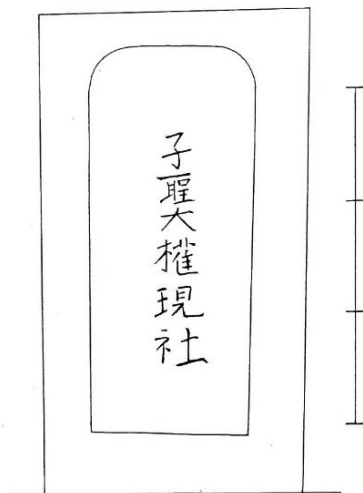


一乘院

嘉永3 (1850)

3. 三野宮

ねのこんげん  
「子権現」文字塔



一乘院

4. 三野宮

青面金剛像庚申塔



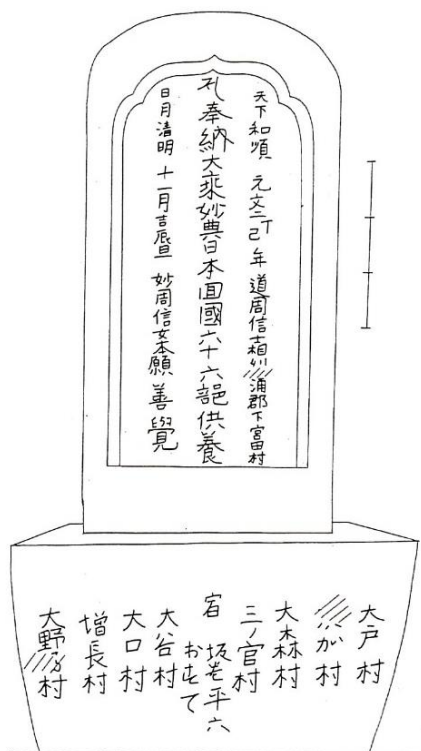
一乘院

享保16 (1731)





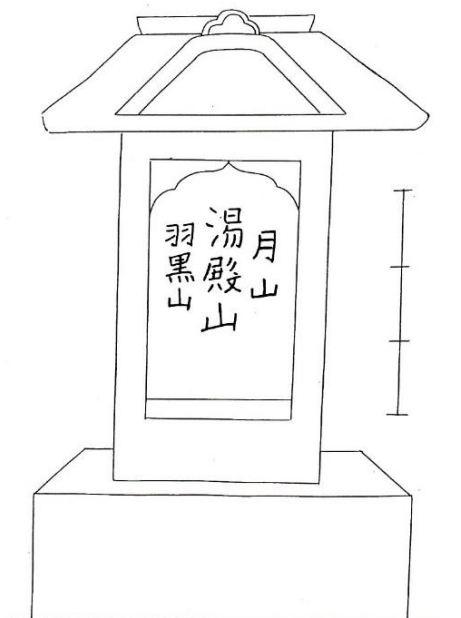
9. 三野宮  
六十六部廻国塔



元文2 (1737)

一乘院

10. 三野宮  
出羽三山 供養塔



嘉永4 (1851)

一乘院

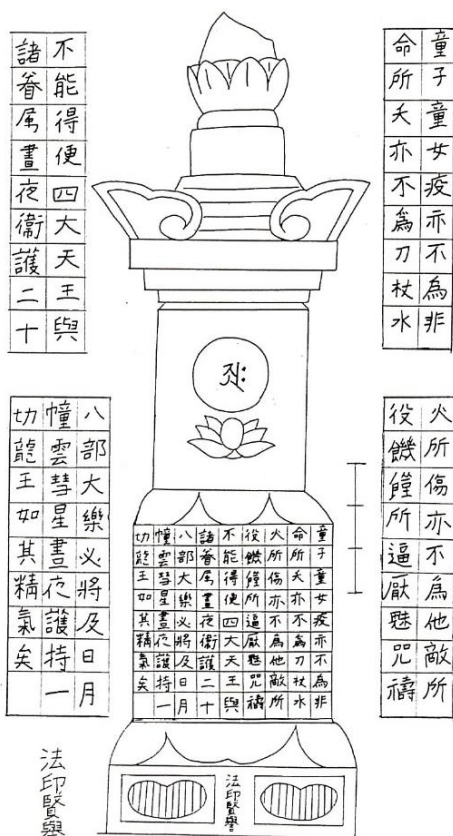
11. 三野宮  
青面金剛像庚申塔



安永2 (1773)

一乘院

12. 三野宮  
宝篋印塔



1680年代か

一乘院



三野宮  
13

# 馬頭観音菩薩像

一乘院  
成就處

奉造立馬頭観世音像一軀日念三白箇日供養



享保十五庚戌八月十八日  
本願主 善學見

享保十五庚戌八月十八日

本願主 善學見

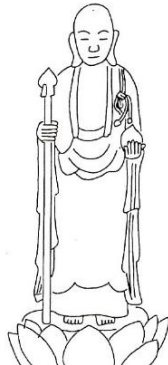
大野嶋 増長村 大口村 大谷村 大戸村 須賀村 大森村 三ノ宮村 日参往来施主  
長宮村 増戸村 増富村 下野田村 花堤村 慈恩寺 平野村

享保 15 (1730)

三野宮  
14

# 丸彫り地蔵菩薩像

一乘院



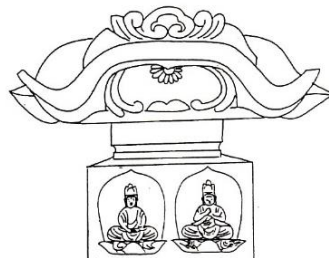
若三途小あんの此なる子  
の解を名哉問これ人天  
經曰よ生し或ハ淨土に生セハ三等  
道に在て其名を問の現の  
果報を得必後ハ佛土に生

天保 15 (1844)

三野宮  
15

# 光明真言供養塔

一乘院



光明真言百萬遍供養塔  
弘法大師一千年御忌

講中  
向坂倉尾根金樓森  
佐卷橋崎岸子本田  
か仙杏八沢五清林治  
之左左五良  
う助門門門藏良藏

森田 治良 林藏 清五 金岸 根崎 尾八 倉杏 坂左 向助

天保 10 (1839)

三野宮  
16

# 弘法大師一千年御忌供養塔

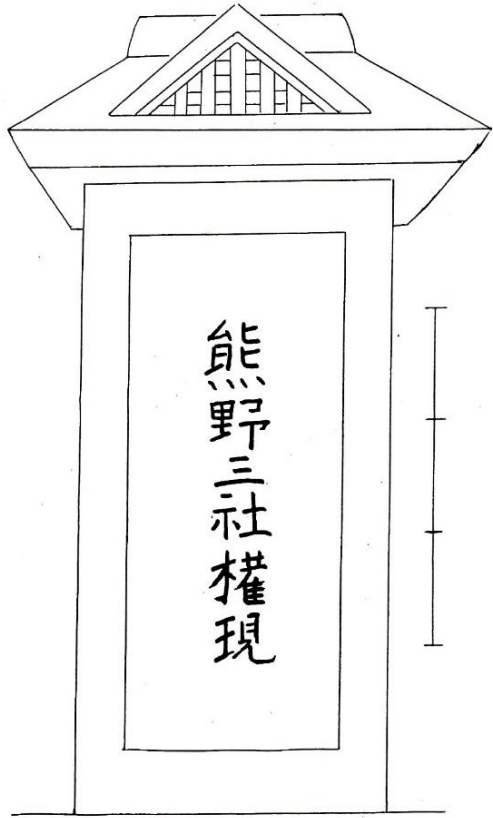
一乘院

弘法大師一千年御忌供養塔

天保 5 (1834)





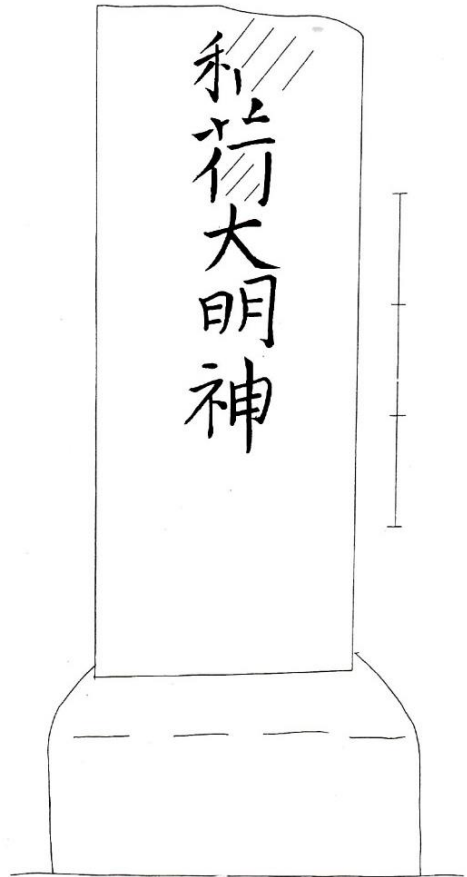


明和2 (1765)

22<sup>三野宮</sup>

熊野三山供養塔

三野宮香取神社



元文5 (1740)

21<sup>三野宮</sup>

「稻荷大明神」文字塔

三野宮香取神社

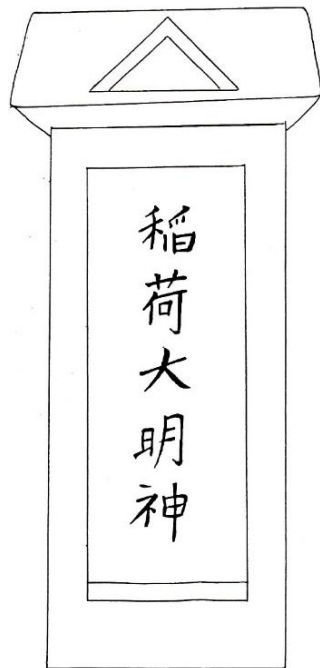


延享元 (1744)

24<sup>三野宮</sup>

地蔵像付き六十六部廻国塔

坂巻家「三野宮二四六一」二路傍



寛政4 (1792)

23<sup>三野宮</sup>

「稻荷大明神」文字塔

三野宮香取神社

25<sup>三野宮</sup>

青面金剛像庚申塔

坂巻家「三野宮二四六一」路傍

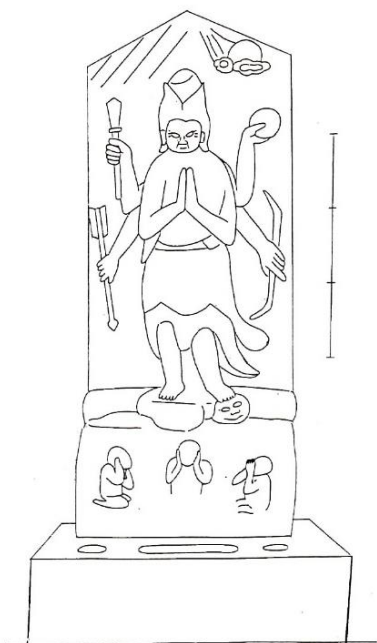


寛政11 (1799)

26<sup>三野宮</sup>

青面金剛像庚申塔

坂巻家「三野宮二四六一」路傍



宝暦7 (1757)

27<sup>三野宮</sup>

青面金剛像庚申塔

森田家「三野宮二四八」路傍



明和3 (1766)

28<sup>三野宮</sup>

道標付き観音菩薩像

森田家「三野宮二四八」路傍



元文5 (1740)

〔側面〕

ちおんどろ

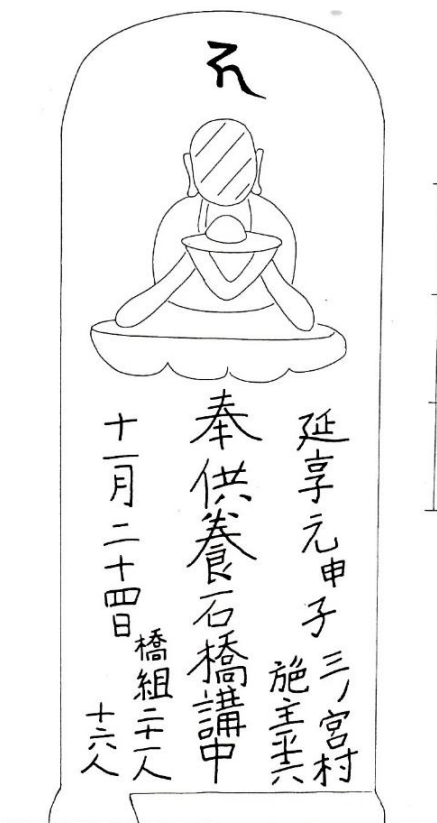




33 三野宮

石橋供養塔

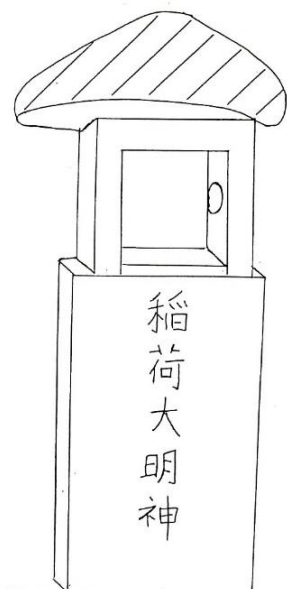
森田家「三野宮四四七」そば橋脇



34 三野宮

「稻荷大明神」文字塔

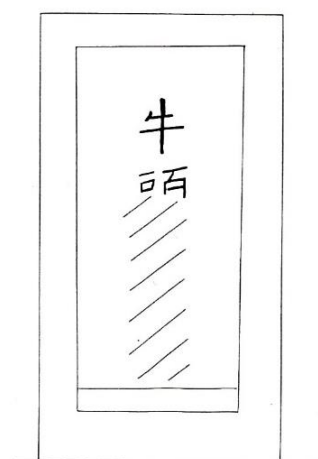
榎本家「三野宮一九一二」祭祀地



35 三野宮

「牛頭天王」文字塔

榎本家「三野宮一九一二」祭祀地



36 三野宮  
どこうじん

「土公神」文字塔

榎本家「三野宮一九一二」祭祀地





37 三野宮

### 文字庚申塔

須賀家「三野宮一九七二」路傍



弘化2 (1845)

39 三野宮

### 地藏菩薩像

須賀家「三野宮一九七二」路傍

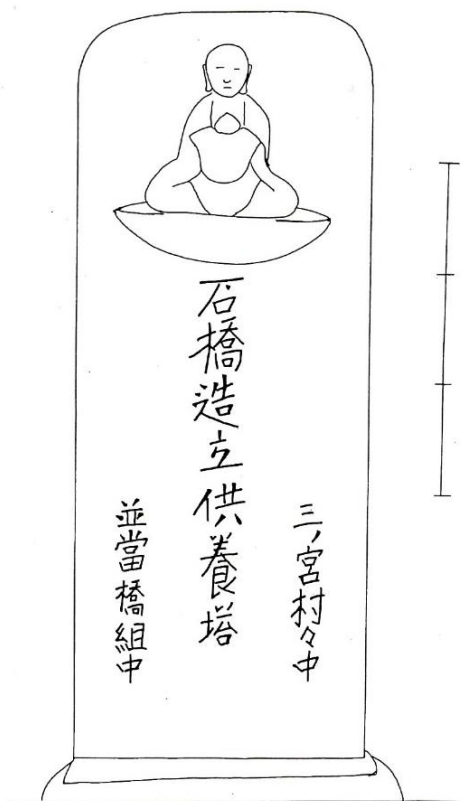


文化13 (1816)

38 三野宮

### 石橋供養塔

須賀家「三野宮一九七二」路傍



明和3 (1766)

40 三野宮

### 青面金剛像庚申塔

須賀家「三野宮一九七二」路傍



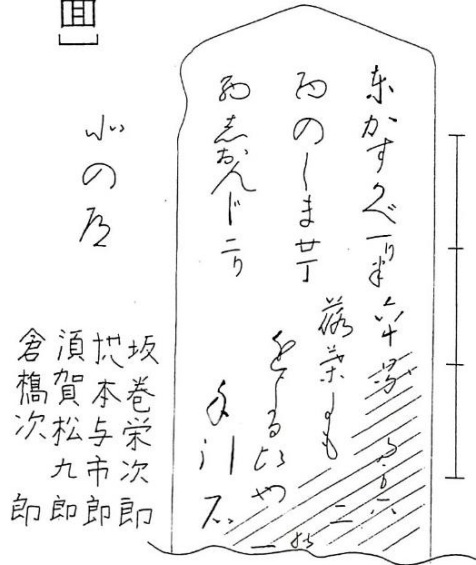
元文4 (1739)

41 三野宮

# 道標石塔

須賀家「三野宮一九七二」路傍

〔側面〕



嘉永5 (1852)

1 大道

# 地藏菩薩像

旧・竹屋商店周辺  
現・一乗院無縁仏群に移転



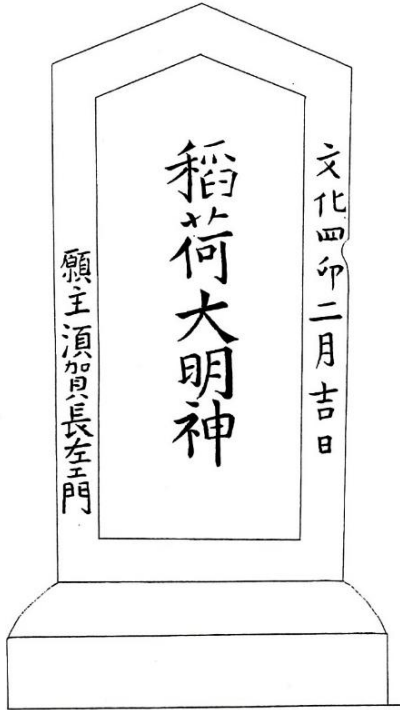
安永5 (1776)

0  
30  
cm

42 三野宮

# 「稻荷大明神」文字塔

須賀家「三野宮一九七二」邸内



文化4 (1807)

2 大道

# 道標付き普門品供養塔

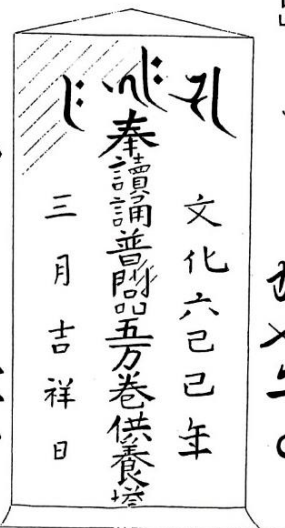
旧・竹屋商店周辺  
土手の川側

〔側面〕

こーがやう

〔側面〕

まくり二十丁  
大道村講中



文化6 (1809)

3. 大道 道標石塔

旧・竹屋商店周辺  
土手の川側

〔側面〕 こしがやみち

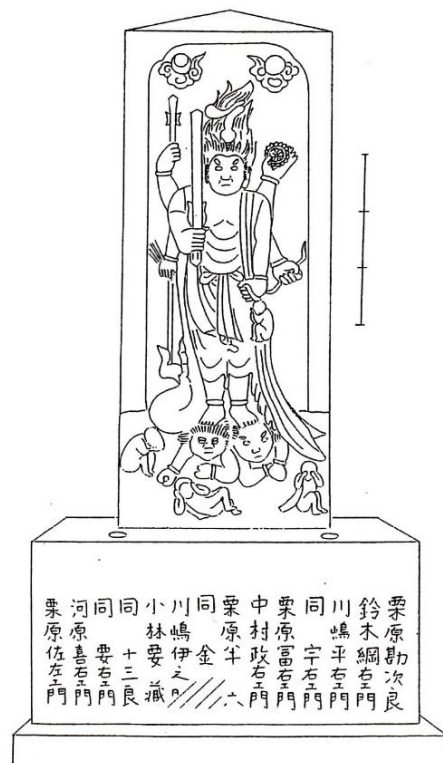


〔側面〕 まろりみち

5. 大道

青面金剛像庚申塔

旧・上手組管理香取社  
大道香取神社に移転



文政3 (1820)

4. 大道

地藏像付き墓塔

〔寮〕大日堂の墓地

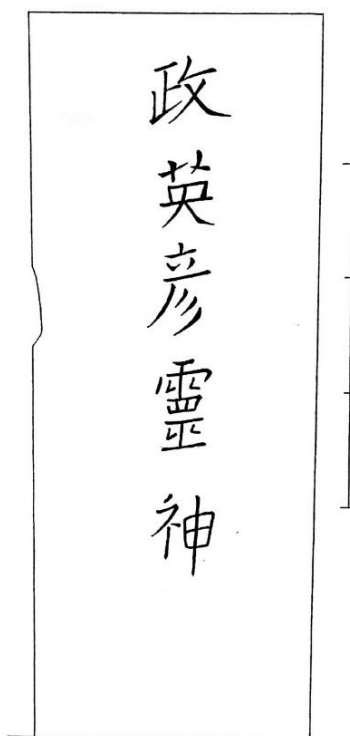


寛保3 (1743)

6. 大道

霊神墓塔  
れいじん

鈴木家〔大道六五〕



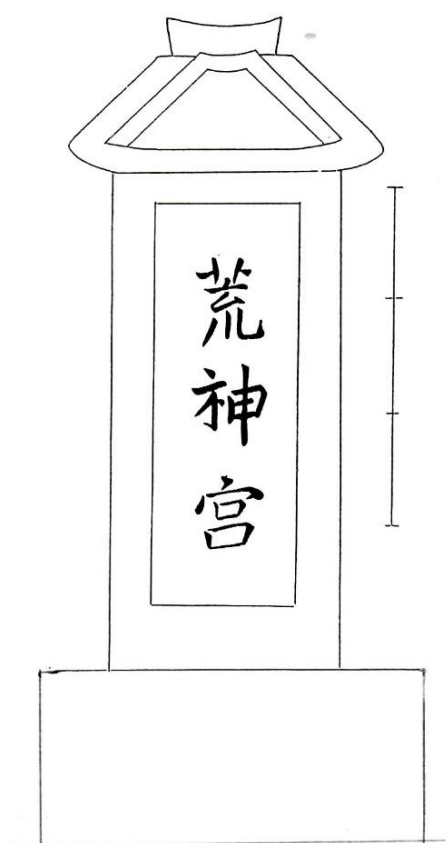
弘化3 (1846)



7<sup>大道</sup>

「荒神宮」文字塔

鈴木家「大道一〇八」邸内

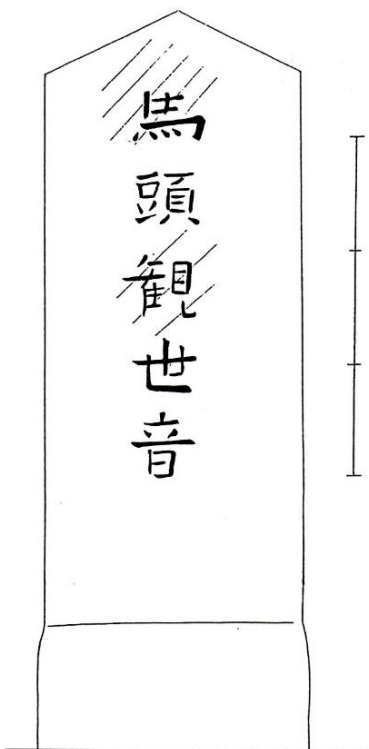


享和2 (1802)

8<sup>大道</sup>

「馬頭観音」文字塔

川島家「大道一六一」そば用水路

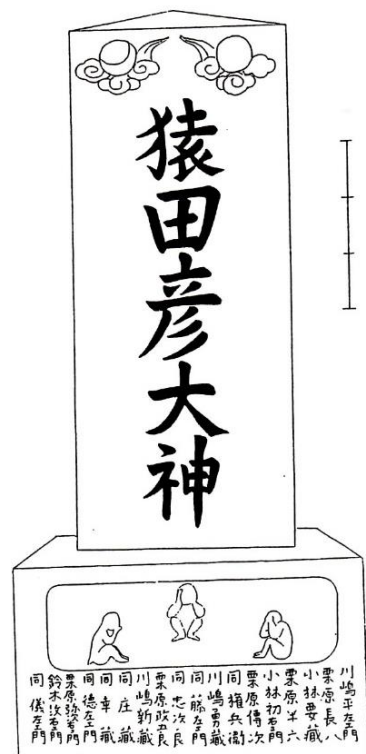


天保15 (1844)

9<sup>大道</sup>

猿田彦文字庚申塔

大道香取神社



文化12 (1815)

10<sup>大道</sup>

文字庚申塔

大道香取神社



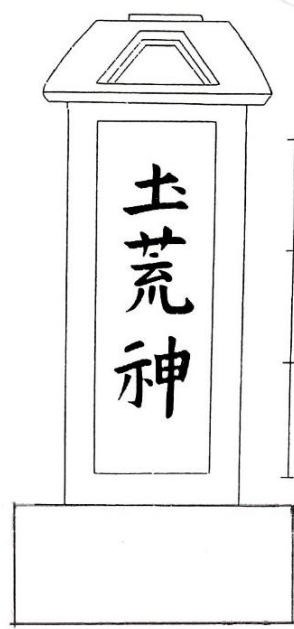
文化3 (1806)

11<sup>大道</sup>

「土荒神」<sup>どこうじん</sup>

文字塔

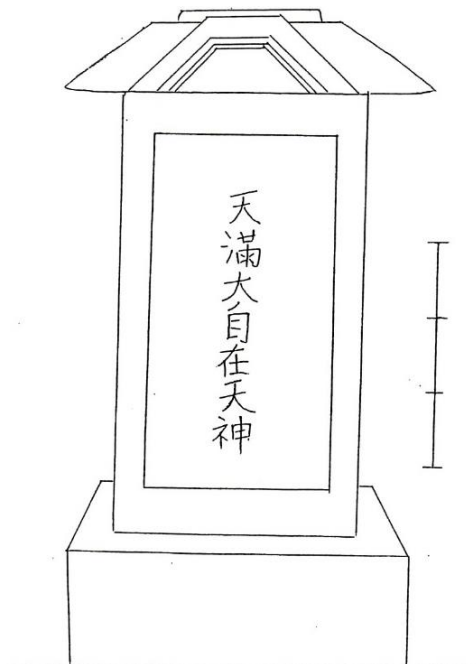
川原家「大道一八四」



13<sup>大道</sup>

「天神」文字塔

八坂神社



天明3 (1783)

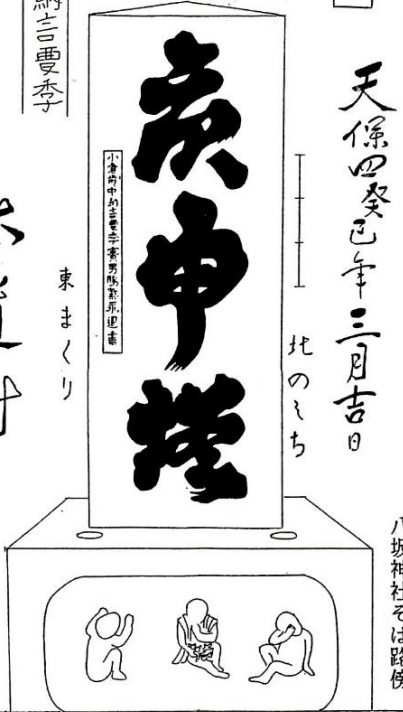
12<sup>大道</sup>

道標付き文字庚申塔

八坂神社そば路傍

〔側面〕

天保四癸巳年三月吉日

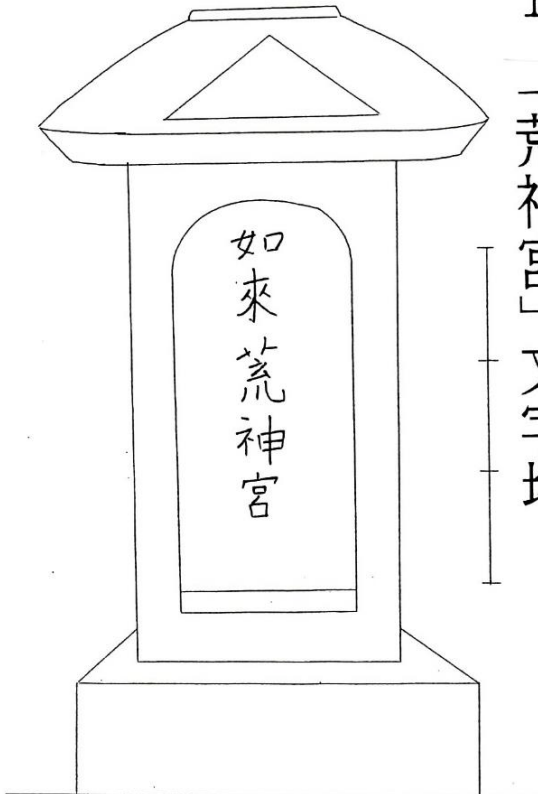


天保4 (1833)

14<sup>大道</sup>

「荒神宮」<sup>こうじんぐう</sup>文字塔

八坂神社



明和7 (1770)

賓男勝紫永退書

六道村

〔側面〕

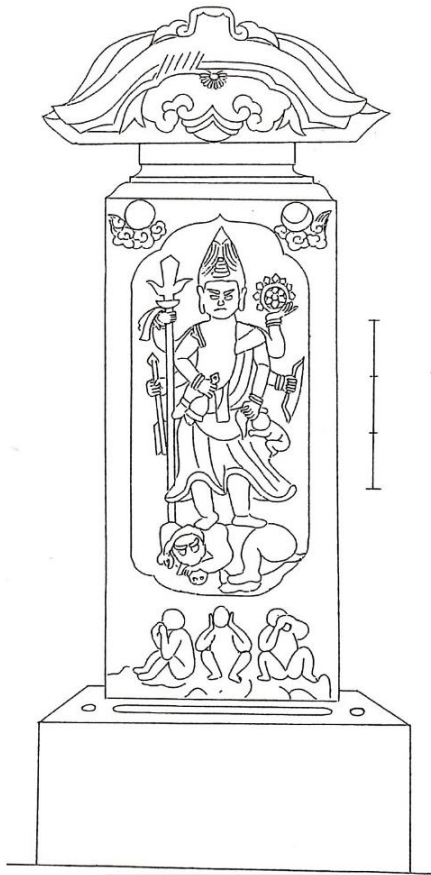
小倉前中納言豊季

東まくり

南いまつき

小倉前中納言豊季

北のち



16<sup>大道</sup>

青面金剛像庚申塔

八坂家「大道四八七」

元文5 (1740)



15<sup>大道</sup>

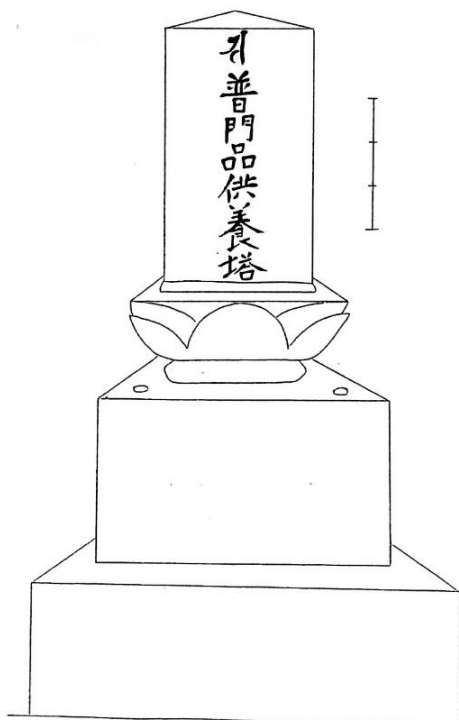
観音菩薩像

八坂家「大道四八七」

元禄十六癸未十二月廿日

権大僧都法印秀翁

元禄16 (1703)

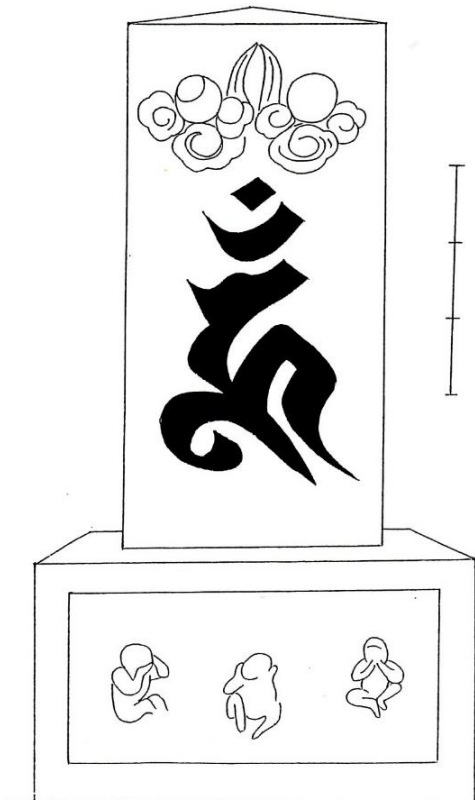


18<sup>大道</sup>

普門品供養塔

小林家「大道一四」  
現・千間台西五十一四

文政6 (1823)



17<sup>大道</sup>

梵字庚申塔

旧・川島家「大道二二三」路傍  
現・川島家「大道二二二一三」

文政10 (1827)





23<sup>大道</sup> · 文字庚申塔



大道新田稻荷神社

文政4 (1821)

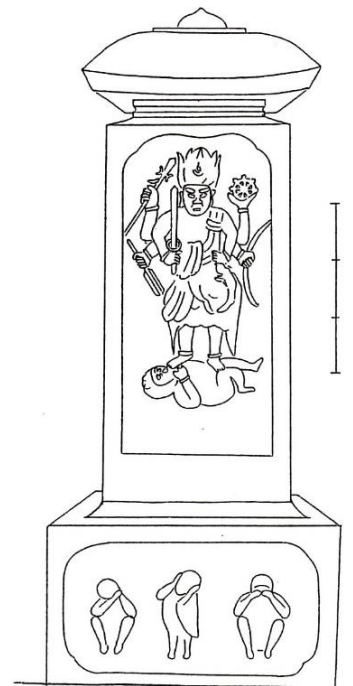
24<sup>大道</sup> · 文字庚申塔



大道新田稻荷神社

寛政10 (1798)

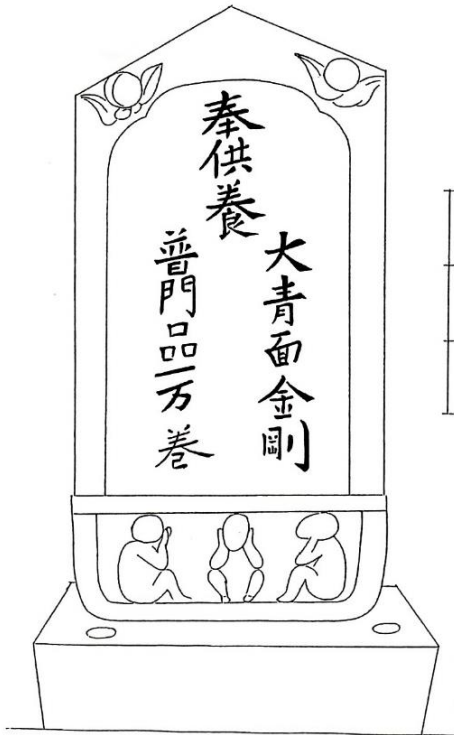
25<sup>大道</sup> · 青面金剛像庚申塔



大道新田稻荷神社

文化4 (1807)

26<sup>大道</sup> · 文字庚申 · 普門品供養塔



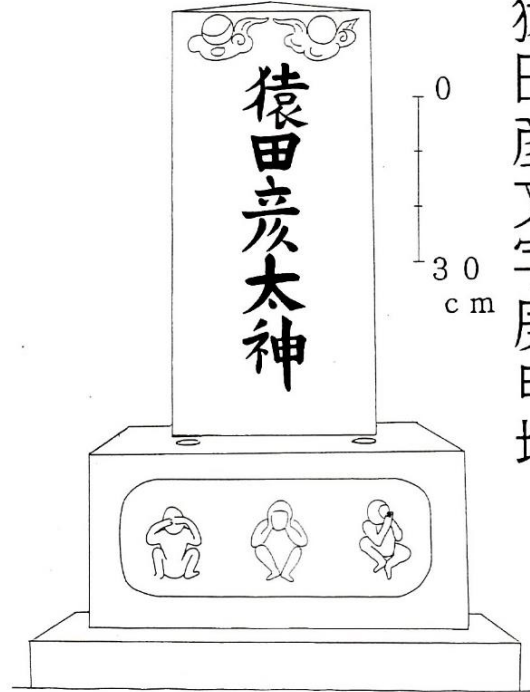
大道新田稻荷神社

宝曆8 (1758)

1. 大竹

猿田彦文字庚申塔

大竹香取神社

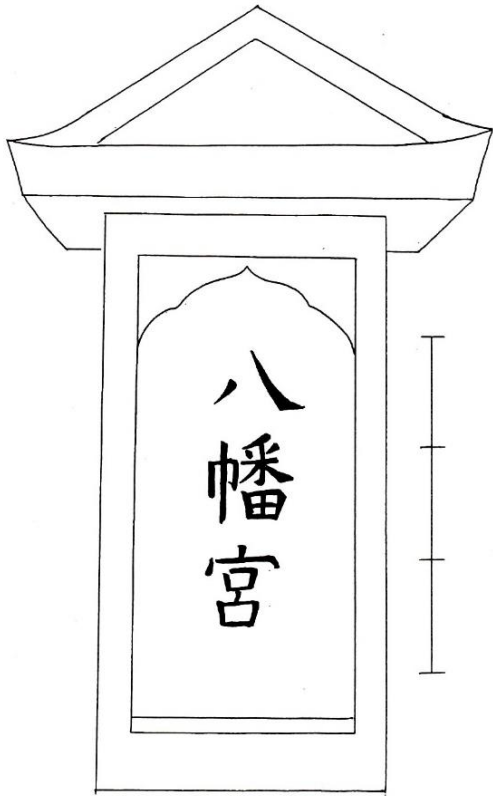


天保2 (1831)

2. 大竹

「八幡宮」文字塔

大竹香取神社

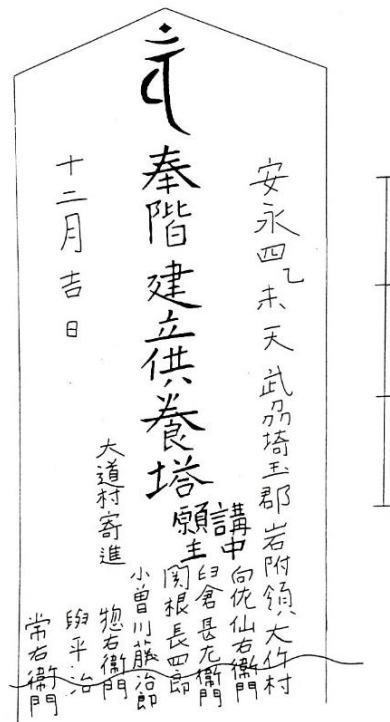


文化12 (1815)

3. 大竹

石段供養塔

大竹香取神社

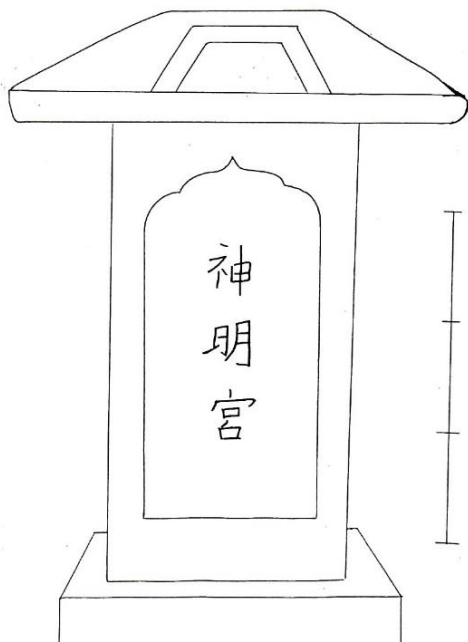


安永4 (1775)

4. 大竹

「神明宮」文字塔

大竹香取神社



文久2 (1862)



5. 大竹

「天満宮」文字塔

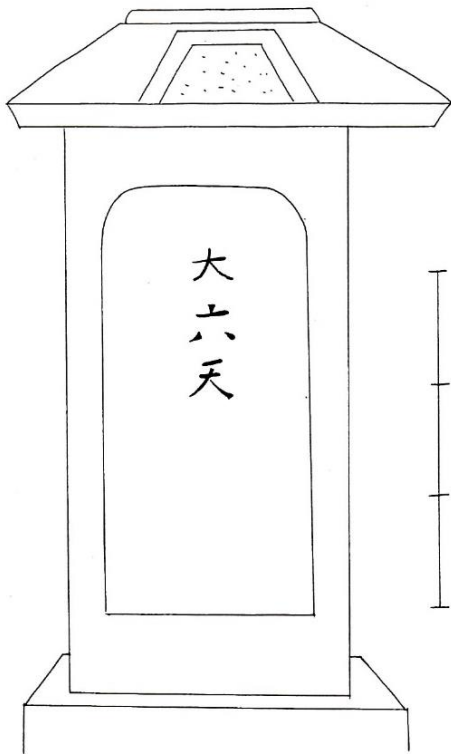


大竹香取神社

安政4 (1857)

6. 大竹

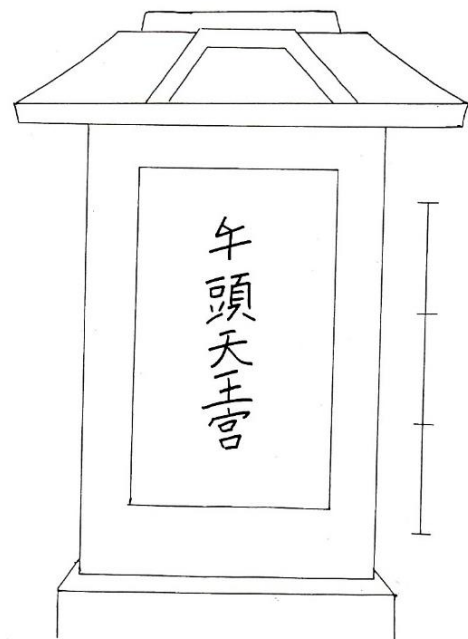
「第六天」文字塔



大竹香取神社

7. 大竹

「牛頭天王宮」文字塔

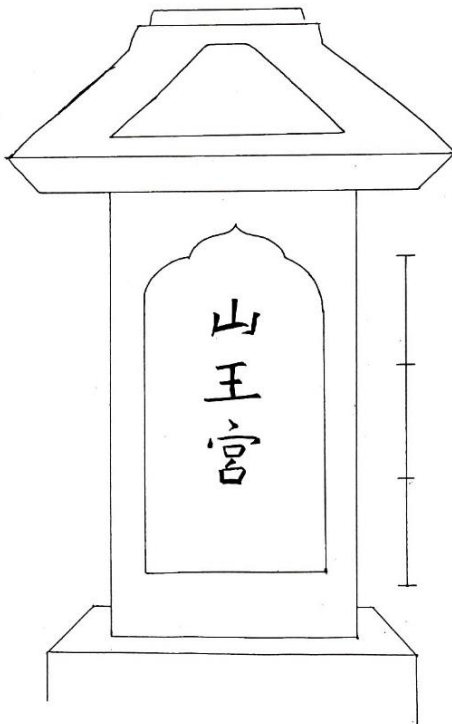


大竹香取神社

延享元 (1744)

8. 大竹

「山王宮」文字塔



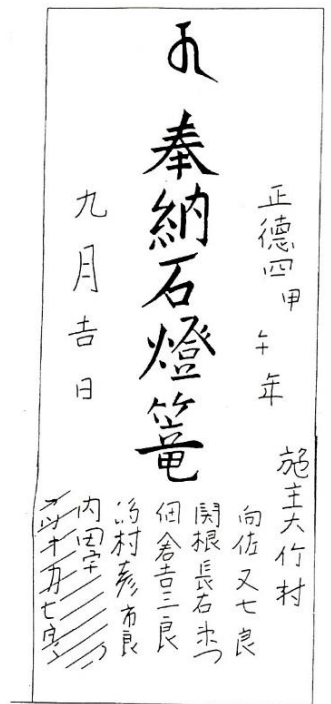
大竹香取神社

文久2 (1862)

9. 大竹

石灯籠供養塔

大竹香取神社

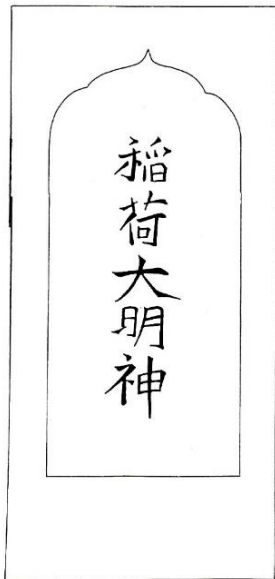


正徳4 (1714)

10. 大竹

「稻荷大明神」文字塔

大竹香取神社



文久2 (1862)

11. 大竹

道標付き文字庚申塔

東養寺(太子堂)

〔側面〕

為安政三年  
辰四月吉日  
東 大竹村  
向佐又七良  
関根長右衛門  
佃倉吉三良  
内田守  
内田守  
内田守



安政3 (1856)

〔側面〕

氏名  
大竹村  
向佐又七良  
関根長右衛門  
佃倉吉三良  
内田守  
内田守  
内田守

12. 大竹

地藏像付六十六部供養塔

東養寺(太子堂)

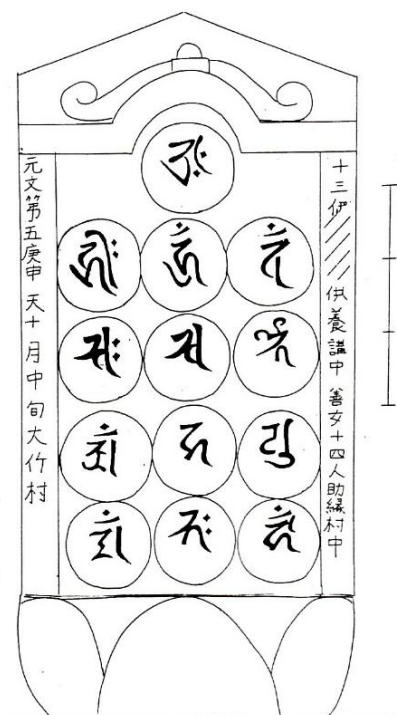


享保18 (1733)

13<sup>大竹</sup>

# 十三仏梵字塔

東養寺 (太子堂)



元文5 (1740)

14<sup>大竹</sup>

# 文字庚申塔

東養寺 (太子堂)



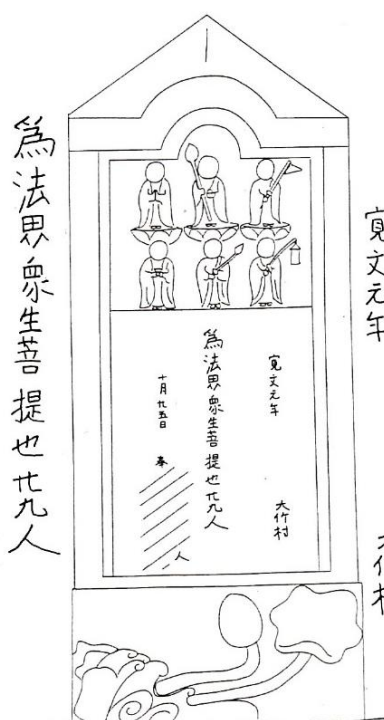
享保18 (1733)

15<sup>大竹</sup>

# 板碑型一石六地藏菩薩像

寛文元年

大竹村



寛文元 (1661)

十月廿五日 奉

東養寺 (太子堂)

16<sup>大竹</sup>

# 青面金剛像庚申塔

東養寺 (太子堂)



正徳元 (1711)

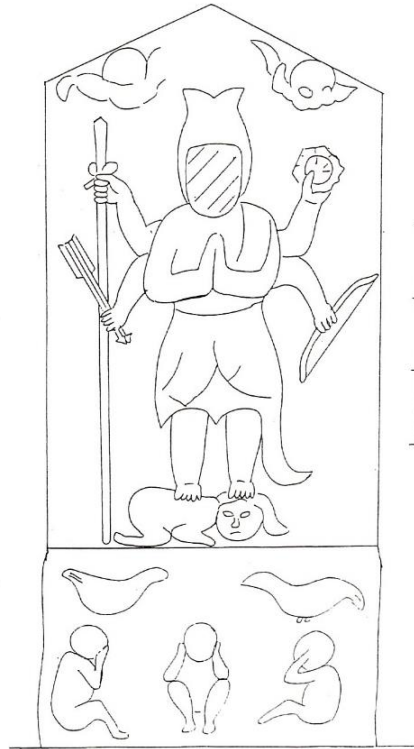
正徳元印十月吉日



17<sup>大竹</sup>

青面金剛像庚申塔

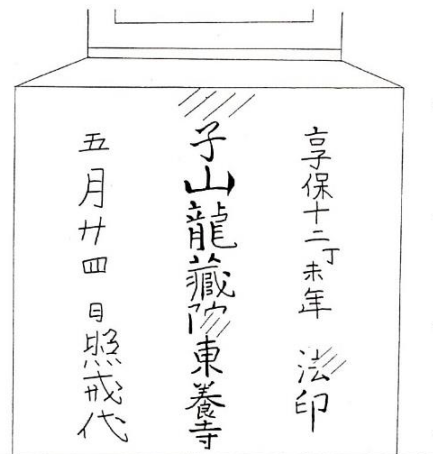
東養寺 (太子堂)



延享3 (1746)

19<sup>大竹</sup>

寺院名文字入り石塔



享保12 (1727)

18<sup>大竹</sup>

青面金剛像庚申塔

東養寺 (太子堂)

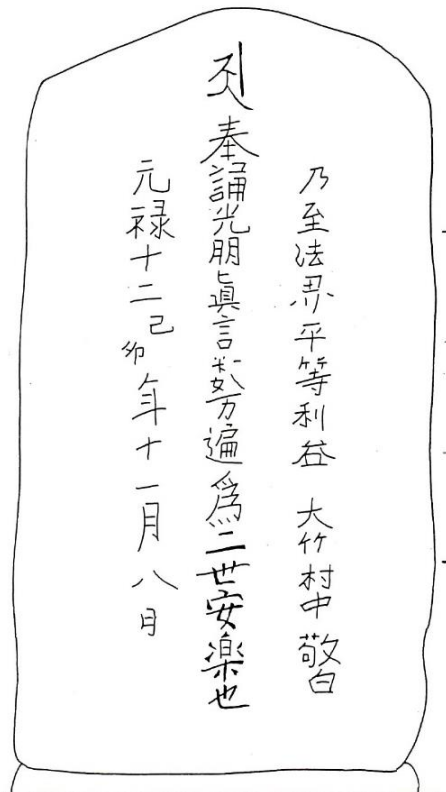


安永6 (1777)

20<sup>大竹</sup>

光明真言供養塔

東養寺 (太子堂)



元禄12 (1699)

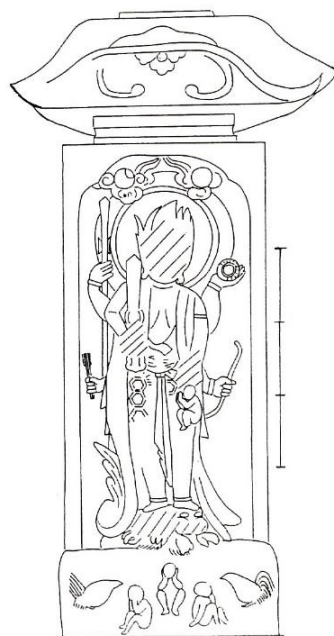
(上段の石塔の図は  
下段の石塔とは  
別物なので省略)

東養寺 (太子堂)

21<sup>大竹</sup>

青面金剛像庚申塔

東養寺(太子堂)

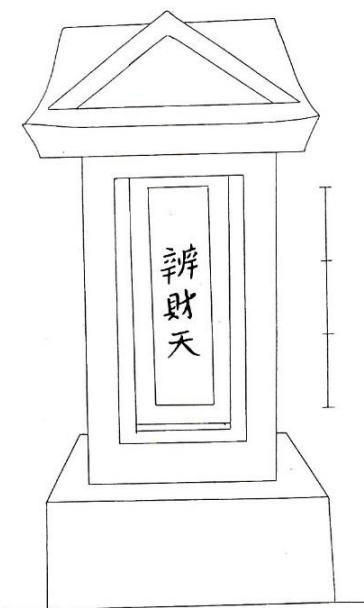


文化元(1804)

23<sup>大竹</sup>

「弁財天」文字塔

向佐家「大竹一五三」邸内



寛保2(1742)

22<sup>大竹</sup>

道標付き普門品供養塔

大袋公民館そば

〔側面〕

〔側面〕



文化8(1811)

24<sup>大竹</sup>

『北向き地蔵』石仏

島村家「大竹四三八」北東角地

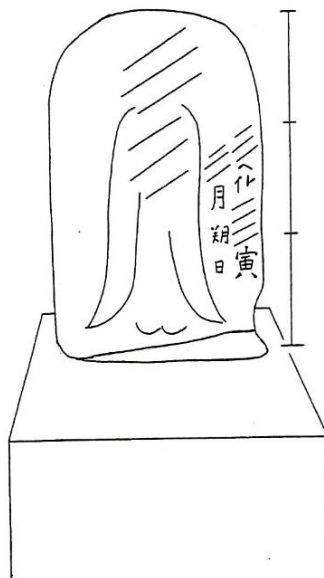


享保11(1726)

25<sup>大竹</sup>

# 地蔵菩薩像

武藤家「大竹六七七」そば路傍

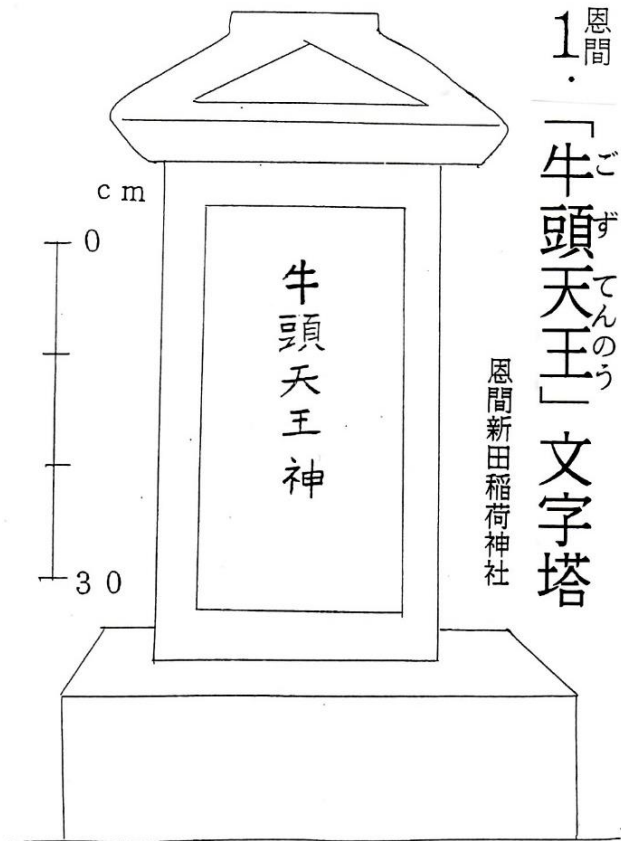


文化3 (1806)

1<sup>恩間</sup>

# 「牛頭天王」文字塔

恩間新田稻荷神社

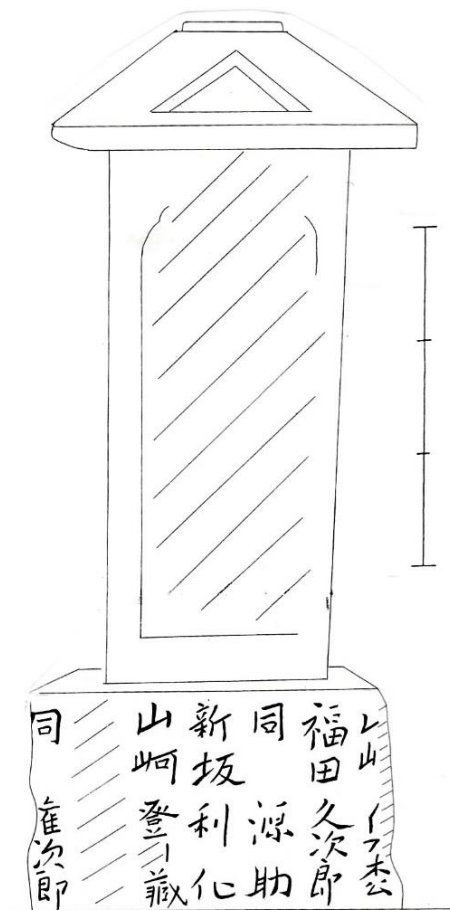


延享2 (1745)

2<sup>恩間</sup>

# 「天神」文字塔

恩間新田稻荷神社



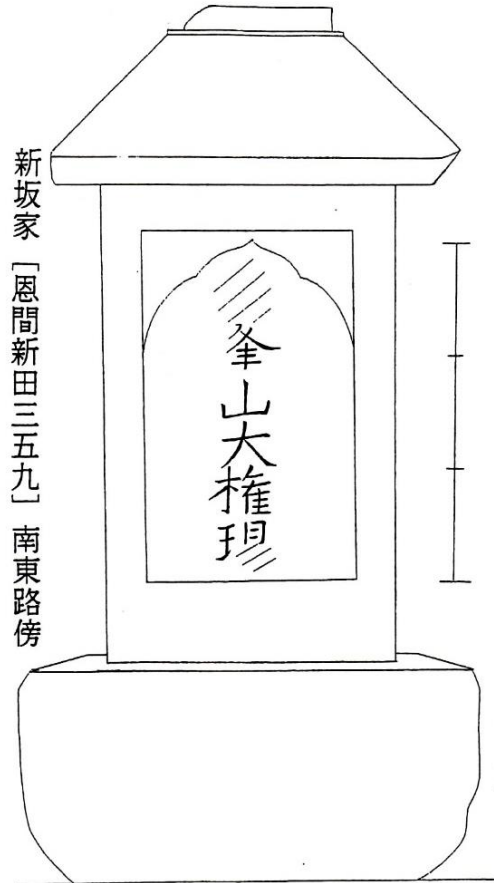
嘉永年間 (1848~53)

レ山 仁七松  
福田 久次郎  
同 源 助  
新坂 利 仁  
山 崎 登 藏  
同 産 次郎



3<sup>恩間</sup>

「三峰山大権現」文字塔



嘉永4 (1851)

5<sup>恩間</sup>

光明真言曼陀羅塔

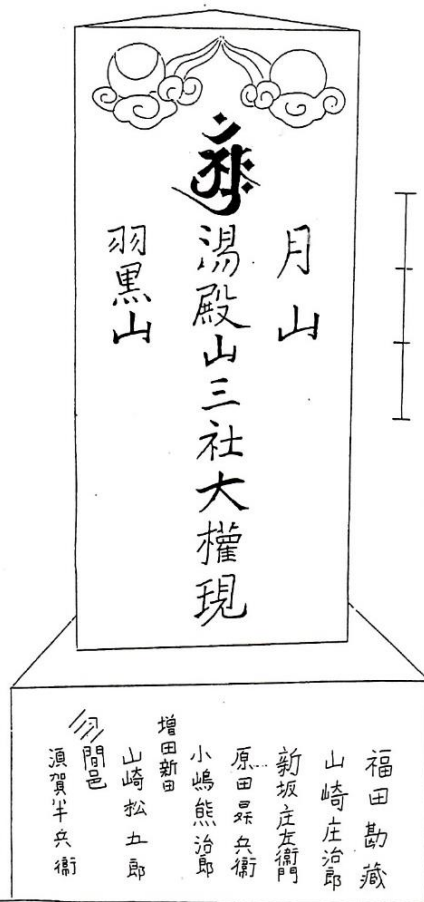


天明6 (1786)

山崎家「恩間新田一二」墓地

4<sup>恩間</sup>

出羽三山供養塔

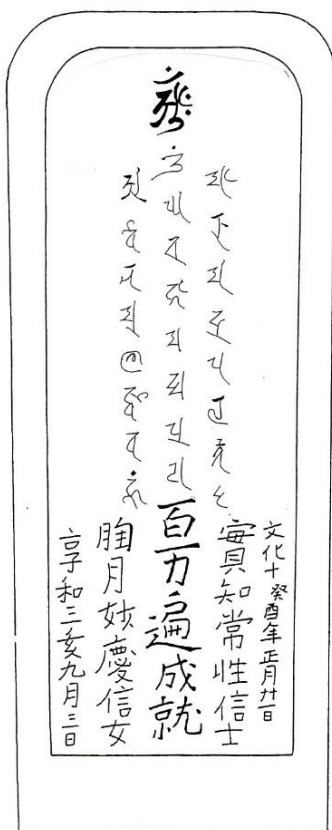


嘉永2 (1849)

山崎家「恩間新田一二」路傍

6<sup>恩間</sup>

光明真言供養塔



文化10 (1813)

山崎家「恩間新田一二」墓地

7. 恩間

光明真言曼陀羅塔

山崎家「恩間新田一一」墓地

元禄七戌三月二十二日



元禄16 (1703)

元禄十六未六月十七日

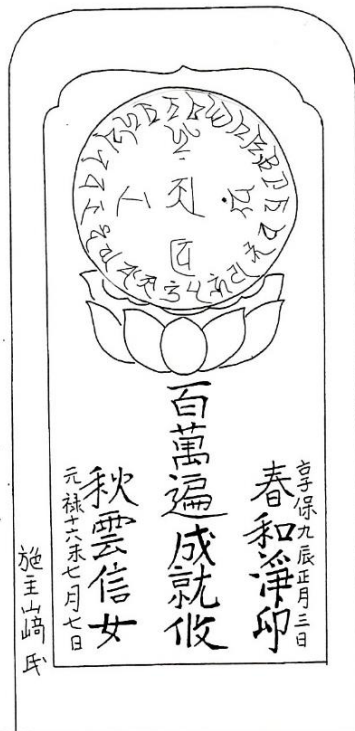
施主山崎氏

8. 恩間

光明真言曼陀羅塔

山崎家「恩間新田一一」墓地

享保九辰正月三日



享保9 (1724)

元禄十六未七月七日

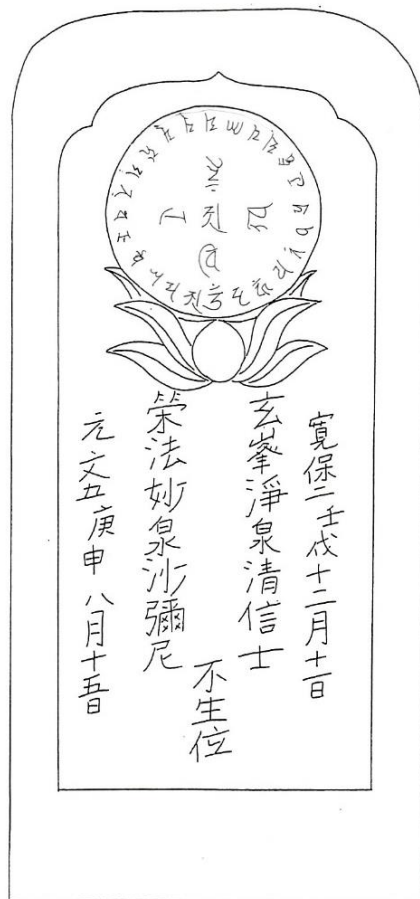
施主山崎氏

9. 恩間

光明真言曼陀羅塔

山崎家「恩間新田一一」墓地

寛保二壬戌十二月十日



寛保2 (1742)

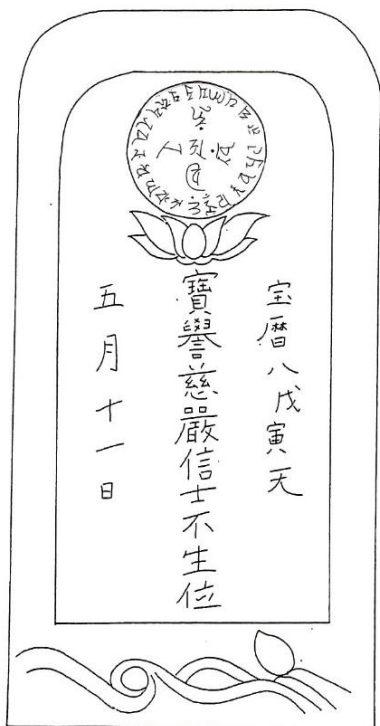
山崎家「恩間新田一一」墓地

10. 恩間

光明真言曼陀羅塔

山崎家「恩間新田一一」墓地

宝曆八戊寅天



宝曆8 (1758)

11 恩間

文字庚申塔

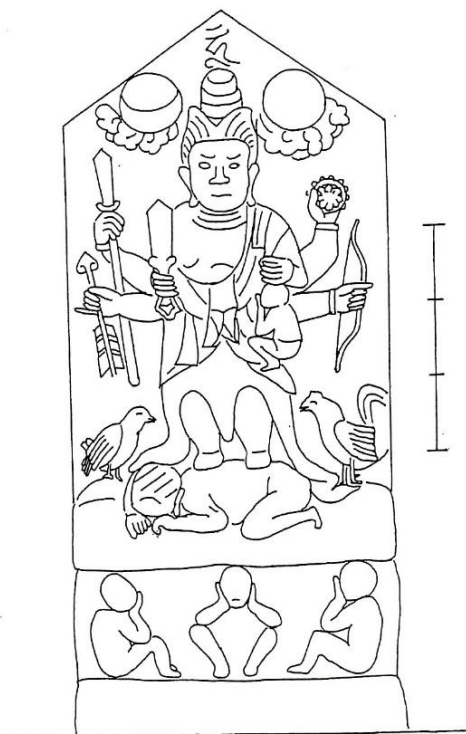


恩間新田公民館

嘉永3 (1850)

12 恩間

青面金剛像庚申塔



恩間新田公民館

享保8 (1723)

13 恩間

青面金剛像庚申塔

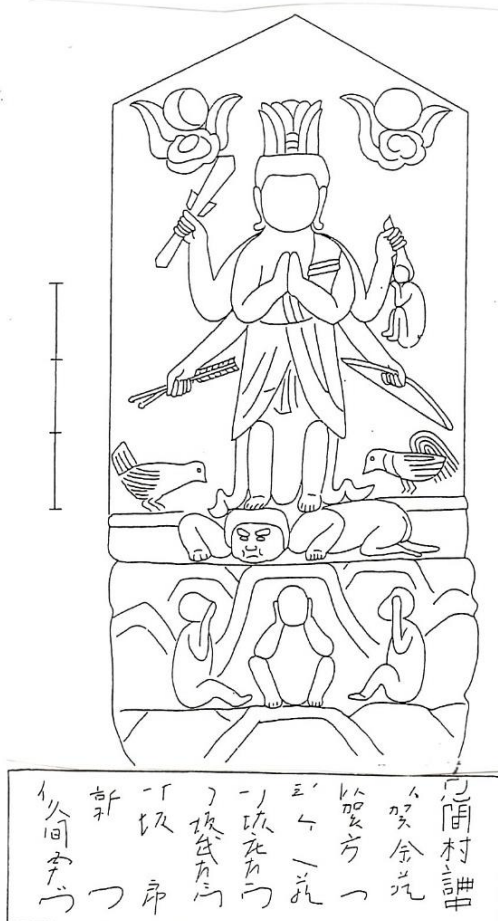


恩間新田公民館

元禄10 (1697)

14 恩間

青面金剛像庚申塔



勢至堂

宝暦5 (1755)



15 恩間

観音像付き普門品供養塔

岩槻領恩間村講中



勢至堂

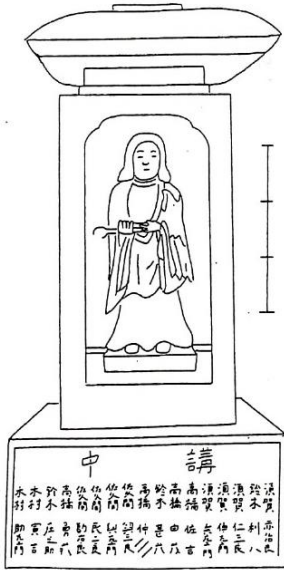
新坂宗仙 高橋宇吉 須賀弥吉 高橋佐吉 佐久間吉藏 高橋祐藏 須賀弥太良 同村羊兵衛 木村寅吉 新坂吉門 濱野吉藏 同村伊右衛門

文化5 (1808)

16 恩間

聖徳太子像

勢至堂



須賀利八 須賀仁三 須賀仲九郎 高橋佐吉 高橋由茂 高橋甚八 高橋仲三 高橋銀三 佐久間與三郎 佐久間勘右良 高橋庄之助 鈴木寅吉 木村寅吉 木村寅吉

文政6 (1823)

17 恩間

不動明王像

勢至堂

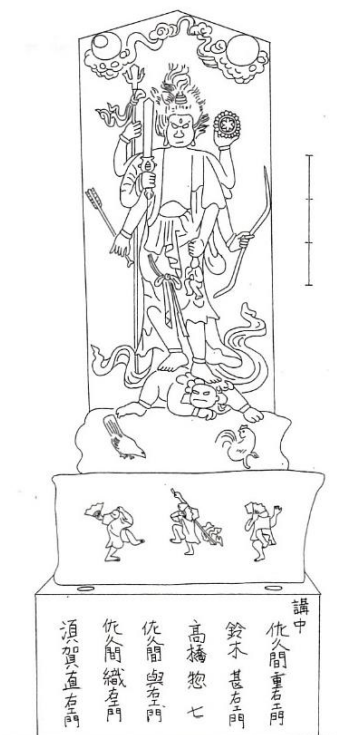


明和3 (1766)

18 恩間

青面金剛像庚申塔

勢至堂

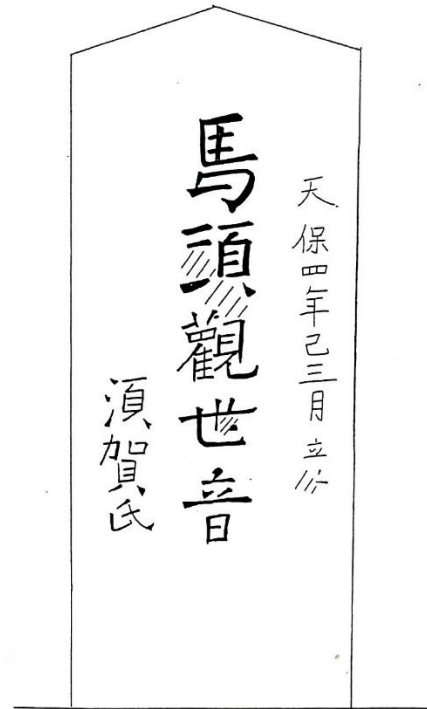


寛政5 (1793)

19 恩間

「馬頭観音」文字塔

勢至堂  
南隣路傍

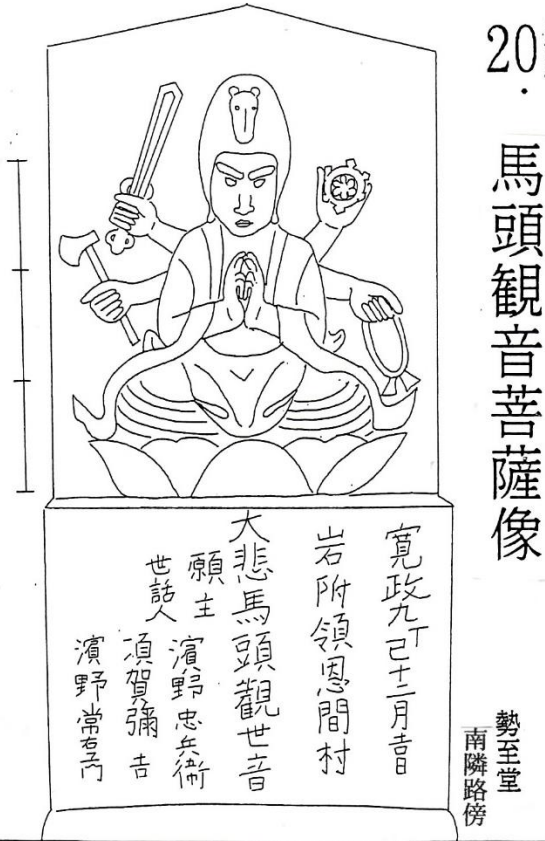


天保4 (1833)

20 恩間

馬頭観音菩薩像

勢至堂  
南隣路傍

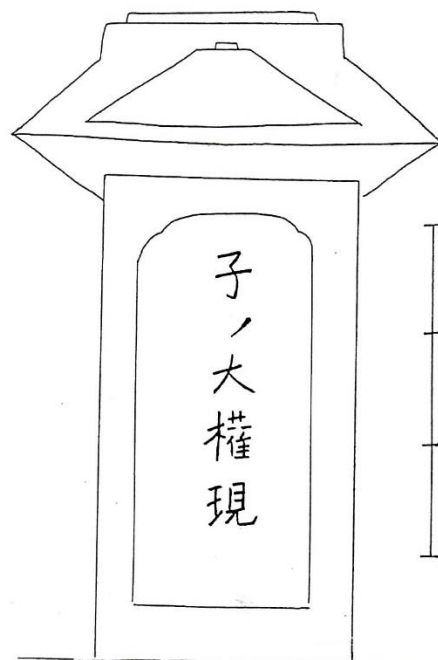


寛政9 (1797)

21 恩間

「子の権現」文字塔

恩間香取神社



22 恩間

猿田彦文字庚申塔

恩間香取神社



天保10 (1839)

23 恩間

文字庚申塔



恩間薬師堂

文化4 (1807)

24 恩間

文字庚申塔

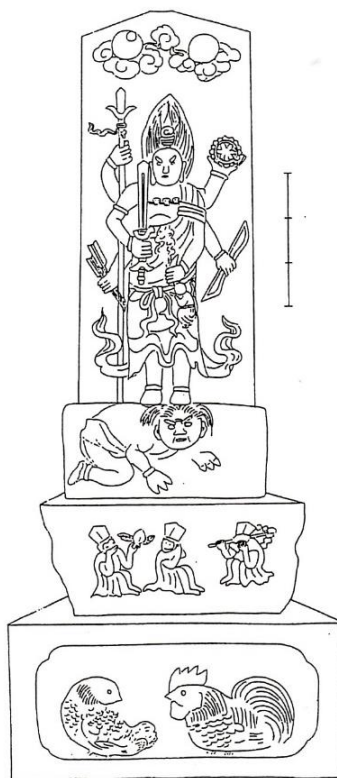


恩間薬師堂

享保15 (1730)

25 恩間

青面金剛像庚申塔

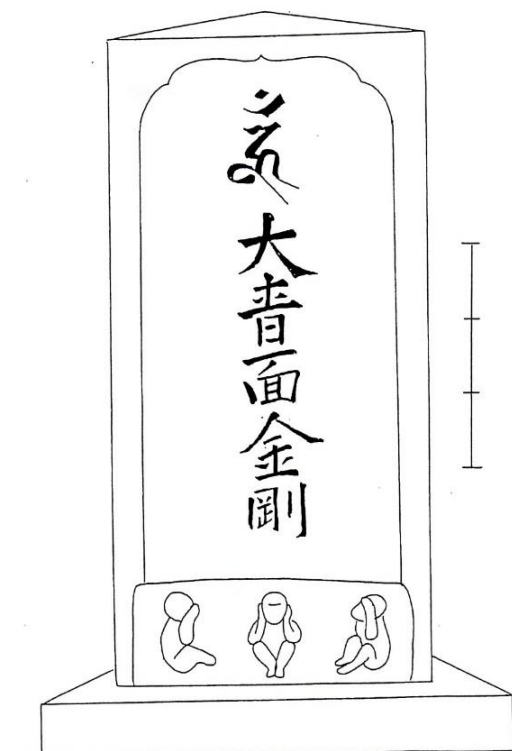


恩間薬師堂

嘉永元 (1848)

26 恩間

文字庚申塔



恩間薬師堂

寛政10 (1798)



27 恩間

文字庚申塔

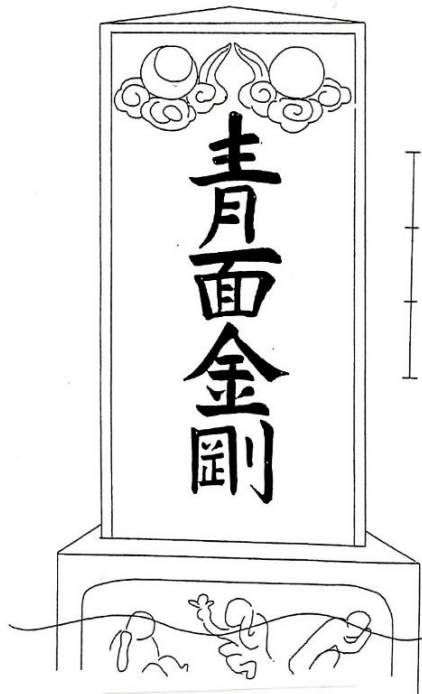


恩間薬師堂

文政4 (1821)

28 恩間

文字庚申塔

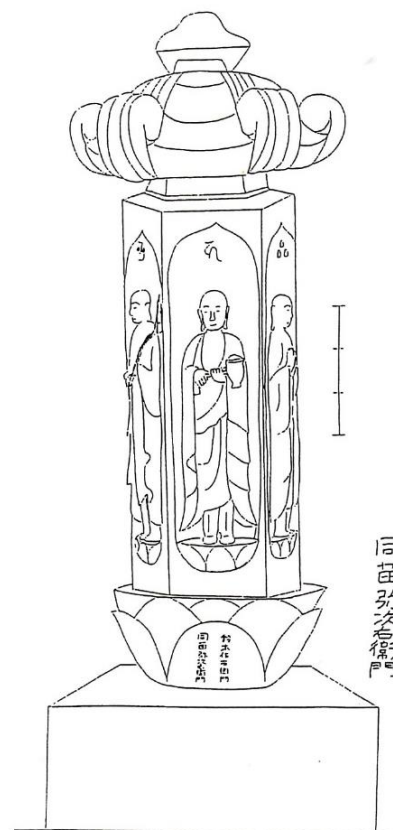


恩間薬師堂

文化15 (1818)

29 恩間

六地藏石幢



鈴木作右衛門

同苗弥次右衛門

恩間薬師堂

延享元 (1744)

30 恩間

六観音石幢



恩間薬師堂

明和4 (1767)



32 恩間

不動明王像

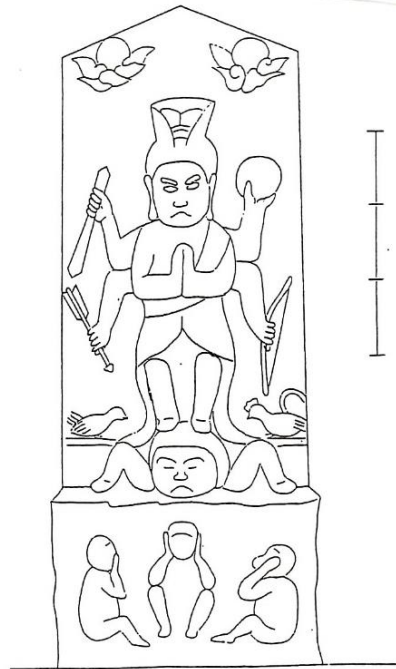


元禄12 (1699)

享保13 (1728)

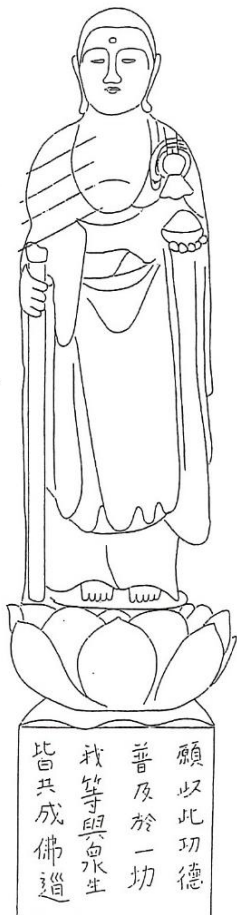
31 恩間

青面金剛像庚申塔



恩間地藏堂

寛延4 (1751)



34 恩間

丸彫り地蔵菩薩像



恩間地藏堂

33 恩間

文字庚申塔

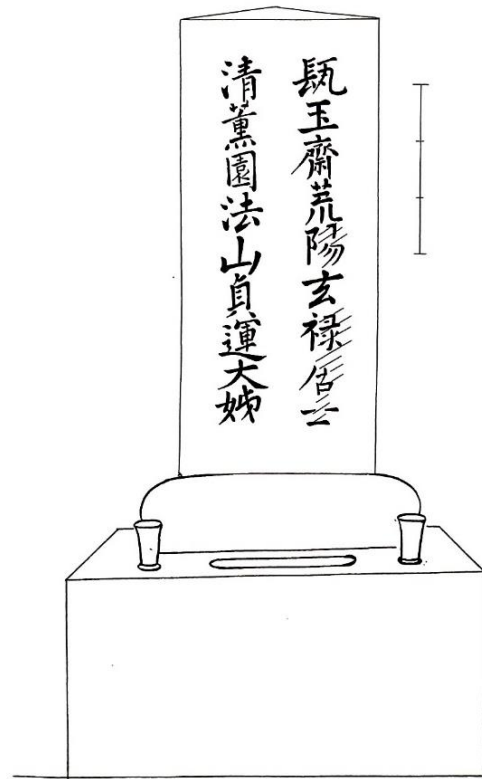


恩間地藏堂

文化13 (1816)

35 恩間

渡辺荒陽の墓塔

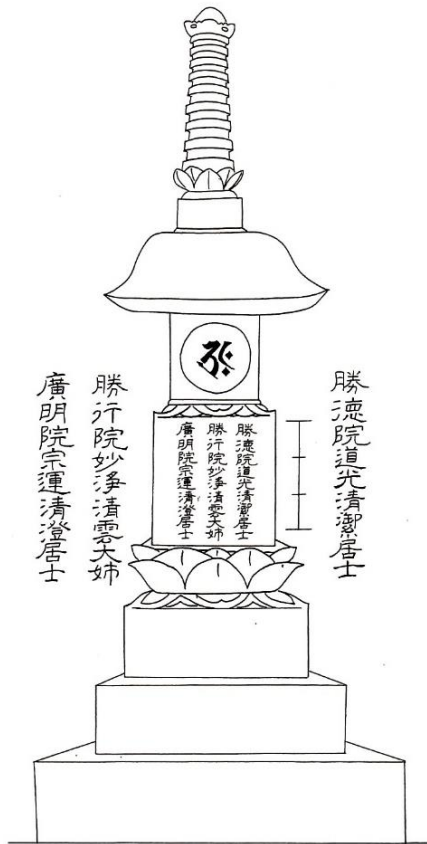


恩間地藏堂

天保9 (1838) 以降

36 恩間

渡辺家宝篋印塔



恩間地藏堂

元文4 (1793)

37 恩間

「馬頭観音」文字塔

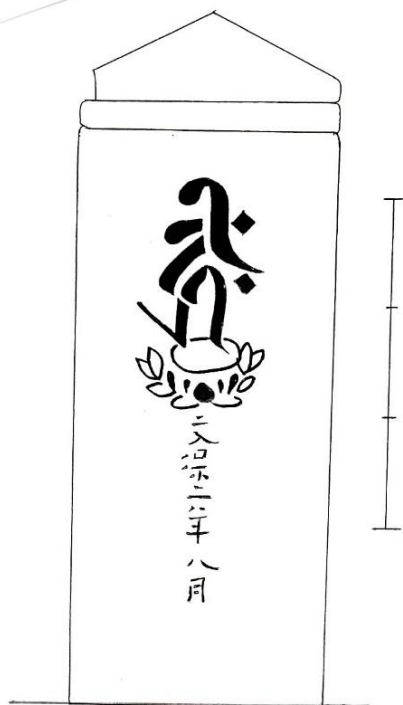


渡辺家「恩間五一—四」邸内

明和5 (1768)

[参考]

文保二年の板碑



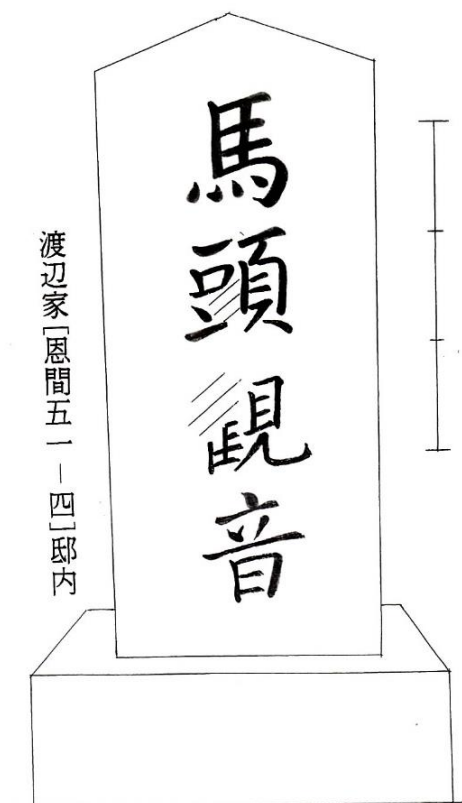
渡辺家「恩間五一—四」邸内

文保2 (1318)



〔参考〕

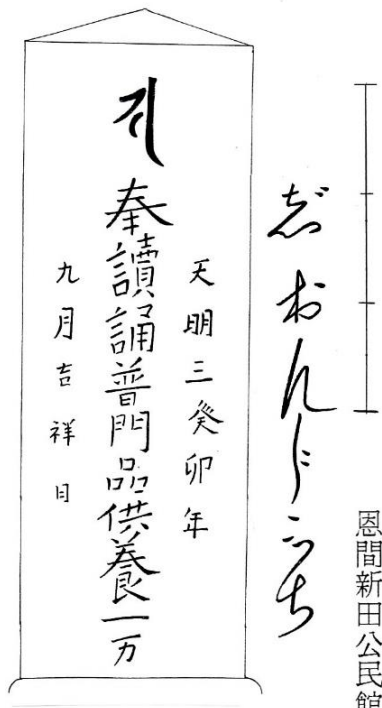
# 「馬頭観音」文字塔



明治4 (1871)

38<sup>恩間</sup>

# 道標付き普門品供養塔



天明3 (1783)

追加

39<sup>恩間</sup>

# 阿弥陀如来像

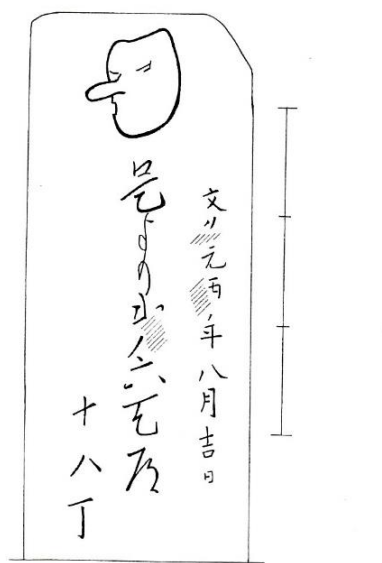


寛文3 (1663)

追加

40<sup>恩間</sup>

# 道標石塔



文久元 (1861)

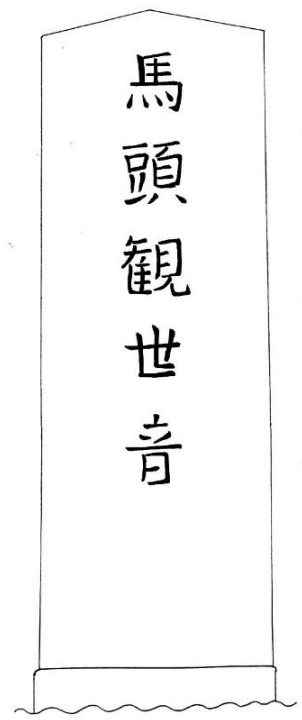
追加

恩間新田薬師堂

41 追加  
恩間

「馬頭觀音」文字塔

小島家「恩間新田七」西北西



安政6 (1859)

42 追加  
恩間

馬頭觀音菩薩像

小島家「恩間新田七」西北西



宝曆5 (1755)









13<sup>袋山</sup>

馬頭観音菩薩像

袋山観音堂

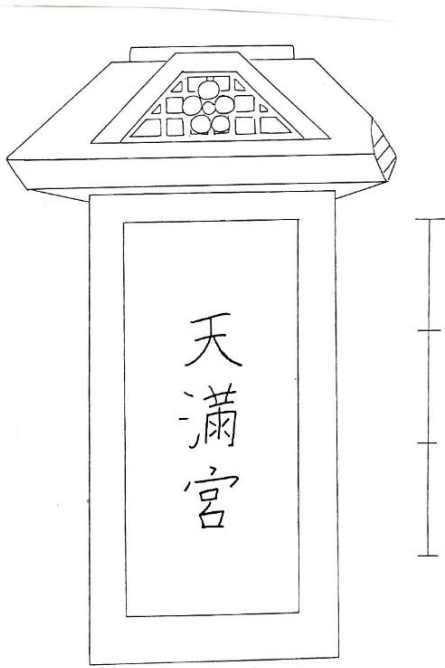


天明2 (1782)

14<sup>袋山</sup>

「天満宮」文字塔

袋山久伊豆神社

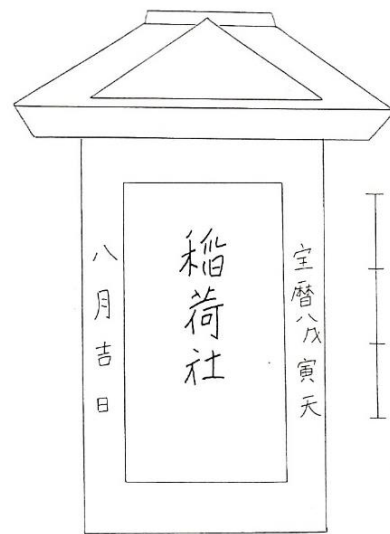


寛政7 (1795)

15<sup>袋山</sup>

「稻荷社」文字塔

袋山久伊豆神社

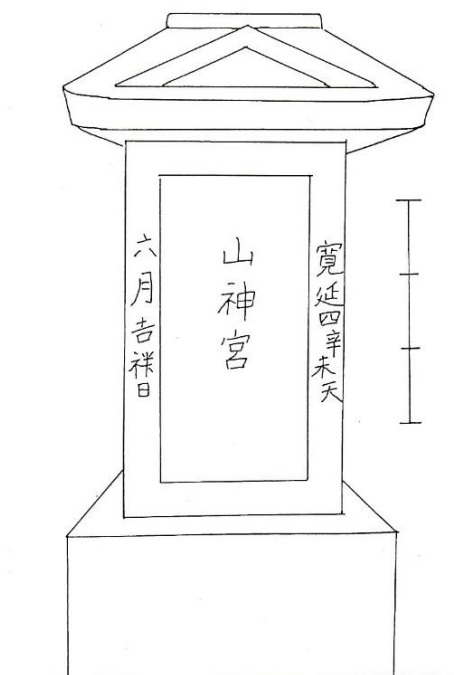


宝暦8 (1758)

16<sup>袋山</sup>

「山神宮」文字塔

袋山久伊豆神社



寛延4 (1751)

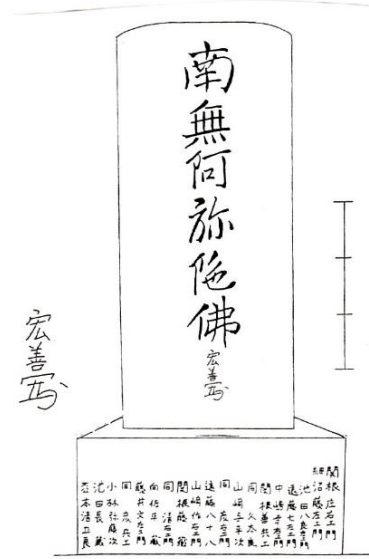




21<sup>袋山</sup>

# 名号塔

袋山釈迦堂



細根 庄右二門  
 池田 八良左門  
 遠藤 七左門  
 中崎 善兵衛  
 同 根善兵衛  
 同 久太良  
 同 崎与平次  
 同 彦右門  
 同 藤八十八  
 山崎 根藏  
 同 根藏  
 同 清右衛門  
 同 佐平藏  
 同 井文左門  
 同 茂兵衛  
 同 林弥次  
 同 田長藏  
 同 本清五良

天保2 (1831)、改刻 (明治5)

22<sup>袋山</sup>

# 不動明王像

袋山釈迦堂

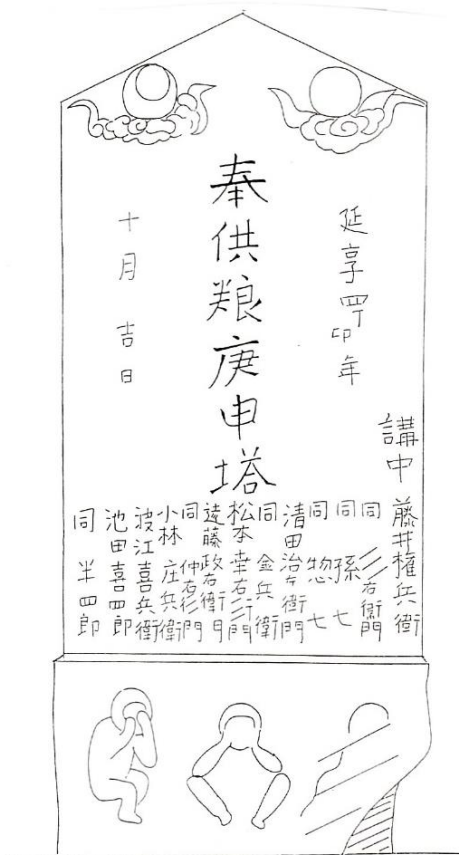


正徳2 (1712)

23<sup>袋山</sup>

# 三猿庚申塔

袋山釈迦堂

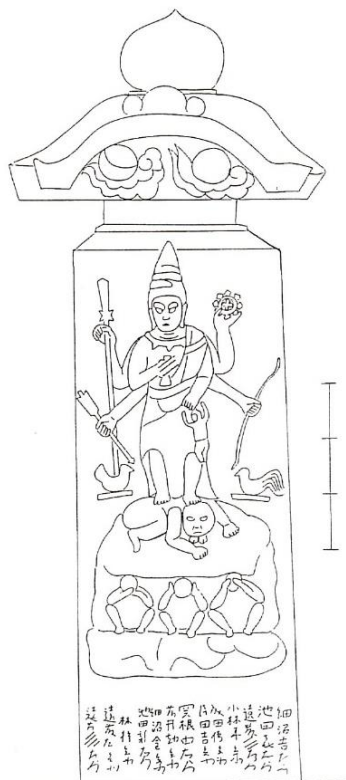


延享4 (1747)

24<sup>袋山</sup>

# 青面金剛像庚申塔

袋山釈迦堂

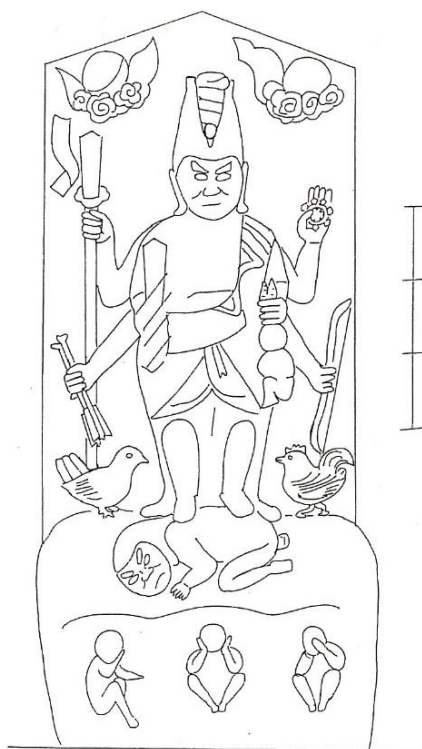


宝永3 (1706)

25<sup>袋山</sup>

青面金剛像庚申塔

袋山釈迦堂

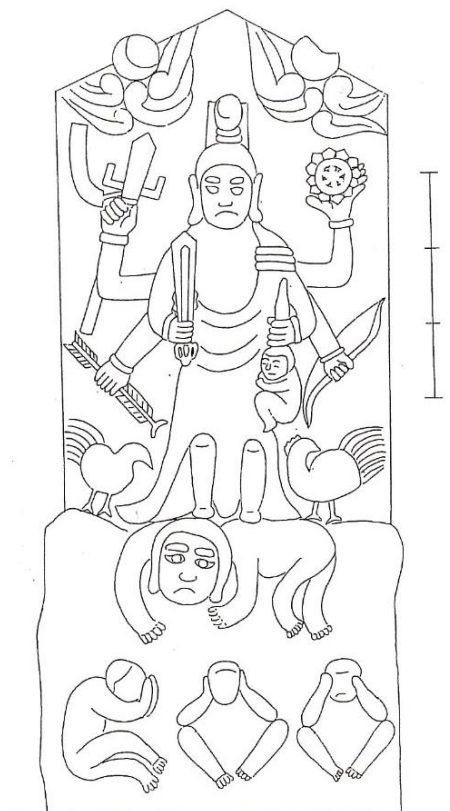


宝曆9 (1759)

26<sup>袋山</sup>

青面金剛像庚申塔

袋山釈迦堂



享保19 (1734)

27<sup>袋山</sup>

板碑型  
三猿庚申塔

池田三右衛門  
小林改兵衛  
坂橋記兵衛

立倉三右衛門  
小林其右衛門  
松本玄右衛門  
松本文左衛門

坂井仁左衛門  
清田四郎兵衛  
渡井大九郎  
小林三九郎



寛文8 (1668)

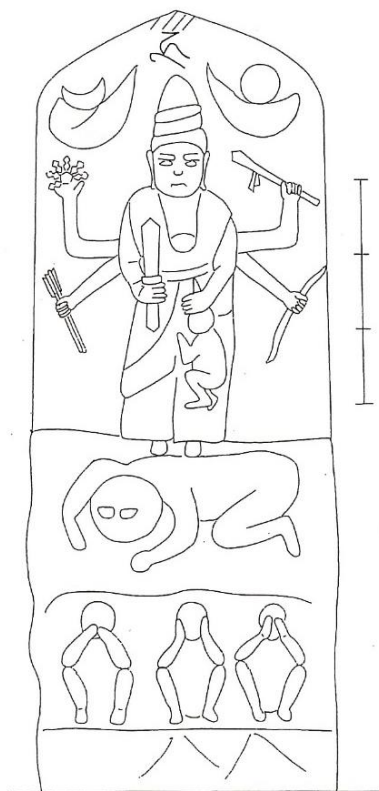
奉造立度申待結衆三猿所

袋山釈迦堂

28<sup>袋山</sup>

青面金剛像庚申塔

袋山釈迦堂



正徳3 (1713)





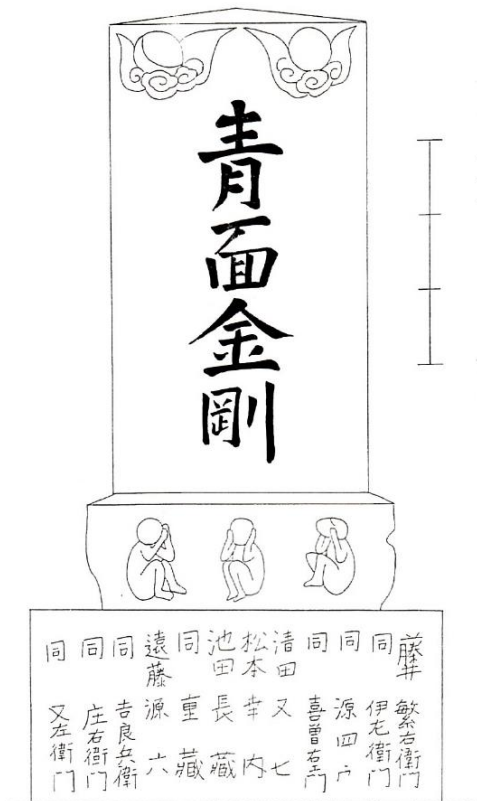


34<sup>追加</sup>袋山

地蔵菩薩像

遠藤家「袋山二五六―一」路傍

嘉永5 (1852)



33<sup>袋山</sup>

文字庚申塔

袋山釈迦堂

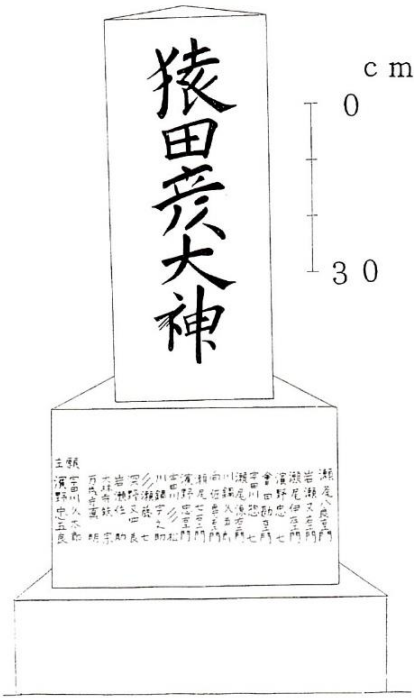
安永4 (1775)



2<sup>大林</sup>  
 猿田彦文字庚申塔

大林香取神社

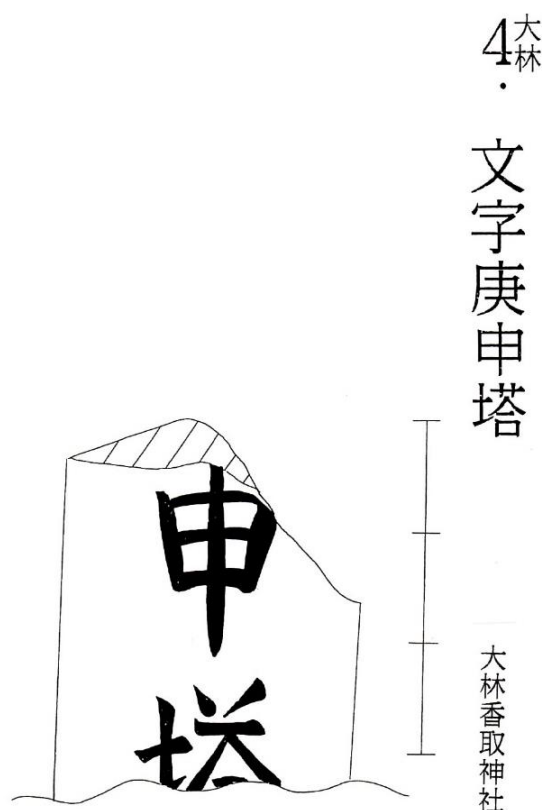
文政11 (1828)



1<sup>大林</sup>  
 猿田彦文字庚申塔

大林香取神社

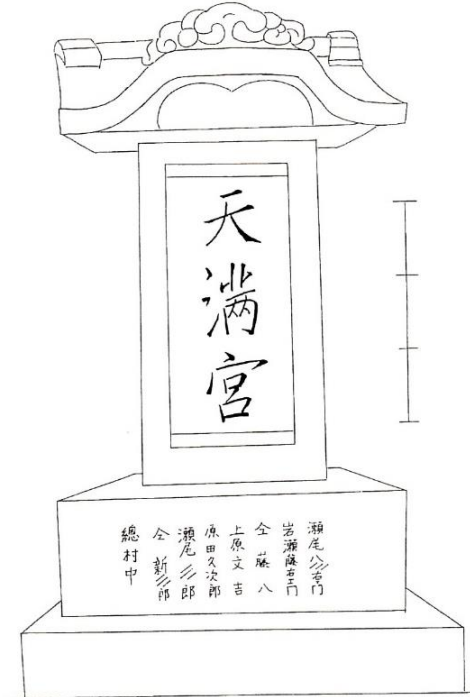
天保6 (1835)



4<sup>大林</sup>  
 文字庚申塔

大林香取神社

天保10 (1839) ?



3<sup>大林</sup>  
 「天満宮」文字塔

大林香取神社

瀨尾公孝門  
 岩瀬藤右門  
 全藤八  
 上原文吉  
 原田久次郎  
 瀨尾新三郎  
 全新三郎  
 總村中

5<sup>大林</sup>

### 文字庚申塔

大林香取神社



天明8 (1788)

7<sup>大林</sup>

### 「金毘羅權現」文字塔

飯山家「大林三〇五」邸内



文政11 (1828)

6<sup>大林</sup>

### 青面金剛像庚申塔

大林香取神社



享保5 (1720)

8<sup>大林</sup>

### 道標石塔

飯山家「大林三〇五」邸内



嘉永5 (1852)

(下部は破損し、現存しない。  
上部は見田方遺跡公園内に保管)

享保五庚子年九月吉日 武藏國須方領大林村

岩瀨 孫三  
會田 右三  
止原 次右衛門  
根本 八郎助  
宇田 弥三郎  
瀨尾 弥五郎  
濱田 忠三郎  
根本 藤左衛門  
會田 七郎左衛門  
根元 藤左衛門  
瀨尾 忠三郎  
宇田 弥三郎  
根本 八郎助  
會田 右三  
岩瀨 孫三

瀨尾(島居) 上原 孫三

岩瀨 又右衛門

會田 七郎左衛門

根本 藤左衛門

瀨尾 忠三郎

宇田 弥三郎

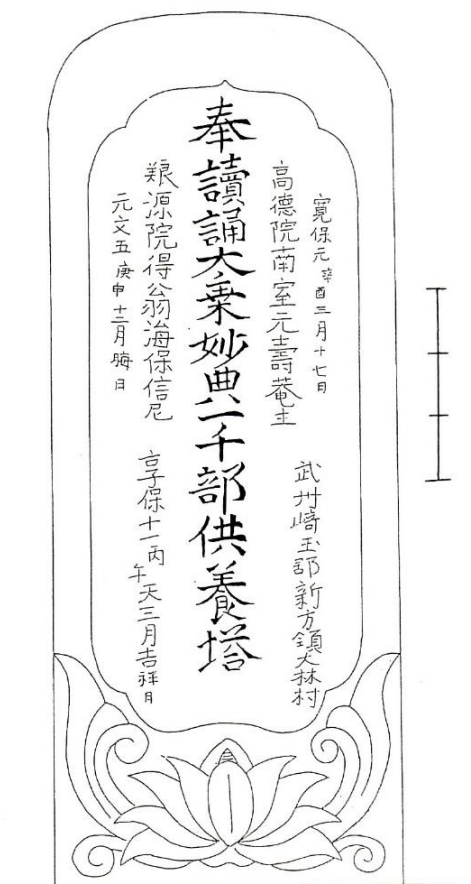
根本 八郎助

止原 次右衛門

會田 右三

岩瀨 孫三

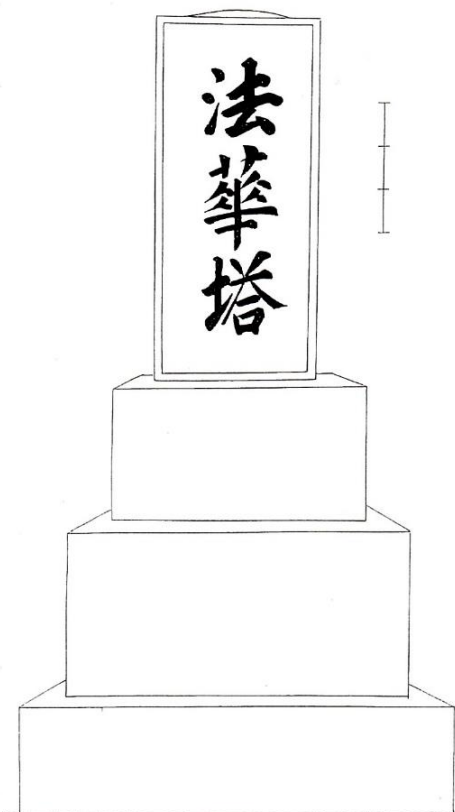
9. 大林 法華經供養塔



寛保元 (1741)

大林寺

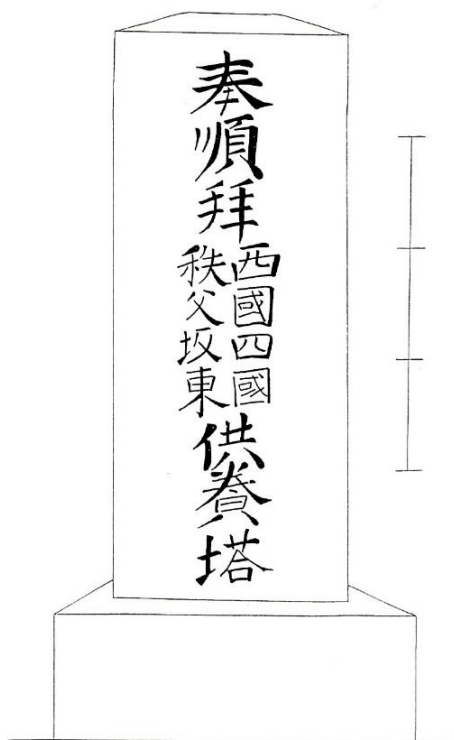
10. 大林 法華塔



文政2 (1819)

大林寺

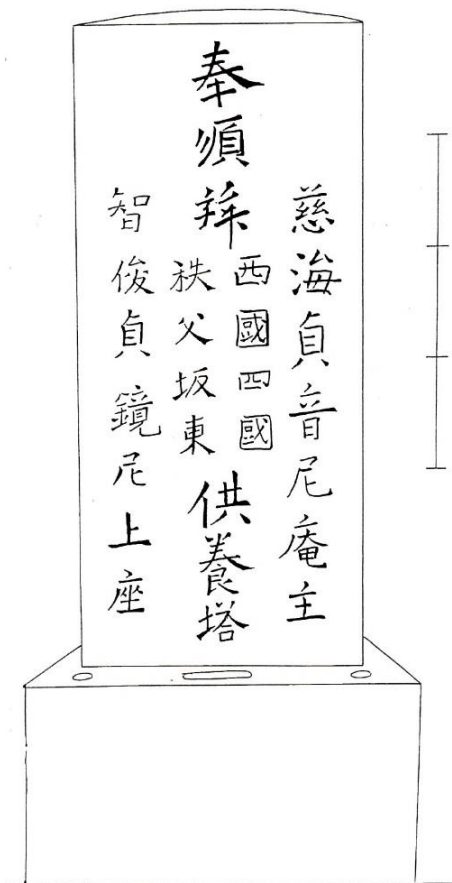
11. 大林 百八十八箇所巡礼塔



文政11 (1828)

大林寺

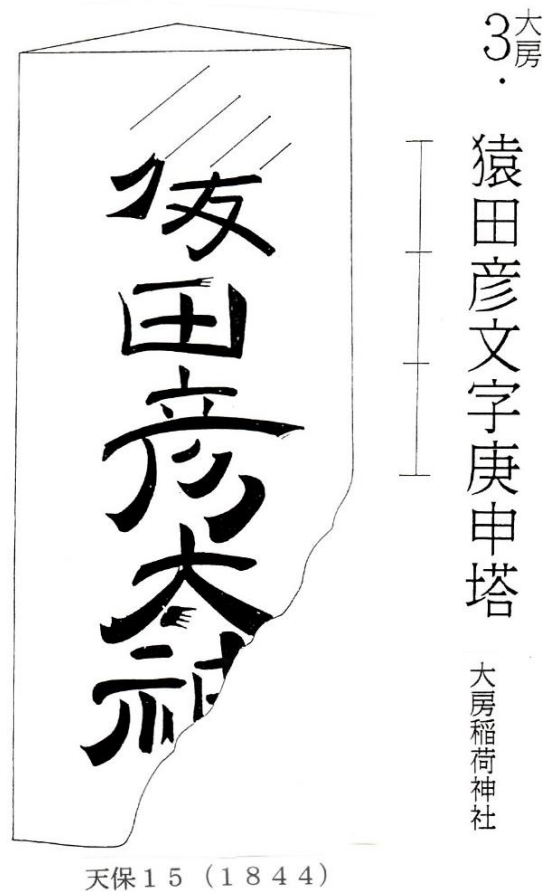
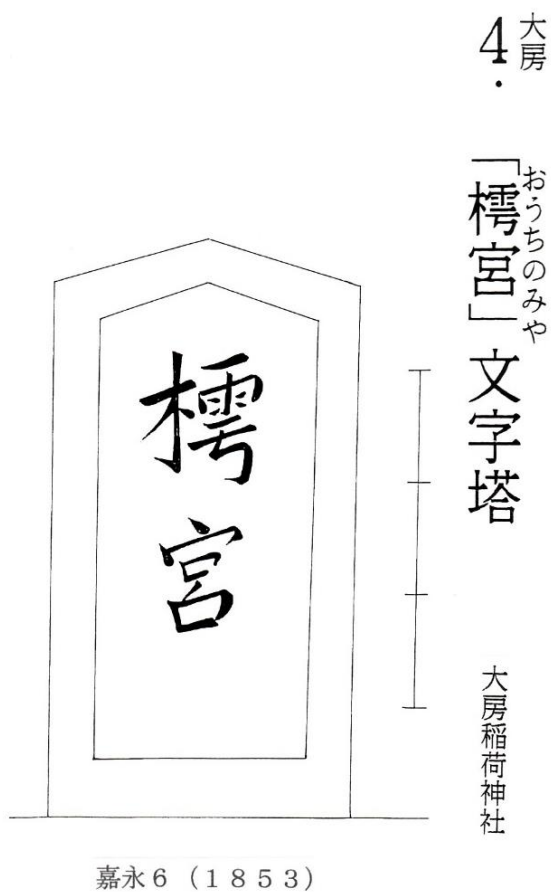
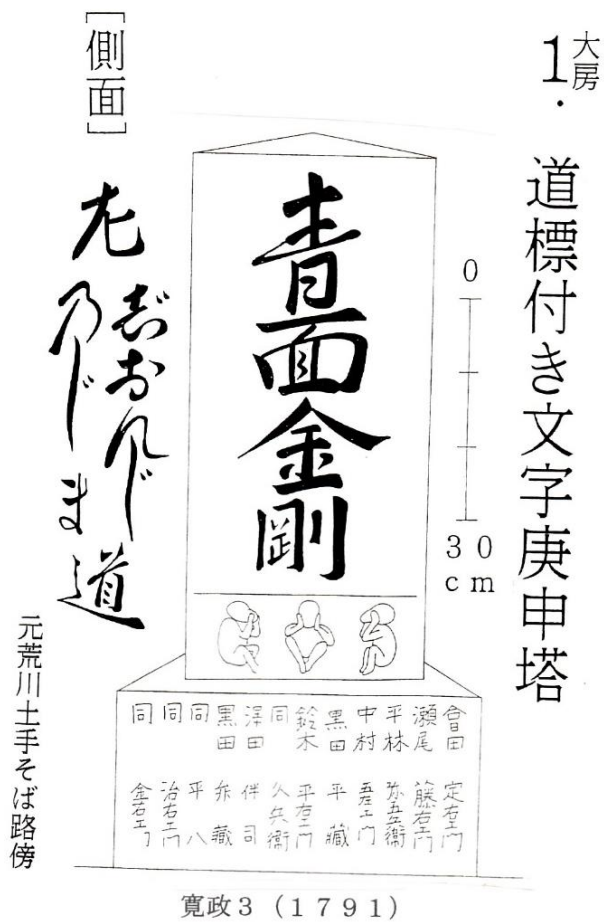
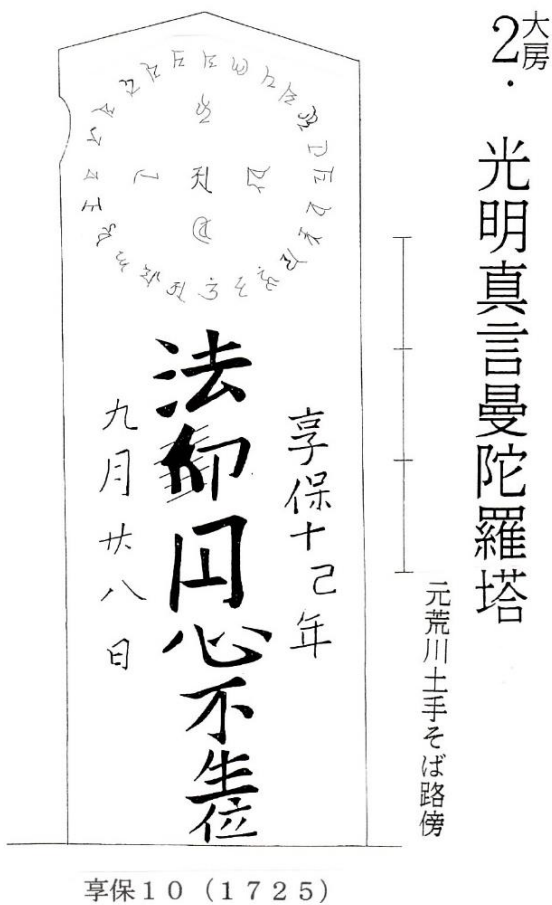
12. 大林 百八十八箇所巡礼塔



天保4 (1833)

大林寺

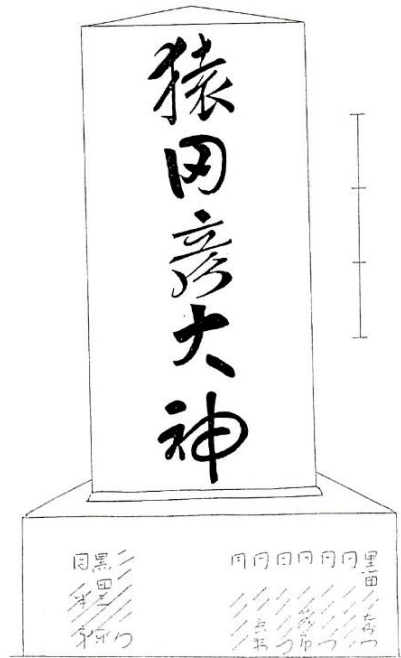




5大房

猿田彦文字庚申塔

大房稻荷神社

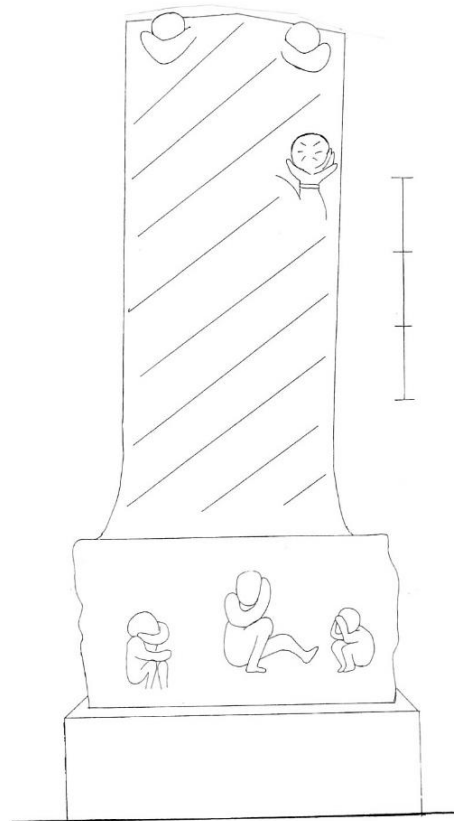


文政8 (1825)

7大房

青面金剛像庚申塔

大房稻荷神社



天保12 (1841)

6大房

青面金剛像庚申塔

大房稻荷神社



元禄6 (1693)

8大房

猿田彦文字庚申塔

大房稻荷神社



天保15 (1844)、改刻 (明治32年)

9<sup>大房</sup>

光明真言曼陀羅塔

浄光寺



享保6 (1721)

10<sup>大房</sup>

大房薬師堂の宝篋印塔

浄光寺



享保16 (1731)

經又曰復有衆生重  
 罪報故百病集身苦  
 痛遍心誦此神咒二  
 十一遍百病萬惱一  
 時消滅壽命延長  
 福德無盡矣

11<sup>大房</sup>

猿田彦文字庚申塔

浄光寺

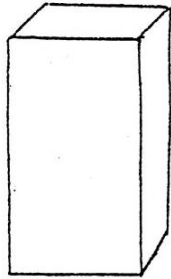


天保2 (1831)

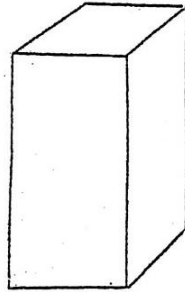
# 塔型分類

当資料では、石塔の型式の分類を以下のようにする。

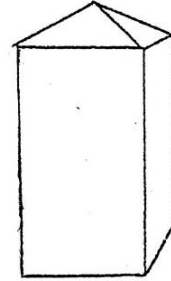
かくがた  
角型



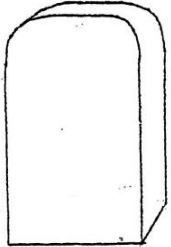
かくちゅうがた  
角柱型



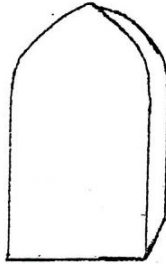
とうぶ  
頭部  
やまじょうかくがた  
山状角型



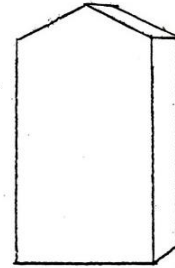
じょうぶ  
上部  
すみまるかくがた  
隅丸角型



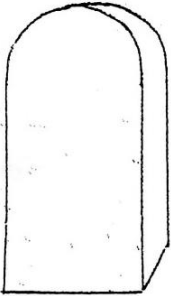
ふながた  
舟型



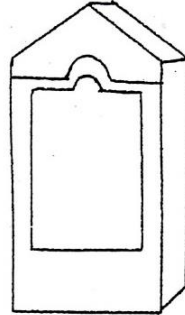
こまがた  
駒型



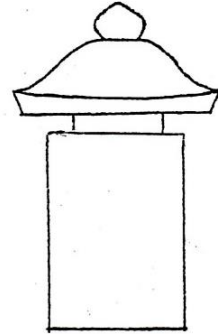
じょうぶまるがた  
上部丸型



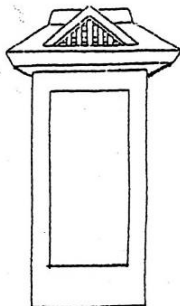
いたびがた  
板碑型



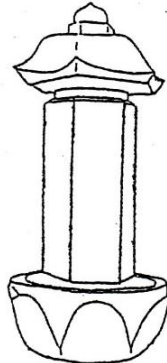
かさつきかくがた  
笠付角型



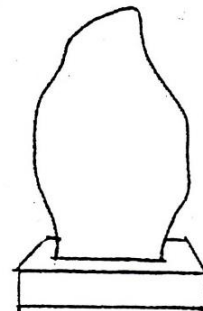
ほこらがた  
祠型



ろくめんせきどう  
六面石幢



しぜんせき  
自然石



また、石塔の高さの目安を以下のようにする。

「低」は ~50cm

「中」は 50cm~120cm

「高」は 120cm~200cm

「超高」は 200cm~



旧三野宮村の石仏

(1) 一乗院いちじょういん

山号は稻荷山という。参道入り口付近の北西側に稻荷社があるのはそのため。なお、近くに羽子板の羽根の玉の原料のムクロジが生えている。また慶長年間に建立された神奈川御殿の解体木材が元禄年間に末田の金剛院に移り、幕末に一乗院が火災焼失すると金剛院に使用されていた神奈川御殿の解体木材がさらに一乗院本堂の再建のために贈与された。現在、旧本堂にかわって新本堂が建立されたが、その新本堂内に神奈川御殿で使用された江戸初期の建具、一枚板戸や欄間が展示されている。

1. 不動三尊像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 三野宮・一乗院入口付近の不動堂  
石塔型式 浮彫り型（南西向き・高さは中）

年号 文久元年（一八六一）

〔左側面〕

〔台石〕

文久元年 辛酉年  
九月吉日

〔正面〕

〔台石〕

（不動明王像）（二童子像）

〔右側面〕

三野宮村中

〔台石〕

世 惣治郎  
話 彦治郎  
人 新助  
富五郎

※不動明王と制多迦童子の頭髮に赤色が塗られていた痕跡がある。二童子を着色する場合、矜羯羅（こんがら）は白、制多迦は赤である。※本堂向かって右側の入口付近には『故山口半兵衛先生之碑』（大正十一年）が、左側には『故埼玉県巡查田口久五郎之墓』（明治二十四年）の石塔がある。

2. 「白山権現」文字塔（『越谷市金石資料集』白山二番）

所在地 三野宮・一乗院入口付近の稻荷社  
石塔型式 上部丸型（南西向き・高さは低）

年号 嘉永三年（一八五〇）

〔左側面〕

嘉永三戌年  
八月吉日

〔正面〕

白山大権現

〔右側面〕（不明）

※白山は加賀国（石川県）の国境にある修験者の修行する山で、白山講を組織して白山への信仰登山が行われたりした。

3. 「子権現」文字塔（『越谷市金石資料集』その他一四番）

所在地 三野宮・一乗院入口付近の稻荷社  
石塔型式 角型（南西向き・高さは低）

年号 不詳

〔左側面〕

（解説不能）

〔正面〕

（梵字バク）子即至大権現社

〔右側面〕

岩付三之宮村  
一乗院有照

※子聖大権現（ねのひじりだいごんげん）は『子の権現』とか『子の神』といひ、紀伊国阿氏長者が天長九年（八三二）子歳の十月子日子刻に生んだ子という。

4. 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申九二番）

所在地 三野宮・一乗院の参道  
石塔型式 駒型（南東向き・高さは高）

年号 享保十六年（一七三二）

〔正面〕

奉造大青面金剛

（梵字バク）（日月）（青面金剛像）（鬼）（二鶏）（三猿）

享保十六年 辛亥十一月一日三野宮村中

5・普門品供養塔（『越谷市金石資料集』普門品二番）  
所在地 三野宮・一乘院の参道  
石塔型式 頭部山状角型（南東向き・高さは高）  
年号 文政八年（一八二五）

〔左側面〕

三ノ宮村講中

文政八乙酉二月吉祥日

〔正面〕

天下泰平

（梵字キヤ）普門品十万巻供養塔

国土安全

〔右側面〕

ぶつえんを  
むすべどさくか  
いとざくら

世話人 榎本市良右エ門  
坂巻万右エ門

〔台石〕  
根岸権左エ門  
同 藤兵エ  
山口熊次良  
尾崎清右エ門  
榎本彦右エ門  
須賀久右エ門  
同 長左エ門  
倉橋八左エ門  
同 次良  
金子清左エ門

〔台石〕  
尾崎幸之進  
坂巻文蔵  
向佐五良左エ門  
同 五良兵エ  
同 六次良  
坂巻甚内  
同 幸右エ門  
同 吉左エ門  
同 嘉右エ門  
同 十次良  
同 森田弥惣次  
同 長左エ門  
同 久左エ門  
同 忠右エ門  
同 勝右エ門  
同 清五郎

〔台石〕  
金子甚兵エ

6・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二六一番カ）  
所在地 三野宮・一乘院の参道  
石塔型式 頭部山状角型（南東向き・高さは中）  
年号 天保四年（一八三三）

〔左側面〕

天保四癸巳正月吉日

〔正面〕

（日月）青面金剛（三猿）

〔右側面〕

三ノ宮村

講中

世話人

〔台石〕  
坂巻内きよ  
須賀内ほの  
同 々せき  
倉橋々ふち  
金子々ゆり  
同 々はる  
尾崎々とみ  
根岸々さき  
同 々しし  
坂巻々ひさ  
同 々のよ  
鈴木々よし

〔台石〕  
尾崎内かう  
坂巻々そて  
坂本々まつ  
榎本々まつ  
坂巻々てつ  
同 々はつ  
同 々きん  
同 々みよ  
同 々さん  
同 森田々さん  
同 同々かん  
同 同々この  
小嶋々まつ

※「内」とは内儀のこと。越谷市金石資料集の庚申塔二六一番には年号が「天保二・三・吉」と記載されている。「天保四・正・吉」の誤りか。

7・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二三八番カ）  
所在地 三野宮・一乘院の参道  
石塔型式 頭部山状角型（南東向き・高さは高）  
年号 安政二年（一八五五）

〔左側面〕

天下泰平国土安穩

風雨順時五穀豐饒

〔正面〕

〔日月〕 庚申申塔

〔右側面〕

安政二卯年 三ノ宮村

九月吉日 講 中

〔三猿〕

〔台石〕

根岸内

尾崎内

山口内

川内

山内

鈴木内

小賀内

須賀内

同賀内

倉橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

同橋内

※越谷市金石資料集の庚申塔二三八番には年号が「文政二・九・吉」と記載されている。「安政」の誤りか。

8・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二一八番）

所在地 三野宮・一乘院の参道

石塔型式 笠付角型（南東向き・高さは中）

年号 文化四年（一八〇七）

〔左側面〕

文化四丁卯歳

〔台石〕

講中

尾崎内

坂巻内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

〔台石〕

セ八人

講中

尾崎内

坂巻内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

同内

〔正面〕

〔日月〕

（青面金剛像）

（鬼）

〔右側面〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔右側面〕

〔日月〕

（青面金剛像）

（鬼）

〔左側面〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔右側面〕

〔日月〕

（青面金剛像）

（鬼）

〔左側面〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔台石〕

〔三猿〕

〔正面〕

天下和順 元文二丁巳年道周信土相州三浦郡下宮田村

(梵字サ)奉納大乘妙典日本回国六十六部供養

日月清明 十一月吉辰旦妙周信女本願善覺

〔台石〕  
大戸村  
須加村  
大森村  
三ノ宮村  
宿坂巻平六  
おすて  
大谷村  
大口村  
増長村  
大野嶋村

〔右側面〕

三野宮村

安永二癸巳十一月吉日 講中

10・出羽三山供養塔(『越谷市金石資料集』出羽三山一四番)

所在地 三野宮・一乘院の参道

石塔型式 祠型(南東向き・高さは中)

年号 嘉永四年(一八五二)

〔左側面〕  
天下泰平 国土安全  
五穀成就

〔正面〕  
月山

湯殿山

羽黒山

〔右側面〕

嘉永四辛亥年十二月吉日

11・青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申三二八番カ)

所在地 三野宮・一乘院の参道

石塔型式 駒型(南東向き・高さは中)

年号 安永二年(一七七三)

〔左側面〕  
奉造立大青面金剛尊像一軀天下泰平  
風雨順時庚申講中村内安穩如意圓滿也

〔正面〕

(日月) (青面金剛像) (鬼) (三猿)

※越谷市金石資料集の庚申塔三二八番には年号が「不詳」と記載されている。「安永二・十一・吉」の誤りか。

12・宝篋印塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 三野宮・一乘院の墓地入口

石塔型式 宝篋印塔(南西向き・高さは高)

年号 不詳、天和・貞享・元禄年間頃(二六八〇年代)と推定

〔左側面〕

宝篋印陀羅尼経曰  
若有有情能於此塔種  
植善根必定阿耨多羅  
三藐三菩提不退轉乃  
至應隨阿鼻地獄者若  
於此塔一禮拜一圍繞  
必得解脫皆得不退轉  
若人斬見是塔一切皆  
除其處亦無人馬牛疫

〔正面〕

(梵字アク)

童子童女疫亦不為非  
命所夭亦不為刀杖水  
火所傷亦不為他敵所  
役讎鐘所逼厭魅咒禱  
不能得便四大天王與  
諸眷屬晝夜衛護二十  
八部大樂必將及日月  
幢雲慧屋晝夜護持一  
切龍王如其精氣矣

法印賢誓

かそ□は□□むよよみいつす  
□め□□ん□め□しやのやて



〔裏面〕

又云若人作塔或土石  
水金銀赤銅書此法要  
安置其中纒安置已其  
塔即為七宝所成上下  
階階露槃傘蓋鈴鐸網  
綴純為七宝其塔四方  
如来形相亦復如是則  
一切如来神力所持乃  
至一切諸天守衛供養

(梵字タラク)

※宝篋印塔は、例えば梵字のキリークは西に向き、アクは北に向くが、  
この宝篋印塔では決まり通りの向きに設置されていない。  
※歴代住職墓地に元禄四年(一六九一)九月三日没の法印賢譽の五輪塔  
の墓石がある。

13・馬頭観音菩薩像(『越谷市金石資料集』馬頭一番)

所在地 三野宮・一乗院の墓地入口  
石塔型式 駒型(南西向き・高さは高)

年号 享保十五年(一七三〇)

〔正面〕

奉造立馬頭観世音像一軀日參三百箇日供養成就処

(梵字カン) (馬頭観音像)

享保十五庚戌天八月十八日 本願主 善覺

〔台石〕

大野嶋  
増長村  
大口村  
大谷村  
大戸村  
須賀村  
大森村  
三ノ宮村  
日参往来施主村名  
長宮村  
増戸村  
増富村  
下蛭田村  
花堤村(花積村)  
慈恩寺  
平野村

14・丸彫り地藏菩薩像(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 三野宮・一乗院の墓地入口  
石塔型式 丸彫り型(南西向き・超高)

年号 天保十五年(一八四四)

〔左側面〕

願主 超先信女  
天保十五辰 歳七月吉日  
惣成 施主中

〔正面〕

〔台石の正面〕

(地藏菩薩像)

経曰

若三途にあはんもの此ほさつ(菩薩)に  
□□(ある)して躰を見名を聞シの人天  
道に在て其名を聞□□の現の  
果報を得□後ハ仏土に生云

〔左側面〕

〔台石の右側面〕

廿五世

當院 法印快舜代  
葉山氏  
向佐氏

※さらに向かつて左側隣には年代不詳の六地藏石幢(『越谷市金石資料集』に掲載なし)がある。

裏面は幢幡を持つ地藏、左側面は天蓋を持つ地藏、左側の正面は合掌する地藏、右側の正面は柄香炉を持つ地藏菩薩像、右側面は数珠を持つ地藏、裏面は宝珠と錫杖を持つ地藏をそれぞれ表している。

15・光明真言供養塔(『越谷市金石資料集』真言一二番)

所在地 三野宮・一乗院の本堂前の無縁仏群  
石塔型式 笠付角型(南東向き・高さは高)

年号 天保十年(一八三九)

〔左側面〕

天保十己亥年九月穀旦  
三ノ宮村  
天長地久蒼生安居  
五風十雨穀米豊登

〔正面〕

(金剛界大日像)

(梵字『*ॐ・ॐ・ॐ・ॐ・ॐ・ॐ*』)

光明真言百万遍供養塔

講中

〔正面台石〕  
森田治良 □  
榎本林 蔵  
金子清五 良  
根岸五 蔵  
尾崎沢右 工門  
倉橋八左 工門  
坂卷李左 工門  
向佐仙之助

(胎藏界大日像)

(梵字『*ॐ・ॐ・ॐ・ॐ・ॐ・ॐ*』)

〔右側面〕

もろとも に

蓮の雲や

夕もみち

一学子

そで みな ゆり てつ ほのと ひさと みよさん

※梵字は十三仏を表す梵字(種子)である。また「蓮」は「はちす」と読む。「夕もみち」は「夕もみち」と読む。  
※この左隣(向かって右側)に明治二十七年三月建立の『普門品十萬巻供養塔』がある

16・弘法大師一千年御忌供養塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)  
所在地 三野宮・一乗院の本堂前の無縁仏群  
石塔型式 角型(南東向き・高さは高)  
年号 天保五年(一八三四)

〔左側面〕

(梵字・大日如来の真言『*ア・ビ・ラ・ウン・ケン*』)

〔正面〕

弘法大師一千年御忌供養塔

〔右側面〕

天下泰平五穀成就

〔裏側面〕

天保五甲午三月二十一日一乗密院廿四世廣賢代

※一乗院の北方、鈴木家(三野宮五二七)前の道路挟んで反対側の尾崎家(三野宮五四三)路傍に、明治二十五年八月七日建立の『馬頭観世音』と刻まれた文字塔がある。

### (2) 三野宮古香取神社

三野宮の香取神社は三野宮村の鎮守で、神社の境内には三基の力石が残されている。うち二基は日本一の力持ちとして知られる向佐卯之助が持ち上げた嘉永元年(一八四八)の「奉納 大盤石三之宮卯之助持之」と嘉永二年の「奉納 白龍石 三之宮卯之助持之」である。  
この神社前の元荒川と平行に走る道は、古老によると昔は元荒川の土手道であり、現在の土手道「県道大野島・越谷線」は元荒川の左岸の河原の中に作った中土手であるとの言い伝えがあるという。

17・天神像(『越谷市金石資料集』天神一七番)

所在地 三野宮・香取神社

石塔型式 祠型(南東向き・高さは中)

年号 安政五年(一八五八)

〔左側面〕

安政五年年

筆子中

十二月吉辰

〔正面〕

〔正面の台石〕

三野宮村  
坂巻巳之助  
同平内  
同安兵衛  
森田佐五右工門  
金子勇吉  
同常右工門  
森田庄  
坂巻文  
金子由  
坂巻助右工門  
同重次郎  
同佐重郎  
同熊多郎  
同富士右工門

〔左側の台石〕

榎本市 □ 助  
向佐安 蔵  
根岸藤兵衛  
鈴木城四郎  
須賀八内  
向佐そよ  
森田幸吉

〔右側面〕

〔右側の台石〕

大森村  
小沢源 助  
同 弥五郎  
村  
神垣に  
春をとなりや  
梅の華  
一学  
尾崎幸三郎  
森田多吉  
向佐多次郎  
同 卯之助

※卯は卯と同じ

※筆子の中に『向佐卯之助』の名前が刻まれているが、これは日本一の力持ちと言われた三之宮卯之助(嘉永七年没)の息子であろうか。

18. 『妙見・筑波山両権現』文字塔(『越谷市金石資料集』妙見二番)

所在地 三野宮・香取神社

石塔型式 笠付角型(南東向き・高さは高)

年号 嘉永三年(一八五〇)

〔左側面〕

嘉永三 戊 年九月吉日

天下泰平国土安穩

〔正面〕

主願 榎本市良左エ門  
坂巻幸次郎  
同 文右エ門  
森田勘 蔵  
根岸百 杉

秩父

妙見星神

筑波山両大権現

永々々代参

〔右側面〕

熊野宮山敷壹畝五歩七厘  
寄附之

※妙見信仰とは、北斗七星(または北極星)を信仰の対象とする中国の北辰信仰と仏教とが習合したものである。主に秩父氏や千葉氏などが厚く信仰していた。

※筑波山両権現とは筑波山の西の峰にある男体(イザナギのみこと)と東の峰にある女体(イザナミのみこと)の両方の権現様(二神)をさす。

19. 『水神社』文字塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 三野宮・香取神社

石塔型式 駒型(南東向き・高さは高)

年号 不詳

〔正面〕

水神社

〔右側面〕

セ 坂巻榮 蔵  
ハ 金子清五郎  
人 坂巻孫次郎

20. 『稻荷大明神』文字塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 三野宮・香取神社

石塔型式 駒型(南東向き・高さは低)

年号 天保九年(一八三八)

〔正面〕

天保九戌二月初午

正一位稻荷大明神

〔右側面〕

坂巻吉蔵

21. 『稻荷大明神』文字塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 三野宮・香取神社

石塔型式 角柱型(南東向き・高さは中)

年号 元文五年(一七四〇)

〔左側面〕

元文五 庚 申二月吉祥日

〔正面〕

稻荷大明神

〔右側面〕

奉納石燈籠

三ノ宮村  
大道村  
大竹村  
恩問村  
大森村

※さらに南西側の隣に二基の不明(年代不詳)の石塔が対になって安置されている。もとは三野宮橋そばの倉橋家(三野宮三五一番地)東側路傍にあった。一乗院と倉橋家前の間を金子酒店(三野宮三九七番地)側に弓なりに曲がったかつての道を残して真っすぐな道にしたときに、その新道路にかかるために移転してきたものである。







〔右側面〕

八月吉日

施主

高砂組

(4) 森田家(三野宮二四八)前の路傍

27・青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔一三四番)

所在地 三野宮・森田家(三野宮二四八番地) 前の路傍

石塔型式 駒型(南西向き・高さは中)

年号 明和三年(一七六六)

〔正面〕

明和三丙 戌天 施主

三ノ宮村

(青面金剛像)

二月廿九日

森田佐七

28・道標付き観音菩薩像(『越谷市金石資料集』掲載なし)

所在地 三野宮・森田家(三野宮二四八番地) 前の路傍

石塔型式 駒型(南西向き・高さは低)

年号 元文五年(一七四〇)

〔正面〕

いわつき道

森田佐五右、門

(正観音菩薩像)

元文五庚申八月吉日

〔右側面〕

ちおんじ道

※『金石資料集』では、庚申塔として一〇三番に誤記されている。

(5) 森田家(三野宮一九四)入口

29・青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 三野宮・森田家(三野宮一九四番地) 入口

石塔型式 頭部山状角型(南西向き・高さは中)

年号 天保十年(一八三九)

〔左側面〕

天保十己亥年二月吉日

〔正面〕

(日月)(青面金剛像)(鬼)(三猿)

世話人

森田長兵衛

金子久右エ門

向佐五良左エ門

〔右側面〕

三ノ宮村

高砂組中

※三野宮香取神社の北にある向佐家(三野宮二七〇番地)の邸内には、明治四年造立の『無者権子成久』と刻まれた石塔、明治十二年造立、九十歳唯心の書による『雷電神』文字塔、大正十三年十月に向佐裕四郎氏が造立した『馬頭観世音』文字塔が安置されている。

(6) 森田家(三野宮一九一)邸内

30・『妙見菩薩』文字塔(『越谷市金石資料集』妙見一番)

所在地 三野宮・森田家(三野宮一九一番地) 邸内の祠

石塔型式 祠型(西向き・高さは中)

年号 文政四年(一八二二)

〔左側面〕

文政四巳年九月

〔正面〕

抱卦童子 七十二

妙見大菩薩

示卦童郎 靈

〔右側面〕

森田勘

※他に、安政四年二月造立の稲荷大明神文字塔(駒型)、昭和九年九月造立の『正一位稲荷 鬼子母神、猿田彦大神』と三人の神様を刻んだ石塔(駒型)も安置されている。

また邸内には『妙見宮』と刻まれた年代不詳の文字塔(角型)がもう一基ある。

※以上の他に森田家前の路傍には、明治二十四年九月十日の馬頭観音文字塔(『金石資料集』馬頭三七番)がある。

(7) 森田家(三野宮四四七)そば橋脇

31・文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔二七八番)

所在地 三野宮・森田家(三野宮四四七)そば須賀用水に架かる橋脇

石塔型式 頭部山状角型(東向き・高さは中)

年号 天保十年(一八三九)



〔右側面〕

願主

榎

※牛頭天王とは、八坂神社（祇園社）の神で、素戔鳴尊（すさのおのみこと）をさしている。

36・「土公神」文字塔（『越谷市金石資料集』になし）

所在地 三野宮（新田）・榎本家（三野宮一九七二番地）そば  
石塔型式 角型（北東向き・高さは低） ※上部に笠が載せてある

年号 嘉永五年（一八五二）

〔左側面〕

嘉永五子年四月

榎本與市郎

〔正面〕

土公神

※土公神（どくうじん・どくじん・どくじん）とは、陰陽道で、土をつかさどる神。土公（どこう）ともいう。この神が土中にいる時期に、例えば、春はカマドに、夏は門に、秋は井に、冬は庭にいて、その場所の土を動かせば祟りがあるという。また、この神の遊行の方角に向かって土木工事を行うことも忌む。かまどの神ともされている。

（9） 須賀家（三野宮一九七二）前の新方川

37・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二八二番）

所在地 三野宮（新田）・須賀家（三野宮一九七二番地）前の新方川  
石塔型式 角型（北西向き・高さは低）

年号 弘化二年（一八四五）

〔左側面〕

弘化二巳年十一月吉

〔正面〕

（金立）

奉納青面

〔右側面〕

榎本

38・石橋供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 三野宮（新田）・須賀家（三野宮一九七二番地）前の新方川  
石塔型式 上部隅丸角型（南西向き・高さは中）

年号 明和三年（一七六六）

〔正面〕

（地藏座像）石橋造立立供養塔  
三ノ宮村々中  
並當橋組中

〔右側面〕

明和三丙戌歲正月吉日

39・地藏菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 三野宮（新田）・須賀家（三野宮一九七二番地）前の新方川  
石塔型式 上部隅丸角型（南西向き・高さは中）

年号 文化十三年（一八一六）

〔左側面〕

寛保四子年造立及石

世 榎本市

〔正面〕

（地藏菩薩立像）

このみちへのこ  
花のせや

このみちへのこ  
花のせや

〔右側面〕

尾崎幸之進

坂卷文八

向佐良左エ門

根岸権左エ門

山口与四良

須賀長 蔵

同 喜七

同 平兵衛

同 茂右エ門

同 倉橋八左エ門

同 向佐十五郎

同 坂巻幸右

同 藤左エ門

同 弥兵衛

同 弥七良

同 平四郎

同 金右エ門

〔正面〕

（日月）（青面金剛像）（二鶏）（鬼）（三猿）

〔右側面〕

元文四己未十一月十七日

三野宮村

長兵衛  
源四良  
又四良  
次兵衛  
久兵衛

※□は「草」か



41・道標石塔（『越谷市金石資料集』道標九番）  
所在地 三野宮（新田）・須賀家（三野宮一九七一番地）前の新方川  
石塔型式 駒型（南西向き・高さは低）  
年号 嘉永五年（一八五二）

〔左側面〕

嘉永五子 年八月吉辰

あき

〔正面〕

東かすかべ一り半

六十圓□□

落葉にも

西のしま廿丁

西しおんじ二り

近□（よ）る頃や

手引石

〔右側面〕

北の道

坂巻栄次郎  
榎本与市郎  
須賀松九郎  
倉橋次郎

※東は粕壁、西は野島、西は慈恩寺、北は野道を示している手引き石  
（道しるべの石塔）である。

※石橋そばにあるこれらの石仏・石塔はもとは別の所にあった。現在の  
新方川（千間堀）は、かつてはここより道路を南に約七十五メートル  
程いった地点に流れていた。そこに橋が架かっている、その橋のふも  
とにこれらの石仏・石塔があったという。かつての橋のそばにあった  
石仏・石塔は須賀家によって現在地に移されたのである。

42・「稻荷大明神」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 三野宮（新田）・須賀家（三野宮一九七一）邸内

石塔型式 駒型（南東向き・高さは中）

年号 文化四年（一八〇七）

〔正面〕

文化四卯二月吉日

稻荷大明神

願主須賀長左門

### 写楽と法光寺

江戸時代の謎の浮世絵師として、人気の高い、東洲斎写楽に関する資料  
（過去帳）が、平成九年六月、徳島市「写楽の会」の調査によって、当、  
法光寺にて発見されました。

「今日山 法光寺」は、元和三年（一六一七）に江戸浅草横山町に創建  
されました。明暦三年（一六五七）の大火の後、江戸築地に移転し、同地  
で三百有余年の歴史を重ね、その後、平成五年に越谷市に再移転した、浄  
土真宗本願寺派の寺院です。

さて、写楽は、寛政六年（一七九四）から七年にかけての十ヶ月間に、  
百四十種あまりの役者絵などを残し、忽然と姿を消しました。

写楽については、天保十五年（一八四四）、江戸考証家・斎藤月岑（げっ  
しん）が「増補浮世絵類考」の中で、「写楽 天明寛政年中の人 俗称  
斎藤十郎兵衛 江戸八町堀に住す 阿波侯の能役者也 号東洲斎」との  
記述を残している。

この月岑の記録から、写楽・十郎兵衛説が有力であったが、生没年など  
が不詳で、十郎兵衛の輪郭がいまひとつはつきりしなかったため、写楽の  
正体について、諸説が取りざたされてきました。

しかし、当寺の江戸時代の過去帳、文政三庚辰年（一八二〇）の部の中に、  
斎藤十郎兵衛に関する記載が発見され、写楽・十郎兵衛説を書いた過去の  
記述を、証明することとなりました。

過去帳には、「辰三月七日 釋大乗院覚雲居士 八町堀地蔵橋 阿州殿  
御内 斎藤十郎兵衛事 行年五十八歳 千住ニテ火葬」と記されていた。

さらに、斎藤家代々について調査した結果、寛文八年（一六六八）から  
明治初期に至る約二百年の間に、およそ三十名の記録が確認され、斎藤家  
と菩提寺法光寺との密接な関係が推察されることとなりました。

よって、古来より言われてきた写楽・十郎兵衛説が実証され、この説の  
信憑性も一段と深まりました。

平成十年 法光寺

※法光寺（越谷市三野宮1336）は、獨協埼玉中・高校そばにある。

〔法光寺所蔵の過去帳〕

辰三月七日  
釋大乗院 覺雲居士

八町堀地蔵橋  
阿州殿御内  
斎藤十郎兵衛事  
行年五十八歳  
千住ニテ火葬



旧大道村の石仏

(1) 旧・竹屋商店周辺路傍

竹屋商店北東隣に貞治六年(一三六七)の『七字題目板碑』がある。竹屋商店は、現在、大道二八〇一六に移転している。

1. 地藏菩薩像(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 三野宮・竹屋商店(大道三五番地) 北東の村境路傍

石塔型式 舟型(東向き・高さは低)

年号 安永五年(一七七六)

〔正面〕

幻空童子 安永五 甲 五月廿八日

(地 蔵 菩 薩 像 )

秋巖童子 安永五 甲 七月廿九日

※川島豊店(大道三番地)の北側の路傍にあるが、栗原家(竹屋商店、大道三五番地)所有の敷地(三野宮)に建てられている。

※現在は、一乗院の無縁仏群に移転する(前から2列目、中央右寄り)。

2. 道標付き普門品供養塔(『越谷市金石資料集』普門品一三番)

所在地 大道・栗原家(竹屋商店、大道三五番地) 北東元荒川側路傍

石塔型式 頭部山状角型(東向き・高さは中)

年号 文化六年(一八〇九)

〔左側面〕

こしがや道

〔正面〕

(梵字サ) 文化六己巳年

(梵字セ) 奉読誦普門品五万巻供養塔

(梵字サク) 三月 吉祥 日

〔右側面〕

まくり二十丁

大道村講 中

3. 道標石塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大道・栗原家(竹屋商店、大道三五番地) 北東元荒川側路傍

石塔型式 駒型(東向き・高さは中)

年号 不詳

〔左側面〕

こしがやみち

〔正面〕

(一仏座像) ちおんじみ □ (ち)

〔右側面〕

まくりみち

(2) 『寮』(大日堂)の墓地

地元では『寮』と呼ばれる、十一面観音像を安置する真言宗のお堂があり、以前はここに古老が集まって念仏などを唱えていた。この『寮』を『大日堂』とも呼んでいた。

4. 地藏像付き墓塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大道・『寮』(大日堂)の墓地

石塔型式 駒型(北東向き・高さは中)

年号 寛保三年(一七四三)

〔正面〕

寛保三 亥 六月廿一日

道印清信士

延享元 子 天

妙温清信女

六月十六日

妙印清信女

傳次

※この石塔は、夫の没年は刻まれているが、妻の没年が刻まれている。母が生前の時に息子の傳次が姉妹の妙音清信女のために前年に亡くなつた父親の道印清信士と共に二人の没年を刻んで供養したものである。

(3) 上手組管理の香取社

元は、北々東へ三十メートル程に奥まった地点にあった。大正年間に参拝しやすようと道路側に移転した。現在は、開発に伴い、さらに消滅した。庚申塔のみ大道の香取神社に移転し保存されている。

5. 青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大道・上手組(わでぐみ)管理の香取社

石塔型式 頭部山状角柱型(南西向き・高さは高)

年号 文政三年(一八二〇)

〔左側面〕

〔左側台石〕

川嶋庄右エ門

栗原政之助

同 新 蔵

同 平左エ門

同 庄 蔵

同 幸 蔵

同 清 八

同 徳左エ門

同 栗原弥次右エ門

同 鈴木紋右エ門

同 儀左エ門

同 与四郎

同 大武忠 蔵

同 小林弥右エ門

文政 三 庚 辰 年

青 面 金 剛

十二月 吉日

〔正面〕

(日月) (青面金剛像) (鬼)(三猿)

〔右側面〕

〔正面台石〕  
 栗原勸次良  
 鈴木綱右エ門  
 川嶋平右エ門  
 同 宇右エ門  
 栗原富右エ門  
 中村政右エ門  
 栗原半六  
 同 金  
 川嶋伊之助  
 小林要蔵  
 同 半三良  
 同 要右エ門  
 河原喜右エ門  
 栗原佐左エ門  
 〔右側台石〕  
 同 金右エ門  
 同 吉右エ門  
 川嶋兵左エ門  
 同 勇蔵  
 栗原権七  
 同 金兵衛  
 同 金蔵  
 鈴木藤吉  
 川嶋文右エ門

庚 申 塔

大道村講中

(4) 鈴木木家 (大道六五) 路傍

6. 霊神墓塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)  
 所在地 大道・鈴木家 (大道六五) 路傍、現在は新築鈴木家邸内  
 石塔型式 角型 (南西向き・高さは中)  
 年号 弘化三年 (一八四六)  
 〔左側面〕

弘化三丙 午年七月廿五日

〔正面〕

政英彦 霊神

※霊神とは、一般には霊験あらたかな神という意味で、明神の位より低い。ここでは、亡くなられた人の神号「政英彦」の下に「霊神」の語を付けて、「政英彦」を神として敬ったものである。もしかしたら、京都の吉田神社の卜部氏に願い出て付けたのかもしれない。

(5) 鈴木木家 (大道一〇八) 邸内

7. 「荒神」文字塔 (『越谷市金石資料集』荒神二番)  
 所在地 大道・鈴木家 (大道一〇八) 邸内、現在は新築鈴木家邸内の祠  
 石塔型式 祠型 (南西向き・高さは中)  
 年号 享和二年 (一八〇二)  
 〔左側面〕

享和二壬 戌年

〔正面〕

荒神 神 宮

〔右側面〕

九月吉 □

※荒神 (こうじん) とは、荒々しくて祟りの多い神様とされ、カマドを守る神とされる三宝荒神 (さんぼうこうじん) をさすと思われる。  
 ※なお、大道一〇八の鈴木家の道路の反対側に、大道一〇四の鈴木家がある。この鈴木家の北東隣には今はなき稻荷社があった。  
 その稻荷神社に通じるかつての道は、大道八四の栗原家の西側脇より鈴木家と栗原家の敷地の境に沿っていた。

かつての稻荷神社の名残は、現在、大道集会所の南側にある祠である。

(6) 川島家 (大道一六一) そば用水路

8. 「馬頭観音」文字塔 (『越谷市金石資料集』馬頭二五番)  
 所在地 大道・川島家 (大道一六一) そば用水路田圃側  
 石塔型式 駒型 (東向き・高さは中)  
 年号 天保十五年 (一八四四)  
 〔左側面〕

天保十五年正月吉日

〔正面〕

馬頭観世立音

〔右側面〕

大道村

川嶋平左エ門

※ここにはこの他に、明治廿六年九月に川島忠蔵によって造立した馬頭観音文字塔 (『馬頭観世音』と刻まれている) もある。互いに向き合っている。

(7) 大道香取神社

9・猿田彦文字庚申塔(『越谷市金石資料集』猿田彦四番)  
所在地 大道・香取神社(大道村の鎮守)  
石塔型式 頭部山状角型(北西向き・高さは高)  
年号 文化十二年(一八一五)  
[左側面]

[左側台石]

村中安全主

[正面]

[正面台石]

およね  
おつゆ  
おさよ  
おきよ  
おきち  
おとめ  
おりん  
おとし  
お□と  
おひめ  
おまつ  
おつね  
おもよ  
おし  
お□ん  
およし  
おるい  
おいく

川嶋平左エ門  
栗原長八  
小林要蔵  
栗原半六  
小林初右エ門  
栗原伝次  
同 権兵衛  
川嶋勇蔵  
同 藤左エ門  
同 忠次良  
栗原政五良  
同 庄蔵  
同 幸蔵  
同 徳左エ門  
同 栗原弥次右エ門  
同 鈴木政右エ門  
同 儀左エ門

(日月) 猿田彦大神

(三猿)

[右側面]

[右側台石]

文化十二乙亥三月吉日

10・文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申二一五番)  
所在地 大道・香取神社  
石塔型式 頭部山状角型(北西向き・高さは中)  
年号 文化三年(一八〇六)  
[正面]

(日月) 庚申 申  
[右側面]

文化三年十一月吉日

小林弥右エ門  
栗原七五良  
鈴木長左エ門  
同 宇右エ門  
栗原富右エ門  
同 半右エ門  
同 喜左エ門  
同 与左エ門  
同 叶次  
同 長右エ門  
川原次助  
同 伊助  
栗原次右エ門  
鈴木伊右エ門  
栗原権七

※香取神社そばの大道集会所の南側の小山あたりから集会所の和室あたりにかけては、富士浅間信仰の大きな富士塚があった。小山はかつての富士塚の名残といえる。

※この小山の正面頂上に、明治廿五年十二月造立の高さが一四一センチの『浅間神社』と草書体で刻まれた自然石の石塔がある。剣道と書道に秀でた幕末明治の偉人、山岡鉄舟による書である。また、近くには明治四十年四月に造立の高さが一〇五センチ(台石の高さは除く)の『御嶽神社』栗原永喜揮書と刻まれた自然石の石塔、年代不詳の高さ六三センチの『小御岳大神』と刻まれた自然石の石塔や稲荷社の祠もある。『浅間神社』と刻まれた石塔は次の通りである。

◎浅間神社文字塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)  
所在地 大道・香取神社  
石塔型式 自然石(東南東向き・高さは高)  
年号 明治二十五年(一八九二)



〔正面〕

〔正面台石〕  
北足立郡

神根村大字木曾野  
先達 石井佐喜次良  
同郡 野田村大字大崎  
先達 井上 正  
協先達 高橋長治良  
当所世話方

川島住 〇  
栗原金治郎  
井上茂十郎  
小林茂左エ門

### 浅間神社

(山に丸参の富士講のマーク)

伊 藤

当所結社

正四位山岡鐵太郎拜書

川島代治良  
同 市 蔵  
同 幸 八  
同 〇 兵 五  
鈴木馬 〇  
栗原彌 〇  
大武新治郎  
小林彌右エ門  
同 志 太郎  
鈴木高三良  
栗原梅 吉  
川島彌 助

〔裏面〕  
明治廿五年十二月建立

※明治初期の廃仏毀釈の影響で大道村の帰命院が廃寺となったが、現在の大道香取神社の南側隣の畑地にあった。つまり香取神社と帰命院は隣であった。帰命院の本尊は不動明王である。現在、その名残として鈴木家(大道八九)そば路傍に、帰命院の本尊と思われる不動明王像やその二童子の片方である杵窺羅童子像などが祀られた祠がある。  
※なお、大道地区に屋号が「薬師様」と呼ばれる栗原家(大道二七九)がある。栗原家所有の高さが一七・五センチの厨子入りの薬師如来座像(明治十五年に栗原梅吉氏が手に入れる)が庭にある祠に納められている。戦前・戦後と地元での信仰が盛んであった。

### (8) 川原家(大道一八四)前の路傍

11. 「土荒神」文字塔(『越谷市金石資料集』荒神六番)  
所在地 大道・川原家(大道一八四)南方の路傍、赤塗石製鳥居そば  
現在は、新築川原家邸内の鳥居そば  
石塔型式 祠型(東向き・高さは低)  
年 号 不詳

〔正面〕

土荒神

※「土荒神(どこうじん)」とは「土公神」のことであろう。なお邸内に年代不詳の「井戸水神」の文字石塔がある。

### (9) 八坂神社そば路傍

12. 道標付きの文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔二六七番)  
所在地 大道・八坂神社そばの道路南側路傍  
現在は、道路北側の大道二四八の二三の路傍に移転した。

石塔型式 頭部山状角型(南東向き・高さ高)  
年 号 天保四年(一八三三)

〔左側面〕

〔左側台石〕  
栗原佐 〇  
栗原喜 〇  
栗原富 〇  
同 吉 〇  
同 勘 〇  
鈴木八 〇  
栗原岩 〇  
同 吉 良  
同 次 右  
川嶋文 右  
同 林 右  
栗原長 三  
川嶋勇 〇  
同 亥 之  
鈴木勸 左  
川嶋武 右 〇  
同 庄 〇  
栗原文 次  
川嶋徳 左 〇

天保四 癸 巳 年 三 月 吉 日

北のミチ

〔正面〕

庚 申 塔 石

小倉前中納言 〇 季實男 〇 紫永退書  
(要カ) (賜カ)

〔正面台石〕  
(三猿)



〔右側面〕

七 八 人

東まくり

大 道 村

南いわつき



※北は野道、東は間久里、南は岩槻を示している道しるべも兼ねた庚申塔である。

(10) 八坂神社

13・「天神」文字塔（『越谷市金石資料集』天神三番）

所在地 大道・八坂神社

石塔型式 祠型（西向き・高さ中）

年 号 天明三年（一七八三）

〔左側面〕

天明三 癸 卯 正月吉日

〔正面〕

天満大自在天神

〔右側面〕

大道村

講 中

※天満天神とは、学問の神である菅原道真をさす。

14・「荒神宮」文字塔（『越谷市金石資料集』荒神一番）

所在地 大道・八坂神社

石塔型式 祠型（東向き・高さ中）

年 号 明和七年（一七七〇）

〔左側面〕

明和七 庚 寅 三月吉日

〔正面〕

如来荒神宮

〔右側面〕

□仙造立之

□仙造立之

(11) 八坂家（大道四八七）

八坂家には江戸時代に本尊が阿弥陀如来の真言宗の寺院、「天王山正福院」が置かれていたが、明治初期の廃仏毀釈で廃寺となる。そして遷俗して大道村内の神社や大戸の第六天の神職を務めた。初代は「（は）め」、二代は琴之助、三代は実（じつ）と昭和十八年頃まで受け継いだ。この正福院は弘法大師の札所巡りである武蔵国八十八箇所三十一番として栄えたようである。廃寺後は三野宮の一乗院が代って三十一番となったと思われる。この札所巡りは明治十七年頃より南足立郡、北足立郡、埼玉郡の三郡にまたがるので、『三郡送り大師』として復活し大いに盛んになった。お遍路さんが地元の大道路二五八の川島家（屋号は「米屋」や大道一七六七の川島家（当時は大道六九の地にあつた、屋号は「たぢやさん」）に立ち寄ったという。

15・観音菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大道・八坂家（大道四八七）墓地

石塔型式 舟型（西向き・高さ高）

年 号 元禄十六年（一七〇三）

〔正面〕

権大僧都法印秀翁  
（梵字サ）（正 観 音 菩 薩 像）

元禄十六 癸 未十二月廿日

16・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大道・八坂家（大道四八七）敷地内

石塔型式 笠付角型（東向き・高さ高）

年 号 元文五年（一七四〇）

〔左側面〕  
奉供養大道村中

〔台石左側面〕

牛込  
石屋四郎右衛門

〔正面〕

〔日月〕 (青面金剛像) (鬼) (三猿)

〔右側面〕

元文五 庚申年

(12) 川島家 (大道二二二) 路傍

17. 梵字庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔二五五番)

所在地 大道・川島家 (大道二二二) 入口の路傍

現在は、大道二二二の三に移転し新築した邸内にある。

石塔型式 頭部山状角型 (西向き・高さ中)

年号 文政十年 (一八二七)

〔左側面〕

〔左側台石〕

文政十丁亥四月吉日

栗原文 蔵

同 長右五門

同 佐左五門

同 伝次郎

同 富蔵

同 吉右五門

同 仙蔵

鈴木藤 吉

栗原吉良兵衛

川嶋宗次郎

川原喜右五門

河嶋勇 蔵

栗原平次郎

同 茂右五門

川嶋庄右五門

大武八之助

〔正面台石〕

〔正面〕

〔日月〕 (梵字ウーソ)

〔三猿〕

〔右側面〕

〔右側台石〕

栗原半

鈴木栄

同 網右五門

川嶋伊之助

栗原勤五良

鈴木紋 蔵

小林仙次良

栗原繁次郎

鈴木八五郎

栗原勤次郎

大武庄次郎

小林弥右五門

川嶋幸 蔵

栗原政之助

大道村

※大道一七六七の川島家には、大正年間の馬頭観音の石仏がある。

正面は「馬頭観世音」、右側面は「大正貳年十一月吉日 川島清松」

と刻まれた高さ四九センチ、幅三三センチ、奥行一五センチの駒型の

石塔である。

(13) 小林家 (大道一四、現・千間台西五一四)

18. 普門品供養塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大道 (新田)・小林家 (屋号『観音経』大道一四) 路傍

石塔型式 頭部山状角柱型 (南向き・高さ高) 現・千間台西五丁目

年号 文政六年 (一八二三)

〔左側面〕

(梵字アク) 光明真言二百萬遍供養

唱主

造主者

〔正面〕

(梵字サ) 並目門口叩供養長塔

〔右側面〕

真月観光沙彌誦主

覺法明果大姉願主

〔裏側〕

文政癸未年二月吉日

大道新田

小林市右五門

造立焉

※小林家は屋号を『観音経（かんのんぎょう）どん』と代々呼ばれているが、それは小林家の先祖（市右衛門）が観音経を熱心に信仰したためであるという。この石塔はそのことを物語るものである。

19・道標付き石橋供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）  
所在地 大道（新田）・小林家（屋号『観音経』大道一四）路傍  
石塔型式 不明（駒型カ、南向き・高さ低） 現・千間台西五丁目  
年号 明和二年（一七六五）

〔左側面〕  
是々 右ぢざう道

〔正面〕  
明和二年 十月吉日 願主善教  
奉建 立石橋供養塔

岩付領大道村□□村中

※この石橋供養塔は小林家の田の中（大道新田稻荷神社南東、現在の千間台西五―二一）にあったものである。

※この他に、高さ五七センチ、幅二五センチ、奥行一八センチの、年代不詳の駒型の馬頭観音文字塔がある。正面は『馬頭観世音』、右側面には「小林氏建之」と刻まれている。

（14）大道新田稻荷神社

この神社のもとあった位置は、今の社の東隣（現在の道路上）であった。

20・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔三二〇番）  
所在地 大道（新田）・稻荷神社  
石塔型式 駒型（東向き・高さ高）  
年号 享保元年（一七一六）

〔正面〕

〔正面台石〕  
小林甚兵衛

川名□□

川名市三郎

加藤市□□門

中山伝左衛門

享保元年

九月吉日

川嶋平兵衛

川名□□門

村上清右門

村上太郎兵衛

（日月）（青面金剛像）（鬼）（二鶏）（三猿）

21・普門品供養付き庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二六三番）  
所在地 大道（新田）・稻荷神社  
石塔型式 頭部山状角型（東向き・高さ中）  
年号 天保三年（一八三二）

〔左側面〕

〔左側台石〕  
世 小林茂左門

井上茂助

同 清次良

同 加藤市良右門

同 川嶋喜右門

同 定右門

同 勝右門

同 音五良

同 吉澤茂吉

同 大武源七

同 同次良左門

同 川嶋要助

同 栗原常右門

同 小林喜三良

普門品供養塔

話

人

〔正面〕  
（日月） 庚申塔  
〔右側面〕  
天保三年 辰九月吉日  
岩付領大道村  
新田組講中

〔正面〕  
天下泰平

22・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔三〇四番）  
所在地 大道（新田）・稻荷神社  
石塔型式 頭部山状角型（東向き・高さ高）  
年号 文久二年（一八六二）

〔左側面〕

天下泰平

〔正面〕

〔正面台石〕

井上弥治良

大武銀之助

川嶋熊五良

加藤熊五良

井上庄次郎

川嶋嘉蔵

同 川嶋清蔵

同 小林茂左門

同 小林茂左門





25・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二二一）  
所在地 大道（新田）・稻荷神社  
石塔型式 笠付角型（東向き・高さ中）  
年 号 文化四年（一八〇七）

〔左側面〕

〔左側台石〕

世話人

小林市右衛門  
栗原政右衛門  
川嶋金 蔵  
大武新 蔵  
大武源 蔵  
大武忠右衛門  
吉澤與右衛門  
井上安右衛門  
井上半次郎  
川嶋弥七郎  
川嶋又右衛門

文化四丁卯年

〔正面〕

（青面金剛像）（鬼）

（三猿）

〔右側面〕

〔右側台石〕

小林市右衛門  
栗原吉右衛門  
大武定四郎  
栗原主 水  
加藤半 蔵  
井上佐平次  
川嶋幸右衛門  
小林與 吉  
大武源次郎  
小林治郎八  
川嶋重左衛門

九月吉祥日

26・文字庚申・普門品供養塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二二四番）  
所在地 大道（新田）・稻荷神社  
石塔型式 駒型（東向き・高さ中）  
年 号 宝曆八年（一七五八）

〔左側面〕

宝曆八 戊寅 天 大道村 新田  
講中 十三人

〔正面〕

（目）

大青面金剛  
奉供養  
普門品一万巻  
（三猿）

（月）

〔右側面〕

正月 吉祥日 講中 十二人

※上部左右両端に、日月が刻まれている。

※文字庚申塔と普門品供養塔の二つを兼ね備えた珍しい石塔である。

※力がそばに一基ある。石には『寛延二己巳五月吉祥日 武州岩付領』  
『奉納力石』、『三拾六貫五百匁 大道村』と刻まれている。

おのみち  
大道遺跡の掘立柱建物跡は、

「帰命院」と呼ばれる寺院跡

平成十三年秋に試掘調査が行われた大道遺跡のうち、香取神社南側の畑地から出てきた掘立柱建物跡は江戸時代の「帰命院」と呼ばれる寺院跡と推定できる。香取神社と帰命院は隣あっていたのである。この地には以前から「寺院があった」との言い伝えがあり、この言い伝えが一層確かなものとなった。この遺構のさらに南方の道路側にはその名残としての墓地が見られる。

江戸時代に作成された『新編武蔵風土記稿（しんぺんむさしふどきこう）』に記載された大道村の寺院は二つあった。しかし、明治の初め頃に全国的に荒れ狂い、わが国の仏教界に大きな打撃を与えた「廃仏毀釈（はいぶつきしゃく）」の運動がこの地にも当然及んで、二つの寺院が廃寺となってしまった。それは、正福院（しょうふくいん）と帰命院である。

正福院については、現在の八坂家（やさかけ、大道四八七）敷地にあったことが八坂勲氏からの聞き取り調査により判明した。するとこの掘立柱の建物跡は、もう一方の寺院である帰命院に違いないのである。

この寺院は、『新編武蔵風土記稿』によると、本尊が不動明王（ぶどうみょうおう）となっている。現在、南側にある道路に面した所に寺院の本尊としてふさわしい不動明王像が祀られている祠がある。この不動明王像が帰命院の本尊なのであろう。

旧大竹村の石仏

(1) 大竹香取神社

香取神社は、大竹村の鎮守である。

1. 猿田彦文字庚申塔（『越谷市金石資料集』猿田彦七番）

所在地 大竹・香取神社前路傍

石塔型式 頭部山状角型（南向き）

年号 天保二年（一八三一）

〔左側面〕

天保二 辛卯 三月吉日

〔左側台石〕

世 臼倉惣右エ門  
話 吉沢徳次良  
人 関根桑次郎  
□ 柳元右エ門

〔正面〕 猿田彦大神 〔正面台石〕 (三猿)

〔右側面〕 武州崎玉郡岩槻領 大竹村中

2. 「八幡宮」文字塔（『越谷市金石資料集』八幡一番）

所在地 大竹・香取神社前の道路沿い祠の中

石塔型式 祠型（角型に屋根を乗せたのも・南向き）

年号 文化十二年（一八一五）

〔左側面〕 文化十二亥十一月再建之

〔正面〕 八幡宮

〔右側面〕 大竹村 氏子中

※八幡神（はちまんじん）とは、応神天皇とその母の神功皇后をさし、弓矢の神として武士の間で信仰された。

3. 普請供養塔（『越谷市金石資料集』普請八番）  
所在地 大竹・香取神社参道  
石塔型式 駒型（東向き）  
年号 安永四年（一七七五）  
〔正面〕

安永四乙未 天武州埼玉郡岩附領大竹村

奉階建立供養塔  
講中 向佐仙右衛門  
願主 白倉甚左衛門  
關根長四郎  
小曾川藤治郎  
大道村寄進 惣右衛門  
與平政 常右衛門  
十二月吉日

※階（きざはし）とは階段（この場合は石段）のことか。

4. 「神明宮」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大竹・香取神社参道  
石塔型式 祠型（角型に屋根を乗せたもの・東向き）  
年号 文久二年（一八六二）  
〔左側面〕

文久二壬戌年十二月吉日

〔正面〕  
神明宮

〔右側面〕

願主 嶋村音次良  
関根治兵エ

※神明とは、天照大神（あまてらすおおみかみ）をさす。

5. 「天満宮」文字塔（『越谷市金石資料集』天神一六番）

所在地 大竹・香取神社参道  
石塔型式 祠型（角型に屋根を乗せたもの・東向き）  
年号 安政四年（一八五七）  
〔左側面〕

安政四巳年十二月吉日

〔正面〕  
天満宮

6. 「第六天」文字塔（『越谷市金石資料集』第六天五番）  
所在地 大竹・香取神社参道  
石塔型式 祠型（角型に屋根を乗せたもの・東向き）  
年号 不詳  
〔正面〕

大六天

7. 「牛頭天王宮」文字塔（『越谷市金石資料集』牛頭一番）  
所在地 大竹・香取神社参道  
石塔型式 祠型（角型に屋根を乗せたもの・東向き）  
年号 延享元年（一七四四）  
〔左側面〕

延享元甲子年

〔正面〕  
牛頭天王宮

〔右側面〕  
大竹村願主 彦七郎

8. 「山王宮」文字塔（『越谷市金石資料集』山王三番）  
所在地 大竹・香取神社参道  
石塔型式 祠型（角型に屋根を乗せたもの・東向き）  
年号 文久二年（一八六二）  
〔左側面〕

文久二壬戌年十二月吉日

〔正面〕  
山王宮

〔右側面〕

願主 嶋村音次良  
関根治兵エ

※山王（さんのおう）権現とは、大津市坂本の日吉（ひえ）神社、或いは  
東京都千代田区の日枝（ひえ）神社の神で、素戔嗚尊をさす。  
※この神社の参道に力石が二基ある。

奉 嘉永三庚年（奉納者3名）  
力石四十貫余（奉納者3名）  
納 戊五月吉日（奉納者3名）  
奉 天保十〇〇年  
力石四拾八貫目  
納



9. 普請供養塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)  
所在地 大竹・香取神社参道  
石塔型式 角型(東向き)  
年号 正徳四年(一七一四)

〔正面〕

正徳四年 午年

施主大竹村  
向左又七良

関根長右衛門

(梵字キヤ) 奉納石燈籠

〔細カ〕倉吉三良  
〔嶋カ〕村彦市良  
〔内カ〕田  
〔鈴カ〕木  
〔七良〕

九月吉日

〔右側面〕

〔弥五兵衛〕

〔村紋四良〕

〔鈴カ〕木弥五右衛門

〔内カ〕田清兵衛

〔鈴カ〕木

10. 「稻荷大明神」文字塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)  
所在地 大竹・香取神社参道の祠の中

石塔型式 祠型(角型に屋根を乗せたもの・東向き)  
年号 文久二年(一八六二)

〔左側面〕

文久二年十二月吉日

〔正面〕

稻荷大明神

〔右側面〕

願主 嶋村音次良  
関根治兵衛

(2) 東養寺 (太子堂)

地元の人からは『太子様』と呼ばれ親しまれている東養寺は、かつては境内地に太子堂があり、毎年七月二十二日に地元の軍需職人や指物師が集まって太子講が開かれていたが(当時の大竹は軍需、指物の生産が村をあげて盛んであった)、現在は太子堂もなく、信仰も廃れた。太子堂とは職人の間で信仰されている聖徳太子を祭るお堂のことである。本堂には、聖徳太子孝養像の他、阿弥陀如来像、十一面観音菩薩像、不動明王像、閻魔大王像、弘法大師像などが安置されている。本堂側の墓地を地元では「内卵塔(うちらんとう)」、道路反対側は「外卵塔」と呼んでいる。以下は内卵塔の墓地にある石仏石塔である。

11. 道標付き文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)  
所在地 大竹・東養寺(墓地南側の塀の外)  
石塔型式 頭部山状角型(南向き)  
年号 安政三年(一八五六)

〔左側面〕

丙安 政三年

東 まくり半道  
かずかへ二り

〔正面〕

辰 四月 吉日

〔日月〕

庚申 南 大竹村  
講 中 講 中

〔右側面〕

武州 埼玉郡 岩附領

西 のしま半道  
いわつき二里

※東は間久里や粕壁、南は越ヶ谷、西は野島や岩槻、北は野道を記した道しるべの石塔である。  
※『金石資料集』の庚申塔三三一番(年代不詳)の庚申塔のことか。

12. 六十六部供養塔 (『越谷市金石資料集』六十六部七番)  
所在地 大竹・東養寺

石塔型式 舟型(北西向き)  
年号 享保十八年(一七三三)

〔正面〕

奉納大乗妙典六十六部供養佛  
(地蔵菩薩立像)  
享保十八年十一月吉日 領主知敬

13. 十三仏梵字塔 (『越谷市金石資料集』十三仏一番)  
所在地 大竹・東養寺

石塔型式 板碑型(北西向き)  
年号 元文五年(一七四〇)

※庚申信仰と結びついた庚申塔か。

〔正面〕

十三仏 〔供養講中 善女十四人助縁村中〕  
梵字バン 梵字ベイ 梵字ユ 梵字カ  
(大日) (薬師) (弥勒) (不動)

梵字タラク 梵字ウ 梵字サ 梵字カ  
(虚空蔵) (阿闍) (観音) (地藏)

梵字キリク 梵字サク 梵字アン 梵字マン  
(阿弥陀) (勢至) (普賢) (文珠)

元文第五庚申天十月中旬大竹村



14・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申九四番）  
所在地 大竹・東養寺  
石塔型式 駒型（北西向き）  
年号 享保十八年（一七三三）  
〔正面〕

享保十八年 丑  
天  
〔梵字ウーン〕 大青面金剛  
十一月吉日  
（二鶏）（三猿）

15・板碑型一石六地藏菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）  
所在地 大竹・東養寺  
石塔型式 板碑型（北西向き）  
年号 寛文元年（一六六一）  
〔正面〕

寛文元年 大竹村  
〔六体の〕  
地藏 為法界衆生菩提也廿九人  
菩薩像（十月廿五日 奉）  
人

16・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申五一番）  
所在地 大竹・東養寺  
石塔型式 駒型（北西向き）  
年号 正徳元年（一七一）  
〔正面〕

奉造立青面金剛二世安楽處  
（日月）（三面の青面金剛像）（鬼）（鶏）  
正徳元年辛卯 十月吉日  
（三猿）（鶏）  
せん ひ  
ちん たん  
ちや ちや  
（ゆき）

※三面の青面金剛像庚申塔は、珍しい。

17・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申一〇八番）  
所在地 大竹・東養寺  
石塔型式 駒型（北西向き）  
年号 延享三年（一七四六）  
〔左側面〕  
奉造立

〔正面〕  
（日月）（青面金剛像）（鬼）（二鶏）（三猿）  
〔右側面〕

延享三年 丙寅 九月吉日 外助縁

18・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申一五五番）  
所在地 大竹・東養寺  
石塔型式 駒型（北西向き）  
年号 安永六年（一七七七）  
〔左側面〕

奉供養庚申講中  
〔正面〕  
（日月）（青面金剛像）（鬼）（三猿）  
〔右側面〕

安永六年 西九月吉日

19・寺院名文字入り石塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）  
所在地 大竹・東養寺  
石塔型式 不明（北西向き）  
年号 享保十二年（一七二七）  
〔正面〕

享保十二年 丁未年 法印  
太子山龍藏院東養寺  
五月廿四日照戒代

※この石塔により、この地が『太子山龍藏院東養寺』であることがわかる。

※この上に乗っている石塔は全くの別物である。参考までに紹介すると中央に「梵字ア）法印権大僧都」、その両側に「延宝二甲寅歳」「十月廿一日」と刻まれている。

20・光明真言供養塔（『越谷市金石資料集』真言三番）

所在地 大竹・東養寺

石塔型式 舟型（北西向き）

年号 元禄十二年（一六九九）

〔正面〕

（梵字ア）奉誦 光明真言 数万遍為二世安樂也  
大竹村中 敬白

元禄十二年己卯 年十一月八日

21・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申二三八番）

所在地 大竹・東養寺

石塔型式 笠付き角型（北西向き）

年号 文化元年（一八〇四）

〔左側面〕

文化 元子 年十一月吉日

〔正面〕

（日月）（青面金剛像）（鬼）（三猿）（鶏）

※この東養寺墓地内には嘉暦三年の板碑がある。

### （3）大代衣公公民館そば用水路道路道端

22・道標付き普門品供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大竹・大袋公民館そば用水路（坂巻自転車店前路傍西側）

石塔型式 駒型（東向き）

年号 文化八年（一一八一）

〔左側面〕

文化八未八月吉日

南 ころしがや

〔正面〕

向 いわつ□□(き)

普門品供養(養)

観 □□

〔右側面〕

東 まく□(り)

※現在は向佐家（大竹一五三）が管理している。

### （4）向佐家（大竹一五三）邸内

23・「弁財天」文字塔（『越谷市金石資料集』弁財天四番）

所在地 大竹・向佐家（大竹一五三）邸内

石塔型式 祠型（南東向き）

年号 寛保二年（一七四二）

〔左側面〕

願主大竹村向佐常衛門

〔正面〕

辨財天

〔右側面〕

寛保二壬戌 年六月吉日

※屋号が『元名主（もとなぬし）』と呼ばれている家である。江戸時代に名主を経験した家柄と伝えられている。現在の石塔は現在地の真南十五メートルの地点にあった。その東側隣に小さな池があったが、現在はなく新しい道路となっている。旧道路は向佐家の垣根にそってその名残が今でもある。この旧道路はさらに大袋小学校の校庭南東側を突き抜けて、恩間十三番地前の道路につながる。そしてこの古くからある道路は北上するのである。

### （5）島村家（大竹四三八）北東角地

24・「北向き地蔵」石仏（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大竹・島村家（大竹四三八）北東角地路傍

石塔型式 丸彫り（北向き）

年号 享保十一年（一七二六）

〔正面〕

「台石」 享保十一年

（地蔵菩薩立像）

十一月吉日

※前越谷市長である島村慎市郎氏宅（大竹四三八）の北東角地に内田家（大竹四三四）管理の祠がある。その中に高さ一三〇センチ程の丸彫りの地蔵菩薩立像（宝珠と錫杖を持つ）が安置されている。地元では『北向き地蔵』と呼んでいる。

なお、かつて地元では、正月三日、毎月一日、十五日、二十八日に北向き地蔵と近くの浅間神社、大竹香取神社の合わせて三カ所とそれに吉沢家（大竹四三二二）の敷地内にある伏見稲荷の祠を巡拝していたという。吉沢家の伏見稲荷は二月の初午には幟が立ち、露店商がみられたほど賑わったという。

吉沢家の伏見稲荷及びその脇にある「雷天宮」（明治二巳正月吉日、木村□□□）の石塔は、以前は浅間神社そばに住んでいた木村家（現在は住宅地となっている）敷地内にあったという。

### (6) 武藤家（大竹六七七）そば路傍

25・地蔵菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）  
所在地 大竹・武藤家（大竹六七七）そば路傍  
石塔型式 上部隅丸角型（西向き）  
年号 文化三年（一八〇六）

〔正面〕

〔文〕(三)

□化□寅

□月朔日

（地蔵菩薩）

※武藤家（大竹六七七）管理の全長三〇センチの地蔵菩薩像が武藤家前の新設された東西に走る道路南側路傍にある。かつては南北に走る道路の脇の畑地（武藤家所有）に道路に向けて西向きに建てられていた。地蔵像の向かって右脇に「□化□寅」「□月（三月）朔日」との文字が読み取れる。文化三年（一八〇六）寅年に造立した石仏だろうか。

### 旧恩間村の石仏

(1) 恩間新田稲荷神社

能満寺の持ち分であった。

1・牛頭天王文字塔（『越谷市金石資料集』牛頭天王二番）

所在地 恩間（新田）・恩間新田稲荷神社

石塔型式 祠型（北東向き・高さは中）

年号 延享二年（一七四五）

〔左側面〕

延享二乙丑 九月吉日

〔正面〕

牛頭天王神

2・天神文字塔（『越谷市金石資料集』天神一五番）

所在地 恩間（新田）・恩間新田稲荷神社

石塔型式 祠型（南東向き・高さは中）

年号 嘉永年間（一八四八〜一八五三）

〔左側面〕

十二月建之

〔正面〕

〔正面台石〕

山崎□松

福田久次郎

同 源助

新坂利作

山崎登□蔵

同 権次郎

（損傷が激しく、解説不能）

※稲荷神社入口参道北側に損傷が激しい天神文字塔が二基ある。

一つは、『越谷市金石資料集』の天神一五番に載っている石塔（嘉永年間）と思われる。左側面に「□□十二月建之」と刻まれている。

※もう一つは、天神二四番に載っている、正面に『天神社』と刻まれた年代不詳の石塔（高さ三七センチの自然石）と思われる。この石塔とその下にある台石は、石質が異なるため、石塔と台石は別物と思われる。なお、台石に刻まれている奉納者名は次の通りである。

台石の左側面には、「恩間新田、新坂発作、根岸留之助、福田茂市、新坂清六、原田源次郎、同 稲吉」

台石の正面には、「恩間新田、山崎半蔵、根岸清八、原田信蔵、新坂孫三郎、同清左エ門」



(2) 新坂家 (恩間新田三五九番地) 南東路傍

3. 「三峰山大権現文字塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)  
所在地 恩間 (新田) ・新坂家 (恩間新田三五九) 南東路傍  
石塔型式 祠型 (南西向き・高さは中)  
年号 嘉永四年 (一八五二)

〔左側面〕 嘉永四 亥正月吉日

〔正面〕

(三) 峰山大権現

※三峰山とは、秩父の大滝村にある妙法岳、白岩山、雲取山の三山を総称し、ここに三峰神社がある。

〔右側面〕

新坂清次郎  
同 市右エ門  
同 吉五郎

※もとの位置は、道路反対側の現在の「くらしセンターべしみ」の駐車場南東角地にあったものである。

(3) 山崎家 (恩間新田一一二番地) 前路傍

4. 出羽三山供養塔 (『越谷市金石資料集』出羽三山一一番)  
所在地 恩間 (新田) ・山崎家 (恩間新田一一二) 路傍  
石塔型式 頭部山状角型 (南東向き・高さは中)  
年号 嘉永二年 (一八四九)

〔左側面〕 天下泰平

嘉永二 己 三月 西

五穀成就

〔正面〕

月山

(日月) 梵字 (一) 湯殿山三社大権現

福田勘 蔵  
山崎庄治郎  
新坂庄左衛門  
原田昇兵衛  
小嶋熊治郎  
増田新田  
山崎松五郎  
恩間 邑  
須賀半兵衛  
羽黒山

〔右側面〕

武州崎玉郡 恩間新田講中

※この石塔は、もとは現在地より西側約十メートル先の地点 (恩間新田一一二の山崎家敷地内) にあった路傍の石塔である。現在は恩間新田三七九の新坂家飛び地の現在地に移転されている。

※山崎家に乃木希典象額による日露戦争関係の記念碑がある。近衛工兵隊に属し、鴨緑江渡河作戦の功績を讃えた山崎源次郎の「忠勇義烈」の碑である。

(4) 山崎家 (恩間新田一一一番地) 個人墓地

山崎家は江戸時代に光明真言を唱える信仰が盛んであったと思われる。この墓地には多くの光明真言塔が見られる。

5. 光明真言曼陀羅塔 (『越谷市金石資料集』掲載なし)  
所在地 恩間 (新田) ・山崎家 (恩間新田一一) 個人墓地  
石塔型式 上部隅丸角型 (北西向き・高さは中)  
年号 天明六年 (一七八六)

〔正面〕

天明六 丙 午 歳  
常住仕妙林清信女  
十一月初八日

十代孫東左エ門母

※「初八日」とは八日のこと

6. 光明真言供養塔 (『越谷市金石資料集』掲載なし)  
所在地 恩間 (新田) ・山崎家 (恩間新田一一) 個人墓地  
石塔型式 上部隅丸角型 (北西向き・高さは中)  
年号 文化十年 (一八一三)

〔正面〕

文化十 癸 酉年正月廿一日  
実知常性信士  
真言 百万遍成就  
梵字 (一) 梵 胸月妙慶信女  
享和三亥九月三日

7. 光明真言曼陀羅塔 (『越谷市金石資料集』掲載なし)  
所在地 恩間 (新田) ・山崎家 (恩間新田一一) 個人墓地  
石塔型式 上部隅丸角型 (南西向き・高さは中)  
年号 元禄十六年 (一七〇三)

小嶋治右衛門  
根岸祐助  
原田吉 蔵



〔正面〕

元禄七戌三月二十二日  
春路信士

(光明真言曼陀羅) 百萬遍 靈位

温清信女  
元禄十六未六月十七日

施主山崎氏

8・光明真言曼陀羅塔(『越谷市金石資料集』掲載なし)  
所在地 恩間(新田)・山崎家(恩間新田一一)個人墓地  
石塔型式 上部隅丸角型(南西向き・高さは中)  
年号 享保九年(一七二四)  
〔正面〕

享保九辰正月三日

(光明真言曼陀羅) 百萬遍成就偈

春和浄印  
秋雲信女  
元禄十六未七月七日

施主山崎氏

9・光明真言曼陀羅塔(『越谷市金石資料集』掲載なし)  
所在地 恩間(新田)・山崎家(恩間新田一一)個人墓地  
石塔型式 上部隅丸角型(南東向き・高さは中)  
年号 寛保二年(一七四二)  
〔正面〕

寛保二壬戌十二月廿一日

(光明真言曼陀羅)

玄峯浄泉清信士 不生位  
栄法妙泉沙彌尼  
元文庚申八月十五日

10・光明真言曼陀羅塔(『越谷市金石資料集』掲載なし)  
所在地 恩間(新田)・山崎家(恩間新田一一)個人墓地  
石塔型式 上部隅丸角型(南東向き・高さは中)  
年号 宝暦八年(一七五八)  
〔正面〕

宝暦八戊寅天

(光明真言曼陀羅) 宝暦八戊寅天

五月十一日

(5) 恩間新田八八氏館「能満寺跡地」

ここは能満寺跡地である。三野宮の一乗院の末寺であった。

11・文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔二九一番)  
所在地 恩間(新田)・恩間新田公民館「能満寺跡地」  
石塔型式 頭部山状角型(北東向き・高さは高)  
年号 嘉永三年(一八五〇)  
〔左側面〕

〔左側面〕

天下泰平五穀成就

嘉永三年庚戌十一月吉日

〔台石〕  
新坂  
小嶋  
原田平  
同 徳左  
同 孫右衛門  
同 根岸仁左衛門  
同 新坂清治郎  
同 安右衛門  
同 山崎李之丞  
同 喜左衛門  
同 長兵衛  
同 和助  
同 忠左衛門  
同 福田又兵衛

〔正面〕

(日月) 庚申中塔

〔右側面〕

(三猿)

武州埼玉郡岩槻領

恩間新田

(以下、不明)

12・青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔七九番)  
所在地 恩間(新田)・恩間新田公民館「能満寺跡地」  
石塔型式 駒型(北東向き・高さは中)  
年号 享保八年(一七二三)  
〔左側面〕

奉造立青面金

〔正面〕

(日月) (青面金剛像) (二鶏) (鬼) (三猿)

〔右側面〕

恩間村新田

享保八癸卯年三月日

施主村中

13・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔三六番）  
所在地 恩間（新田）・恩間新田公民館「能満寺跡地」  
石塔型式 上部丸型（北東向き・高さは高）  
年号 元禄十年（一六九七）

〔正面〕

奉造立庚□待諸願成就所能満寺

十右衛門  
太兵衛  
八左衛門  
三右衛門  
権左衛門  
三左衛門  
権兵衛  
源兵衛  
弥五兵衛  
勤□衛門  
孫兵衛  
市兵衛  
市兵衛  
伊兵衛  
喜兵衛  
佐五兵衛  
吉右衛門  
久兵衛

（日月）（青面金剛像）（鬼）

（三猿）

元禄十丁□十一月吉祥日  
（丑）

※この石仏は残念ながら横に半分に分かれて破損している。  
※恩間新田公民館の項で紹介した以上の石仏は、地元では浅間様と呼ば  
れる富士塚に置かれているが、その富士塚の頂上に自然石に「浅間神」  
と刻まれた石塔（『越谷市金石資料集』浅間三番）がある。裏には  
「明治廿四年卯五月 岡崎恒敬書」と書かれている。台石の正面に  
は、富士山の絵と○の中に岩の字が入ったマークと「扶桑教会」の文  
字が見られる。

※またこの富士塚の南西隣には明治四年（一八七二）造立の不動三尊像  
（『越谷市金石資料集』不動二四番）が祠の中に安置されている。  
台石の左側面（向かって右）には「明治四辛未年 十月大吉祥日」、  
右側面には「天下泰平 五穀豊饒」と刻まれている。

（6） 勢至土堂

14・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二二〇番）  
所在地 恩間・勢至堂  
石塔型式 駒型（南向き・高さは中）  
年号 宝暦五年（一七五五）

〔正面〕

〔台石〕

（日月）（青面金剛像）（二鶏）（鬼）（三猿）

恩間村講中  
須賀金蔵  
須賀  
新坂庄左エ門  
新坂武左エ門  
新坂二郎  
佐久間□門

〔右側面〕

宝暦五亥天九月吉日

15・観音像付き普門品供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）  
所在地 恩間・勢至堂  
石塔型式 上部丸型（西向き・高さは中）  
年号 文化五年（一八〇八）

〔正面〕

〔台石〕

奉読誦普門品供養

（正 観 音 菩 薩 像）

岩槻領恩間村講中  
鈴木由右衛門  
新坂宗仙  
高橋宇右エ門  
須賀弥吉  
高橋佐吉  
佐久間吉蔵  
高橋祐蔵  
須賀弥太良  
同半兵エ  
木村寅吉  
新坂吉右エ門  
濱野重蔵  
同与蔵  
木村伊右エ門

文化五戊辰三月十八日

16・聖徳太子像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）  
所在地 恩間・勢至堂  
石塔型式 笠付き型（西向き・高さは中）  
年号 文政六年（一八二三）  
〔左側面〕  
文政六癸未年三月吉祥日  
〔正面〕

〔台石〕

（聖徳太子孝養像）

須賀亦治良  
鈴木利八  
須賀仁三良  
須賀伊左工門  
須賀兵左工門  
高橋佐吉  
高橋由蔵  
鈴木甚蔵  
高橋仲□  
佐久間與三良  
佐久間與左工門  
佐久間民二良  
佐久間勘右良  
高橋勇蔵  
鈴木庄之助  
木村寅吉  
木村助左工門

〔右側面〕

岩槻領恩間村

※孝養像は十六歳の時に父である用明天皇の病氣平癒を祈る姿。柄香炉を執る姿に表される。

17・不動明王像（『越谷市金石資料集』不動七番）  
所在地 恩間・勢至堂  
石塔型式 浮き彫り型（西向き・高さは高）  
年号 明和三年（一七六六）  
〔正面〕

新坂

（不動明王座像） 学子善法子

明和三丙戌二月六日

18・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔一七七番）  
所在地 恩間・勢至堂  
石塔型式 駒型（西向き・高さは高）  
年号 寛政五年（一七九三）  
〔左側面〕  
奉建立庚申供養  
〔正面〕

〔台石〕

（日月）（青面金剛像）（鬼）（二鶏）（三猿）

講中  
佐久間重右工衛門  
鈴木甚右工門  
高橋惣七  
佐久間與右衛門  
佐久間織右工門  
須賀直右工門

〔右側面〕

寛政五癸丑三月吉日  
武州埼玉郡岩槻領恩間邑

※この三猿は、猿叟（ざるひき）の三番叟（さんばそう）を模す。恩間25番も同様である。

19・「馬頭観音」文字塔（『越谷市金石資料集』馬頭二〇番）  
所在地 恩間・勢至堂南隣路傍  
石塔型式 駒型（南向き・高さは中）  
年号 天保四年（一八三三）  
〔正面〕

（之）

馬頭観世世音

須賀氏

天保四年己三月立□

20・馬頭観音菩薩像（『越谷市金石資料集』馬頭九番）  
所在地 恩間・勢至堂南隣路傍  
石塔型式 駒型（南向き・高さは中）  
年号 寛政九年（一七九七）  
〔正面〕

寛政九丁巳十二月吉日

（六臂の馬頭観音像）

岩附領恩間村  
大悲馬頭観世音

願主 濱野忠兵衛  
世話人 須賀弥吉  
濱野常右工門



(7) 恩間香取神社

恩間村の鎮守である。

21. 『子の権現』文字塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 恩間・香取神社  
石塔型式 祠型(北東向き・高さは中)  
年号 不詳

〔正面〕  
子ノ大権現

※子(ね)の権現については、旧三野宮村石仏の3番を参照のこと。  
※この石塔と猿田彦庚申塔との間に、損傷の激しい石塔がある。これは『越谷市金石資料集』の不動一二番の不動明王像と思われる。正面は破損し、像容が不明。左側面は「弘化四未年」と読める。さらにその下に「恩間村 鈴木繁治良 同 七五良 新坂庄」木村□□と読める。また右側面は「十二月」と一部分読める。

22. 猿田彦文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』猿田彦二一番)

所在地 恩間・香取神社  
石塔型式 頭部山状角型(北東向き・高さは高)  
年号 天保十年(一八三九)

〔左側面〕  
天保十 己 亥 十一月吉日

〔正面〕

〔台石〕

(日月)猿田毘古古大神

(三猿)

人ハセ

斎藤幸蔵  
同 富五郎  
長野方吉  
同 平次郎  
木村金平  
同 初五郎  
同 弥右衛門  
同 重次郎  
鈴木熊次郎  
木村喜十郎  
同 仙次郎  
同 之助  
新坂孫市  
濱野與蔵  
木村長五郎

〔右側面〕

岩槻領 恩間村

※この石塔は、猿田彦庚申塔の文字「彦」を「毘古」としている珍しい例である。大林の香取神社の猿田彦庚申塔にも見られる。  
※この神社の西側道路の反対側にある住宅地内(恩間七四三)には、この地の開発にともない発掘された二十一仏板碑が一基、丸彫り地蔵像が一基、卵塔が五基、墓石が二基(嘉永六年、明治四年)がまとめられて残されている。「等覚院」という言葉は地元には残っていないが、この寺院跡地は、三野宮の一乗院の末寺「等覚院」と呼ばれた寺院と思われる。等覚院は香取社を所有していた寺院であり、おそらく香取社とは地続きであったろう。本尊は十一面観音像(所在不明)である。なお木村和衛氏(恩間七七〇)によると、この住宅地には地元では「延命院」と呼ばれたお堂がかつてはあったという。すぐそばにある延命院と思われる薬師堂のことと取り間違えているのであろうか。

(80) 恩間薬師堂

「薬師」という名称があることより「延命院」と呼ばれる寺院跡地と思われる。江戸時代に薬師如来を本尊とするかつてあった恩間村の寺院は延命院にしばらく残るからである。

23. 文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 恩間・薬師堂  
石塔型式 頭部山状角型(南向き・高さは低)  
年号 文化四年(一八〇七)

〔左側面〕  
文化四丁卯正月

〔正面〕  
文化四丁卯正月

〔右側面〕  
岩槻領 恩間村

24. 文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 恩間・薬師堂  
石塔型式 笠付き型(南向き・高さは高)  
年号 享保十五年(一七三〇)

〔左側面〕

享保十五 庚 戌 歳

新坂孫 八  
木村久兵衛  
濱野半右衛門  
渡部縫殿右衛門  
直喬  
岩槻領 西蔵院現住 観超



〔正面〕  
〔梵字ウーン〕大青四面金剛 (二鶏)

〔右側面〕

八月二十四日

恩間村  
新坂新五右衛門

鈴木吉三郎  
須賀三郎兵衛  
高橋左兵衛  
佐久間紋兵衛

25・青面金剛像庚申塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)  
所在地 恩間・薬師堂  
石塔型式 駒型(南向き・高さは高)  
年号 嘉永元年(一八四八)  
〔左側面〕

〔台石〕

木濱 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
人話世 鈴木 須加 木邑 鈴木

天下泰平国土安全

〔正面〕

〔日月〕(青面金剛像)(鬼)(三猿) (二鶏)

〔右側面〕

嘉永元申霜月吉日  
岩槻領恩間村

斎藤 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
渡邊 永野 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
(以下、不明)

26・文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)  
所在地 恩間・薬師堂  
石塔型式 頭部山状角型(南向き・高さは中)  
年号 寛政十年(一七九八)

〔左側面〕

寛政十戊 午歳  
岩槻領 願主  
木村孫七  
濱野常右衛門  
木村新八  
濱野藤左衛門  
新坂丹治良  
濱野忠兵衛

〔正面〕

〔梵字ウーン〕大青四面金剛(三猿)

〔右側面〕

恩間村  
岩井藤治良  
濱野市右衛門  
木村小八  
濱野重右衛門  
鈴木藤蔵  
木村文左衛門  
鈴木惣兵衛

九月吉祥日

27・文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)  
所在地 恩間・薬師堂  
石塔型式 頭部山状角型(南向き・高さは中)  
年号 文政四年(一八二二)  
〔左側面〕

〔正面〕

〔日月〕庚申塔 (三猿)

〔右側面〕

岩槻領恩間村講中

28・文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)  
所在地 恩間・薬師堂  
石塔型式 頭部山状角型(南向き・高さは中)  
年号 文化十五年(一八一八)  
〔左側面〕

〔正面〕

〔日月〕青面金剛 (三猿)

〔右側面〕

岩槻領  
恩間村講中

29・六地藏石幢（『越谷市金石資料集』に掲載なし）  
所在地 恩間・薬師堂

石塔型式 六面石幢型「単制」（東向き・高さは高）  
年号 延享元年（一七四四）

〔裏面〕 「請花」

〔左側面〕 （梵字ナ）（香炉を持つ地蔵）

〔正面〕 （梵字ナ）（合掌する地蔵）

〔右側面〕 （梵字ナ）（柄香炉を持つ地蔵） 鈴木作右衛門  
同苗弥次右衛門

〔裏面〕 （梵字ナ）（幡幡を持つ地蔵）

〔真裏面〕 （梵字ナ）（錫杖と宝珠を持つ地蔵）

〔梵字ナ） （数珠を持つ地蔵） 延享元歳  
渴甲子十二月

30・六観音石幢（『越谷市金石資料集』に掲載なし）  
所在地 恩間・薬師堂

石塔型式 六面石幢型「単制」（東向き・高さは高）  
年号 明和四年（一七六七）

〔裏面〕 如意輪 観世音 〔請花〕 〔台石〕

〔左側面〕 准胝佛母 観世音 〔如意輪観音座像〕

〔梵字ナ） 千手千眼 明和四丁亥 施主  
二月二十日 鈴木七郎

〔右側面〕 大悲馬頭 観世音 〔馬頭観音座像〕

〔裏面〕 大慈十一面 観世音 〔十一面観音座像〕

〔梵字ナ） 大聖慈悲 観世音 〔聖観音座像〕

〔真裏面〕 大聖慈悲 観世音 〔聖観音座像〕

〔梵字ナ） 大聖慈悲 観世音 〔聖観音座像〕

（9） 恩間地蔵堂  
地元では「地蔵坊」と呼んでいる。

31・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔一一三番）  
所在地 恩間・地蔵堂

石塔型式 駒型（西向き・高さは中）  
年号 寛延四年（一七五二）

〔左側面〕 奉造 立庚申供養講中 敬白

〔正面〕 寛延四辛未 天十月中旬

〔日月） 青一面 金剛像 〔二鶏）（鬼）（三猿）

〔右側面〕

32・不動明王像（『越谷市金石資料集』庚申塔二九番）  
所在地 恩間・地蔵堂

石塔型式 舟型（西向き・高さは中）  
年号 元禄十二年（一六九九）

〔正面〕 阿遮羅護摩一千座攸

〔梵字ナ） 不動明王像 〔法多）（深）

元禄十二己卯九月吉日 清運

遠州□□山□教

※『越谷市金石資料集』では庚申塔の部類に誤って入っている。

※「阿遮羅」とは不動明王のこと。

33・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二三六番）  
所在地 恩間・地蔵堂

石塔型式 頭部山状角型（西向き・高さは中）  
年号 文化十三年（一八一六）

〔左側面〕 〔台石）

木村助左エ門

同 重蔵

同 岩右エ門

同 喜四良

同 忠蔵

同 政五良

同 市右エ門

同 源次良

文化十三年丙子年二月吉日

〔正面〕

(日月) 青 面 金 剛

(三猿)

〔右側面〕

鈴木弥次右工門  
同 惣兵衛  
濱野菊 蔵  
齊藤幸 蔵  
長野辰右工門  
同 富 蔵

岩槻領恩間村講中

34・丸彫り地藏菩薩立像 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 恩間・地藏堂

石塔型式 丸彫り型(西向き・高さは高)

年 号 享保十三(一七二八年)

〔左側面〕

〔台 石〕

享保十三 戊申 歳

〔正面〕

(地 蔵 菩 薩 立 像)

願以此功德  
普及於一切  
我等與衆生  
皆共成佛道

〔右側面〕

願主

渡部左助直吉

二月十五日

35・渡辺荒陽の墓塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 恩間・地藏堂

石塔型式 頭部山状角柱型(南向き・高さは高)

年 号 不詳・天保九年(一八三八)以降

〔正面〕

既下玉齋荒陽玄祿居士

清薫園法山貞運大姉

〔右側面〕

玄祿居士之室名登惠粕壁駅長関根次郎兵衛福宣之女寛政元年己酉十二月十四日終年三十五生二男三女嗣子左介太珉次源太左衛門珊女銀嫁于粕壁金子庸彦女多勢以和歌嗣村田春海之家女里津 米沢夫人之女史

〔左側面〕

渡邊之望世称政之助父左介宣直母細沼氏初出江戸以儒鳴老而後專志于皇国之学珊以鎗術為 高田侯之臣以故翁於小川街之邸終于時天保九年戊戌二月朔日享年八十七葬于本所牛嶋長命寺埋齒骨茲土以□□碣

※室は、妻という意味。

※寛政元年は、一七八九年。

妻の没年である。

※嗣子は、あとつぎの意。

※源太左衛門は珊、駒、駒之助

源九郎などとも呼んだ。

※渡邊之望は、荒陽をさす。

※高田侯は越後高田藩榊原家

※故翁は、荒陽をさす。

※天保九年は、一八三八

荒陽の没年である。

※□□は、「建墓」。

※渡辺荒陽は恩間村の世襲名主の渡辺家の出で、渡辺宣直の次男として

生まれた。長男と長女を家に残し、次女、三女とともに江戸に出て儒

学を学び名声をあげる。晩年は国学に転じ、荒陽の次男の珊(みつる)

とともに平田篤胤の門人となり、国学者として知られる。珊の方は、

鎗術家として知られ、高田藩の家臣となる。この碑文に出てくる荒陽

の次女の多勢(多勢子)は、国学者であり歌人でもある師の村田春海に

強く望まれて村田家の養女となり、春海の後継者として国学や歌道に

大いに活躍し、「都下に一人の女あり」とまで称せられた。三女の里津

(里都子)は和歌学の大家となる。碑文によると、荒陽の妻は、粕壁宿

の名主の関根家の出で、息子の左介太眠次(太眠、跡継ぎ)、源太左衛門

珊、娘の銀、多勢、里津の二男三女を生んでいる。荒陽の母は、袋山

村の名主の細沼家の出である。碑文中の長命寺は、現在の墨田区向島

五丁目にある。なお村田多勢子の墓は、村田春海と同じ深川の本誓寺

(江東区、清澄庭園の北側)にあるという。また村田家は、後にこの渡辺

家から勝之助(荒陽のひ孫)を又も養子に迎え入れるが、勝之助は晩年

郷里の恩間村に戻り、村田家の分家として永住し今日に至っている。

※文政十年の渡辺荒陽著「渡邊氏家譜」(渡辺家所蔵)、「こしがや広報」の

S 44・10・15号とS 45・6・1号の佐藤久夫著「市史編さんだより」を参照



36・渡辺家宝篋印塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 恩間・地藏堂

石塔型式 宝篋印塔（南向き・高さは超高）

年号 元文四年（一七三九）

〔正面〕

勝徳院道光清御居士  
勝行院妙浄清雲大姉  
広明院宗運清澄居士

〔右側面〕

夫宝塔造立旨趣如何者  
爰恩間里渡部氏中興先  
祖有右所烈三人先凶各  
靈今茲相當一百回遠忌  
者也因斯苗裔某等謹建  
一基制底敬當法会之丹  
誠也是併歴代幽魂欲奉  
謝遺孫撫育厚恩處也抑  
又此家姓尋草刈基本遠  
跡未祥也雖然屋敷垣乾

〔裏面〕

隅有一荒塚古塔薛羅纏  
断碑苔莓覆唯文保二年  
字存経歴等計今既至元  
文中及于四百有餘稔  
是正此家開祖廟也厥后  
慶安年中賞當邑新田開  
発功從岩槻城主免田一  
町歩拜領畢自爾已來繼  
其業而子孫聯綿松柏繁  
攸家聲隆然矣仰願蒙朝

〔左側面〕

夕先祖摩頂遊畫夜擁護  
之膝也矣重乞酬所薦微  
功靈魂早達法帝真都彌  
於家門加擁護壤災難於  
未念外今誇陶朱倚頓之  
榮給乃至沙界普潤法雨  
敬白 肯元文四季星旅  
己未載夏四月初十日

施主 渡部氏左介尉直吉  
同苗縫殿右衛門直喬

(10) 渡辺家（恩間五一四）邸内

37・「馬頭観音」文字塔（『越谷市金石資料集』馬頭二番）

所在地 恩間・恩間五一四の敷地内（大袋小近く）

石塔型式 駒型（東向き・高さは中）

年号 明和五年（一七六八）

〔正面〕

明和五子

（カン）馬頭観音

六月十九日

※江戸時代に世襲名主を勤めた渡辺家は、恩間五一四七の村山コーポ及びその裏側一帯にあった。現在は、新興住宅地となっていて、昔の面影は全くない。この石塔は、その渡辺家の路傍にあったものである。※渡辺家邸内には、梵字（キリク）と「文保二年八月（一三一八）と刻まれた板碑があったが、現在、37番の石塔と同じ場所にある。

渡辺家所蔵の渡辺荒陽筆「渡邊氏家譜」（天明七年十二月）の自序に「吾が家、一片の石を蔵す。石に誌（しる）す如くは、私以て当宗祐、其の面に貝多羅（ばいたら）の一字及び文保二年八月の六字を勒（きざ）むのみ。」「世に相伝う、『開祖之碣（いしぶみ）』と云う由」と書かれている。貝多羅とは、貝多羅葉の略で、古代インドでは経文を貝多羅樹の葉に刻みつけて写経した。ここでは、古代インドのお経の文字という意味であろう。渡邊氏の開祖は、五七〇と云う。

なお、渡辺家所蔵の渡辺荒陽筆「蕙甫園（しょうふえん）鬼簿（きぼ）」（天明七年十一月）という過去帳に渡辺家の先祖について「我が先、出づる所詳しからず。蓋、戦国之時に乱を避け、而して農に帰る者也。父老相（あい）伝う、五百年來、此の土に居すと謂う。」と書かれ、さらに「渡邊氏家譜」によると「道光、前既曰（すで）に茲（こゝ）の土に居す也」となっている。道光の没年は、寛永十七年（一六四〇）四月十日で、恩間村の名主を勤めていた。渡辺家の先祖は江戸初期の道光まで逆上ることは確実である。さらに「鬼簿」では、「家譜及び固有する所の簿書、尽（ことごと）く灰塵と為（な）す」とし、「渡邊氏家譜」によると、「正保中（一六四四〜一六四七）、当観昭之世」の出来事で、火災ですべて焼失したため中世の頃がわからないとしている。観昭の没年は、貞享元年（一六八四）十二月六日である。

※37番の石塔のそばに、『金石資料集』の馬頭三六番の駒型の「馬頭観音」文字塔もある。正面は「馬頭観音」、左側面には「明治四辛未年九月」と刻まれている。『金石資料集』によると、もとは恩間の勢至堂境内にあった。



〔追加〕

38・道標付き普門品供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 恩間（新田）・恩間新田公民館「能満寺跡地」  
石塔型式 頭部山角型（北東向き・高さは低）  
年 号 天明三（一七八三年）

〔左側面〕

じおんじみち 「台石」

〔正面〕

天明三癸卯年  
（梵字サ）奉誦誦普門品供養一万  
九月吉祥日

〔右側面〕

のしまみち

※もとは、根岸両家（恩間新田五二二、三〇九）境には、かつて火の見櫓があり、その路傍にあった。左右側面に「慈恩寺道」「野島道」という意味の道しるべが刻まれている。

※そばに、高さ48センチメートルの文字塔が置かれている。

〔正面〕

大正十三年  
丑頭 虚空蔵菩薩  
八月十五日

〔右側面〕

原田新太郎立之

39・阿弥陀如来像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 恩間（新田）・薬師堂  
石塔型式 舟型（南東向き・高さは中）  
年 号 寛文三（一六六三年）

〔正面〕

淨慶 禅定門 不生位 靈  
（梵字サ） 阿 弥 陀 如 来 像

于時 寛文三年 亥 卯二月

※石仏には「寛文三年亥卯」と刻まれているが、「亥卯」ではなく、「癸卯」の誤りと思われる。

※薬師堂には、薬師三尊像（薬師如来、日光・月光菩薩）が安置されている。

※ここに三基の石塔が並んでいる。向かって右から、如意輪観音菩薩像、女性の墓石、阿弥陀如来像と並んでいる。地元では薬師堂裏の墓地にお参りに来るときに、これらの石塔に向かつて参拝する。

・舟型の如意輪観音菩薩像（高さ一三〇センチメートル）  
上部に梵字サ、中央に如意輪観音菩薩像、両側に「寿貞信女」、  
「宝永六丑 年、三月十二日」（一七〇九年）と刻まれている。

・板碑型の墓塔（高さ一二五センチメートル）  
上部に梵字ア、中央に「良全禅定尼 不生位」、両側に「于時明曆 三天亥卯 助左エ門」（「寛文三天癸卯」（一六六三年）の誤りと  
思われる）、「霜月廿九日」と刻まれている。

40・道標石塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 恩間（新田）・小島家（恩間新田七）路傍  
石塔型式 角型（北東向き・高さは低）  
年 号 文久元（一八六一年）

〔左側面〕

小嶋 七五郎 森田 長 蔵  
小嶋 栄 蔵 須賀 吉五郎  
小嶋 角 蔵

鈴木 五郎

鈴木 久次郎 小嶋 茂 八

鈴木 久次郎 小嶋 茂 八

小嶋 久次郎 鈴木 仙太郎

〔正面〕 文久元酉年八月吉日

（天狗の顔）是より第六天 道 十八丁

〔右側面〕

小嶋 孫三郎 小嶋 平次郎

小嶋 甚五郎 堀田 〇〇〇

森田 留次郎 小嶋 〇〇〇

齊藤 巳之助 森田 〇〇〇

小嶋 善 〇〇〇

小嶋 吉右エ門 小嶋 長次郎

森田 幸 助 森田 〇〇〇

※大戸（さいたま市岩槻区大戸）の大六天に行くための道標である。  
ここ恩間新田より田圃の中を南西に大六天に通じる道が現在でも存在する。明治の頃までは現在のような直線道路ではなく、蛇行していた

ことが明治十四年測量の迅速測図「大口村及黒谷村」によってわかる。  
※現在の恩間新田七の小島家あたりは、江戸時代の昔は、せんげん堀は流れておらずこのあたりに恩間新田の香取神社があった。香取神社は、現在は薬師堂に合祀されている。

※その頃のせんげん堀は、現在より約一六〇メートル西方に流れていた。  
※この石塔は、岩槻領の人々によって建てられたと思われる。

41. 「馬頭観音」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 恩間（新田）・小島家（恩間新田七）の北西の田圃の中  
石塔型式 駒型（南西向き・高さは中）  
年号 安政六（一八五九年）

〔左側面〕

安政六未七月十二日

〔正面〕

馬頭観世世音

〔右側面〕

恩間新田

小嶋金蔵

42. 馬頭観音菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 恩間（新田）・小島家（恩間新田七）の北西の田圃の中  
石塔型式 駒型（南西向き・高さは中）  
年号 宝暦五（一七五五年）

〔正面〕

為如是畜生発菩提心也

恩間邑新田 施主

（六臂の馬頭観音菩薩像）

観音経講中

宝暦五乙亥十月吉日

※その向かって右隣には41番の馬頭観音文字塔、左隣には高さが六十センチメートル程度の駒型の馬頭観音文字塔がある。左側面には

「明治廿五年八月」、正面には「馬頭観世音」と刻まれている。

※41番以降の石塔は、すべて恩間新田の村はずれにある江戸時代の

「馬捨て場」（恩間新田七の小島家の西北西六〇メートル先の田圃の中）跡にある。

旧袋山村の石仏

（1） 袋山観音堂

すぐ隣には持福院があり、持福院の管理下にあったと思われる。

1. 道標付き石橋供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 袋山・観音堂

石塔型式 上部隅丸角型（北向き・高さは中）  
年号 安永十年（一七八一）

〔左側面〕

願主

関根太良左衛門

山崎佐兵衛

浄心房

香雲信女

安永十 辛 丑年

〔正面〕

（一仏） 石 世話人 荻嶋村

妙泉信女 橋 世六養食塔石

正月吉日

〔右側面〕

これより左

六左衛門

砂原村 庄蔵

西荒井 喜四郎

2. 文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二〇二番）

所在地 袋山・観音堂

石塔型式 頭部山状角型（西向き・高さは高）  
年号 寛政十二年（一八〇〇）

〔左側面〕

石井茂左エ門

山崎作右エ門

同 茂左エ門

同 新右エ門

同 彦兵衛

同 右エ門

同 右エ門

同 右エ門

中嶋佐平兵

〔正面〕

(梵字) 庚申 供養塔

〔右側面〕

(山)

同 崎 右工門  
同 吉 右工門  
同 幸 右工門  
同 關 根 右工門  
同 藤 藏  
同 政 右工門  
同 善 藏  
同 久 治 郎  
同 李 左工門  
同 遠 藤 久 七

3. 文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔二四二番)  
所在地 袋山・観音堂  
石塔型式 頭部山状角柱型 (西向き・高さは高)  
年号 文政四年 (一八二二)  
〔左側面〕

〔正面〕

(日月) 青面金剛 (三猿)

世 話 人

(中嶋) 同 金右 同 長左工門 同 藏 同 山崎 五左工門 同 与 平次 同 吉良 左工門 同 山崎 甚左工門 同 七良 兵衛 同 与 吉 同 同 右工門 同 同 右工門 同 同 吉五 良 同 同 同 平左工門 同 同 重右工門 同 同 又左工門 同 同 之助 同 同 長兵 衛 同 同 右工門 同 同 右工門 同 同 市良 右工門 同 同 五左工門 同 同 平藏 同 同 八左工門 同 同 中嶋 儀右工門 同 同 武右工門 同 同 山崎 佐左 同 同 關根 同 同 中嶋

天下泰平

文政四辛巳年

五穀成就

国土安全

三月吉祥日

ろはて□□か□せくちし□ゆ□はなしさゆはよましさの  
□□□□□つ□の□の□わよなつもよわつしち

〔右側面〕

武州越ヶ谷領 袋山村 講中

4. 文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔三〇一番)  
所在地 袋山・観音堂  
石塔型式 頭部山状角柱型 (西向き・高さは高)  
年号 万延元年 (一八六〇)



〔左側面〕

〔台石〕

〔台石〕

四海泰平

世

中嶋幸右門  
同喜藏  
関根福治郎

話

同和三郎  
同彦治郎  
山崎佐一良

采比皆豊登豆

人

同芳□□  
同巴之□  
同吉

松伏

石工茂兵衛重好作

〔正面〕

庚申

(三猿)

(二十九名の名前が  
刻まれている  
摩耗していて解読不能)

〔右側面〕

萬延元年

九月吉日

武州埼玉郡

袋山講中

5・文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔二八四番)

所在地 袋山・観音堂

石塔型式 頭部山状角柱型(西向き・高さは高)

年号 嘉永元年(一八四八)

〔左側面〕

天下泰平

五穀成就

〔正面〕

〔台石〕

〔台石〕

庚申塔

話

同四郎兵衛

山崎佐重郎

同作右門

人

同清左門

世

関根忠右門

同善兵衛

中嶋久右門

6・青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔二二一番)

所在地 袋山・観音堂

石塔型式 駒型(西向き・高さは中)

年号 寛延三年(一七五〇)

同関根太良左門  
同太良左門  
同清右門  
同伊三郎  
同喜藏  
同虎藏  
同大藏  
同孫兵衛  
同太良  
同重  
同中嶋良  
同安左門  
同与左門  
同徳右門  
同山崎佐兵衛  
同甚太郎  
同新右門  
同三次郎  
同熊三郎  
同當右門  
同三左門  
同本藏  
同佐八次  
同同幸藏  
同同仙藏  
同石井吉右門  
同石金左門

〔左側面〕

奉造立青面金剛尊像

〔正面〕

〔日月〕（青面金剛像）（二鶏）（鬼）（三猿）

〔右側面〕

施主袋山村

寛延三庚 天十月吉日

同行拾四人

7・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 袋山・観音堂

石塔型式 特殊角型、元は笠付き角型（西向き・高さは中）

年号 享保十八年（一七三三）

〔左側面〕

享保十八癸

丑

〔正面〕

〔梵字・〽〕 十八青面金剛

〔右側面〕

十一月吉祥日

8・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔一六〇番）

所在地 袋山・観音堂

石塔型式 駒型（西向き・高さは中）

年号 天明二年（一七八二）

〔左側面〕

天下泰平国土安全

〔正面〕

〔日月〕（青面金剛像）（二鶏）（二鬼）

〔右側面〕

天明二壬 寅十一月

※鬼が二匹いる庚申塔は珍しい。

9・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔一五一番）

所在地 袋山・観音堂

石塔型式 駒型（西向き・高さは中）

年号 安永五年（一七七六）

〔左側面〕

（名前が二段にわたって刻まれている）

上段は四名、下段は五名）

〔正面〕

〔日月・梵字・〽〕 庚申青面金剛

〔右側面〕

（不明） ※金石資料集によると「九月吉日」と刻まれている。

10・出羽三山供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 袋山・観音堂

石塔型式 頭部山状角柱型（西向き・高さは中）

年号 文化十五年（一八一八）

〔左側面〕

天下泰平

先達

国土安全

〔正面〕

〔日月〕（梵字） 湯殿山供養塔

羽黒山

〔右側面〕

文化（不明）

11・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 袋山・観音堂

石塔型式 駒型（西向き・高さは中）

年号 元禄十三年（一七〇〇）

〔正面〕

元禄十三庚 辰 天十月朔日

奉加施主

弥五郎右門

源兵衛

長右門

弥五郎右門

二右門

八郎

兵衛

兵衛

三十五人

奉供養庚申講施主同行二世安樂攸

三十五人

奉供養庚申講施主同行二世安樂攸

三十五人

奉供養庚申講施主同行二世安樂攸

12・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔六四番）

所在地 袋山・観音堂

石塔型式 駒型（西向き・高さは中）  
年号 享保三年（一七一八）

〔正面〕

奉供養庚申待講中二世安楽依

（梵字）（日月）（青面）金剛像（鬼）（二鶏）（三猿）

享保三 戊 天霜月吉祥日

13・馬頭観音菩薩像（『越谷市金石資料集』馬頭五番）

所在地 袋山・観音堂

石塔型式 駒型（北向き・高さは中）  
年号 天明二年（一七八二）

〔正面〕

関根おまい

天明二寅年 おし口

（馬頭観音像）馬頭観世音供養

十月吉日 おしん

おまさ

※袋山集会所の西端に、台石に「成田山」と刻まれた年号不詳の不動

明王三尊像を祭った祠がある。

※観音堂の北方にある袋山四三五の関根家邸内には大正十三年十二月造

立の第六天と刻まれた石塔（『越谷市金石資料集』第六天三番）がある。

※観音堂の南の袋山三二五の向佐（むかさ）家邸内には、卵型をした

自然石に「庚申塔」の文字が刻まれている文字庚申塔（『越谷市金石

資料集』庚申塔三三二番）がある。年代は不詳である。

### （2）袋山久伊豆神社

袋山村の久伊豆神社は、毎年一月十八日にオビシャ（御備社、御歩射）  
が行われている。かつては元荒川は袋山村の回りに沿って迂回して流れ  
ていた。この神社はその元荒川が作った段丘の地に建っている。

なお、袋山村の鎮守は雷電社（所在不明）である。

14・「天満宮」文字塔（『越谷市金石資料集』天神六番）

所在地 袋山・久伊豆神社の祠内

石塔型式 祠型（南向き・高さは中）

年号 寛政七年（一七九五）

〔左側面〕

寛政七卯二月吉日

〔正面〕

天満宮

〔右側面〕

袋山村 七蔵

岩治良

善太良

歎宥代 文治良

菅三良

15・「稻荷社」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 袋山・久伊豆神社の祠内

石塔型式 祠型（南向き・高さは中）  
年号 宝暦八年（一七五八）

〔左側面〕

関根忠右衛門 山崎吉郎右衛門

セ 中嶋五十右衛門 同 清左衛門

ハ 関根福次郎 同 八五郎

人 同 藤蔵 同 □右衛門

〔正面〕

宝暦八 戊寅 天

稲荷 若荷 社

八月吉日

〔右側面〕

山崎與平治

願主 関根新五左衛門 惣村中

向ヶ佐平三郎

※向かって右隣の祠には、自然石に「浅間大神」と刻まれ、裏には  
「明治二十五年辰一月吉日造」と刻まれている浅間文字塔がある。

16・「山神宮」文字塔（『越谷市金石資料集』山神二番）

所在地 袋山・久伊豆神社

石塔型式 祠型（南向き・高さは中）

年号 寛延四年（一七五二）



〔正面〕

寛延四 辛 未天

山 神 宮

六月吉祥日

〔右側面〕

施主 袋山村中

17・石燈籠供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 袋山・久伊豆神社

石塔型式 ほぼ角型〔頭部上面に半球形の凸部あり〕（南向き・高さは中）

年 号 宝永三年（一七〇六）

〔左側面〕

丹波屋 四郎 左門

武州 江戸 築地 南飯田町

冨田屋 平兵衛

〔正面〕

宝永三 戌天

諸願

奉寄進 石燈籠

成就 三月吉日

（33） 袋山薬師堂

持福院の持ち分であった。

18・六十六部供養塔（『越谷市金石資料集』六十六部一七番）

所在地 袋山・薬師堂

石塔型式 頭部一仏付き角型（北向き・高さは中）

年 号 安永三年（一七七四）

〔正面〕

安永三 甲 年 先祖代々 越谷領袋山村 為一切聖靈

安永三 午 年

（丸彫り座像

奉納 大乘妙典六十六部供養塔

合掌仏）

二月十五日 當村為一切志 行者円心

19・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二三番）

所在地 袋山・薬師堂

石塔型式 頭部山状角柱型（東向き・高さは中）

年 号 文化四年（一八〇七）

〔左側面〕

〔台石〕  
人わセもん  
のしんせん  
つるぶ  
りよ  
いん  
すへ  
とみ  
まよ  
いよ  
みつ  
いん  
かん

文化四丁卯年十一月吉日

〔正面〕

（目）庚申塔

〔右側面〕

袋山邑講中

しいの□  
なつの□  
まつの□  
しんの□  
かなつ  
すみ  
まつ  
とみ  
りよ  
さく  
ゑん  
もん  
たつ

※この庚申塔は奉納者がすべて女性となっている。庚申待は、卑しいとされる女性を排除して男性のみの講中で行われるのが一般的であるが、ここでは女性のみの講中を作って庚申待が行われた。

(4) 袋山積迦堂

釈迦如来を本尊とする能仁寺の跡地と思われる。末田にある金剛院の管理の下にある。

20・地蔵像付き梵字文石塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 袋山・釈迦堂

石塔型式 変形角型（頭部上面が平らな突部付角型・北向き・高さは高）

年号 天保十二年（一八四一）

〔左側面〕

皆天保十二年辛丑三月穀旦

〔正面〕

（宝珠と錫杖の 地蔵菩薩立像）（三行にわたる梵字文）

※皆は「時」（ときに）と同じ

※梵字文の上部にある平仮名の「し」に似た梵字は、文章の始まりを示し、下部にある二本の縦棒とその両側に二個の点が刻まれた梵字は、文章の終わりを示している。

21・名号塔（『越谷市金石資料集』名号二三番）

所在地 袋山・釈迦堂

石塔型式 上部隅丸様角型（北向き・高さは中）

年号 天保二年（一八三一）造立、明治五年（一八七二）改刻

〔左側面〕

〔台〕

天保二卯年 発願人

明治五申年

細沼吉左エ門

（梵字ア）自性院本阿速應居士位

八月初五日

宇右エ門 石一  
五左エ門 良  
次良 吉  
喜十 良  
音右エ門 門  
民右エ門 門  
惣右エ門 門  
安右エ門 門  
武左エ門 門  
十次 良  
辰右エ門 門  
瀧右エ門 門  
十五 良  
利津女 門  
重右エ門 門  
常右エ門 門  
孫右エ門 門  
□右エ門 門

〔正面〕

南無阿弥陀佛 宏善（花押）

〔右側面〕

世池田吉平  
袋山村 話 遠藤市右エ門  
人 山崎吉良右エ門

関根庄右エ門 門  
細沼藤左エ門 門  
池田八良左エ門 門  
遠藤七左エ門 門  
中嶋幸右エ門 門  
関根善兵エ門 門  
同久太良 門  
山崎与平次 門  
同彦右エ門 門  
遠藤八十八 門  
山崎作右エ門 門  
関根藤蔵 門  
同清右エ門 門  
同佐平蔵 門  
藤井文左エ門 門  
同彦兵エ門 門  
小林弥藤次 門  
池田長蔵 門  
奈本清五良 門

※この名号塔には、宏善という名と、その人の花押が見られる。「宏善」とは、江戸末期から明治にかけて活躍した大泊村の安国寺の宏善上人をさす。安国寺の中興となっている。

※『越谷市金石資料集』の名号二三番は、年号は「天保3・8・5」となっているが誤りである。「3」（三年）は「2」（二年）の間違いで、「8・5」は改刻した明治五年八月五日から誤って8・5としたのであろう。月日の部分が改刻されていて不明である。

22. 不動明王像（『越谷市金石資料集』不動一番）  
所在地 袋山・釈迦堂  
石塔型式 舟型（北向き・高さは中）  
年号 正徳二年（一七一一）  
〔正面〕

施主  
助久法師 不生位 井藤太郎左衛門  
（不動明王像）  
正徳二壬辰 天四月初十日

23. 文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔一一〇番）  
所在地 袋山・釈迦堂  
石塔型式 駒型（北向き・高さは中）  
年号 延享四年（一七四七）  
〔正面〕

講中 藤井権兵衛  
同 〇右衛門  
同 孫七  
同 惣七  
清田治左衛門  
同 金兵衛  
松本幸右衛門  
遠藤政右衛門  
同 仲右衛門  
小林庄兵衛  
波江喜兵衛  
池田喜四郎  
同 半四郎  
十月吉日  
〔三猿〕

24. 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔四〇番）  
所在地 袋山・釈迦堂  
石塔型式 笠付き型（北向き・高さは高）  
年号 宝永三年（一七〇六）

〔左側面〕  
（梵字）奉供養庚申待講結束二世安樂伎  
遠藤〇右工門  
池田吉之丞  
〔正面〕

〔笠部に〕  
（青面金剛像）（二鶏）（鬼）（三猿）  
日月）  
細沼吉左工門  
池田喜右工門  
遠藤〇左工門  
小林平兵衛  
成田伝兵衛  
浅田吉兵衛  
関根〇右衛門  
藤井勤兵衛  
細沼金兵衛  
池田新右工門  
林 権兵衛  
遠藤左兵衛  
遠藤〇左工門

〔右側面〕  
宝永三丙 戊年十一月吉祥日  
武州崎玉郡越ヶ谷領袋山村 願主敬白

25. 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔一二六番）  
所在地 袋山・釈迦堂  
石塔型式 駒型（北向き・高さは中）  
年号 宝暦九年（一七五九）  
〔左側面〕

袋山村 細沼三治郎  
池田幸七  
遠藤七左衛門  
遠藤平八  
四丁野組 波江直右衛門  
奉供養庚申塔  
〔正面〕  
（日月）（青面金剛像）（二鶏）（鬼）（三猿）  
〔右側面〕

宝暦九己卯十一月吉日  
遠藤宇右衛門  
同性新助  
清田文治  
藤井甚五右門  
藤井孫市

26・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔九五番）  
所在地 袋山・釈迦堂

石塔型式 駒型（北向き・高さは中）  
年号 享保十九年（二七三四）

〔左側面〕

おひさ おかる  
おちよ おいわ  
おいち おなお  
おかや おぎん  
おはつ おはる  
おさい おぢやよ

〔正面〕

（日月）（青面金剛像）（二鶏）（鬼）（三猿）

〔右側面〕

池田平左門 遠藤  
池田平右門 遠藤  
池田午助 遠藤  
関根 清田彦七  
小林

奉待庚申講中為二世安楽

※庚申講中は一般には男性のみであるが、この庚申塔は女性も交じって男女協力して奉納されている。他には袋山30や31、32でも男女の奉納が見られる。

27・三猿庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔六番）

所在地 袋山・釈迦堂  
石塔型式 板碑型（北向き・高さは中）  
年号 寛文八年（一六六八）

〔正面〕

寛文八 戊申 天

袋山村  
池田三右衛門  
小林政兵衛  
坂橋 兵衛  
所右衛門  
小林比兵衛  
松本才兵衛  
松本文左衛門  
藤井仁左衛門  
清田四良兵衛  
藤井太左衛門  
小林 左衛門

（梵字）奉造立庚申待結衆所願成就所（三猿）

七月廿三日

28・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔五三番）  
所在地 袋山・釈迦堂

石塔型式 駒型様舟型（北向き・高さは中）  
年号 正徳三年（一七一三）

〔左側面〕

正徳三癸巳天十月吉祥日敬白  
奉供養庚申講中為二世安楽 袋山村

〔正面〕

（梵字）（日月）（青面金剛像）（鬼）（三猿）

29・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』六五番）

所在地 袋山・釈迦堂  
石塔型式 駒型（北向き・高さは高）  
年号 享保三年（一七一八）

〔正面〕

袋山村  
藤井彦兵衛  
藤井 兵衛  
藤井平七  
藤井武兵衛  
松本彦  
遠藤古平  
遠藤三右衛門  
遠藤平六

奉供養庚申講中二世安楽 袋山村

（日月）（青面金剛像）（鬼）（三猿・二鶏）

享保三 戊申 天閏十月吉祥日

30・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二九五番）

所在地 袋山・釈迦堂  
石塔型式 頭部山状角柱型（西向き・高さは高）  
年号 嘉永七年（一八五四）

〔左側面〕

石台  
細沼吉左衛門  
橋直紀  
同 雅之輔  
橋 輔  
武蔵国埼玉郡越ヶ谷領  
袋山村

嘉永七年 寅年

十一月大明吉祥日 講中

世話人  
遠藤吉郎兵衛  
同 八〇〇（兵衛）  
小林喜平太  
清田民 蔵



〔正面〕

（日月） 庚 申 （三猿）

組 下

池田八郎左衛門	同平蔵	同茂吉	小林浅五郎	藤井安五郎	同織右衛門	同源七郎	松本岩次郎	遠藤杉蔵	同紋蔵	同吉蔵	同桑蔵	同喜二郎	同菊五郎	同初五郎	同兵助	同根蔵	同定蔵	清田源六	高梨與四郎	遠藤庄次郎
---------	-----	-----	-------	-------	-------	------	-------	------	-----	-----	-----	------	------	------	-----	-----	-----	------	-------	-------

〔右側面〕

天下泰平村内安全

五穀成就萬民豊樂

女連名

き □ い □ く □ ふ □ き □ せ □ つ □ み □ は □ す □ ゆ □ は □ の □ ふ □ よ □ す □ あ □ ひ □ あ □ み □ つ □ よ □ さ □ へ □ つ □ さ □ た □ せ □ り □

※庚申講中は一般には男性のみであるが、この庚申塔は女性も交じって男女協力して奉納されている。他には袋山26や31、32でも男女の奉納が見られる。

31・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二四九番）  
所在地 袋山・釈迦堂  
石塔型式 頭部山状角柱型（西向き・高さは高）  
年 号 文政七年（一八二四）

「台石」  
講 中

天下泰平国土安穩

日月清明五穀成就

か □ よ □ と □ り □ と □ き □ ん □ き □ た □ ら □ た □ つ □ の □ よ □ き □ し □ の □ い □ き □ の □ き □ も □ よ □ ま □ さ □ は □ さ □ の □ ま □ さ □ さん □ きち

オキシマ

ち □ い □ の □ せ □ い □ の □ よ □ ち □ ち □

〔正面〕

講中

細沼廉陰  
遠藤佐吉  
同 惣左エ門  
同 民右エ門  
同 音右エ門  
同 吉蔵  
同 重右エ門  
同 仲右エ門  
池田三右エ門  
同 喜十郎  
松本兵左エ門  
清田次右エ門  
同 次兵衛  
藤井安左エ門  
同 次郎吉  
同 彦兵衛  
関根重次郎

青面金剛 (三猿)

〔右側面〕

文政七甲申年十一月吉祥日

武蔵国埼玉郡袋山村講中

人 池田喜右エ門

話 小林弥藤次

世 遠藤為仍

※庚申講中は一般には男性のみであるが、この庚申塔は女性も交じって男女協力して奉納されている。他には袋山26や30、32でも男女の奉納が見られる。

32. 文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔二〇七番)

所在地 袋山・釈迦堂

石塔型式 頭部山状角柱型 (西向き・高さは中)

年号 文化元年 (一八〇四)

〔左側面〕

〔台〕

石

おふき  
おたつ  
おれん  
おたん女  
おせき  
おはつ  
おはる  
おひめ  
おふし  
おとお  
およし  
おかん  
おせき  
おもと  
おすき  
おりん  
おさき  
おみき  
おしい  
おりん  
おつま

文化元甲子年

〔正面〕

(日月) 青面金剛 (三猿)

細沼 吉左衛門  
池田 新右衛門  
同 八良左エ門  
藤井 文左衛門  
同 兵右衛門  
同 太左衛門  
同 織右衛門  
清田 武左衛門  
同 辰右衛門  
池田 吉平  
松本 清五郎  
波江 久蔵

〔右側面〕

四月 吉祥日

小林 喜平太  
 遠藤 庄蔵  
 同 市右衛門  
 同 重左衛門  
 同 庄助  
 同 孫右衛門  
 同 嘉藤治  
 同 文右衛門  
 同 重蔵  
 波江 弥兵衛  
 関根 利右衛門

※庚申講中は一般には男性のみであるが、この庚申塔は女性も交じって男女協力して奉納されている。他には袋山26や30、31でも男女の奉納が見られる。

33・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔一四八番）  
 所在地 袋山・釈迦堂

石塔型式 頭部山状角型（西向き・高さは中）  
 年号 安永四年（一七七五）

〔左側面〕

安永 四 乙 未 天

〔正面〕

〔台 石 〕

藤井 繁右衛門  
 同 伊左衛門  
 同 源四郎  
 同 喜曾右子門  
 清田 又七  
 松本 幸内  
 池田 長蔵  
 同 重蔵  
 遠藤 源六  
 同 吉良兵衛  
 同 庄右衛門  
 同 又左衛門

（日月）青 面 金 剛 （三猿）

〔右側面〕

十一月 十六 日

〔追加〕

34・地藏菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）  
 所在地 袋山・遠藤家「袋山二五六―」路傍  
 石塔型式 上部隅丸角型（西向き・高さは低）  
 年号 嘉永五年（一八五二）

〔正面〕

嘉永五子年霜月吉日建立

（地 蔵 菩 薩 像 ）  
 法会無縁為供養

※この地藏尊は、地元では、安産祈願として、「無事に生まれますように」―「お産が軽くなるように」との願いを込めて信仰されてきた。出産して二十一日目（特に女の子は三十三日目にする場合もある）に地元の久伊豆神社に宮参りをする。その後、薬師堂に立ち寄り、すぐそばにあるこの地藏尊にも立ち寄る人がいる。この地藏尊を管理している遠藤家では、毎年一月二十三日と八月二十三日にはお参りを欠かせないという。地元では「子育て地藏」と呼ばれている。

### ◎袋山薬師堂の石燈籠銘文

袋山の薬師堂（袋山二六六）入口付近に石の燈籠が左右一対ある。それぞれ正面に観音菩薩像、勢至菩薩像が浮き彫りで描かれている江戸時代後期、享和元年（一八〇一）の作品である。特に薬師堂に向かって左側の燈籠には、側面に銘文が刻まれている。

石仏愛好家の泉雅彦氏の調査によると、石燈籠の施主の遠藤吉郎兵衛の子孫は袋山一五三の遠藤繁男氏で、繁男氏によると二百年前、遠藤家の身内に眼を患った人がいたが、ここの薬師に祈願したら治ったので、そのお礼にこの石燈籠を寄進した。」という。

石燈籠に刻まれた銘文は次の通りである。

《向かって右側の石燈籠》

〔左側面〕

享和改元辛酉季種七月吉祥日

〔正面〕

（合掌する勢至菩薩の立像）

〔右側面〕

武州埼玉郡袋山村  
遠藤吉郎兵衛

《向かって左側の石燈籠》

〔左側面〕

享和改元辛酉年秋七月吉辰

〔正面〕

（蓮の花を持つ観音菩薩の立像）

〔右側面〕

佛室本尊薬師如来ハ慈覚大師の  
御作にして其靈驗世に稀なり、疾病平愈、

意願年月を経、以て其成就□□□□□□、故  
に萬人の助力を請て石燈籠を賣前の此處  
献備し、永利益の光輝を仰奉、然り

意訳すると

「袋山の薬師堂の奥の部屋に安置されている本尊の薬師如来は、慈覚  
大師円仁が自ら作ったものです。その靈驗は世に稀な程に著しく、  
おかげで私、遠藤吉郎兵衛の病気が治りました。  
思うに、その病氣回復のお礼が長くそのままになってしまっていま  
した。そこで、多くの人々に協力をお願いして石燈籠を薬師堂の前  
に寄進致しました。この石燈籠は、長く後世に御利益の誉れをお受  
けしていくことでしょう。」

〔裏面〕

武州埼玉郡袋山村  
遠藤吉郎兵衛

### 旧大林村の石仏

（1）大林香取神社

大林村の鎮守である。

1・猿田彦文字庚申塔（『越谷市金石資料集』猿田彦九番）  
所在地 大林・香取神社

石塔型式 頭部山状角柱型（南向き・高さは高）  
年号 天保六年（一八三五）

〔左側面〕 天保乙未春三月  
陶齋省吾拜書

〔正面〕

瀬尾良左門  
岩瀬又右門  
瀬尾伊左門  
濱野忠七  
會田勘左門  
宇田川惣七  
瀬尾源右門  
川鍋久五郎  
向佐専右門  
瀬尾忠右門  
濱野忠右門  
宇田川□松  
川鍋宇之助  
岩瀬藤七  
深野又四郎  
岩瀬佐助  
大林寺鉄宗  
万歳寺真明

### 猿田彦大神

願主 宇田川久太郎  
濱野忠五郎

2・猿田彦文字庚申塔（『越谷市金石資料集』猿田彦六番）

所在地 大林・香取神社  
石塔型式 頭部山状角柱型（南向き・高さは中）  
年号 文政十一年（一八二八）

〔左側面〕 文政十一年 戊子霜月□日

文政十一年 戊子霜月□日

武蔵国一宮神主  
岩井伊豫守物部連正興謹書

※「載」＝「年」



〔正面〕

媛田毘古大神

大林郡 講中

〔右側面〕

武蔵国埼玉郡 新方領

願主 宇田川久右エ門 濱野忠五郎

大林村

※この猿田彦庚申塔は、恩間の香取神社に見られる猿田彦庚申塔と同様に、文字「彦」を「毘古」としている珍しい例である。

3. 「天満宮」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）所在地 大林・香取神社 石塔型式 祠型（東向き・高さは中）年号 不詳

〔正面〕

「台石」

瀬尾八〇右エ門 岩瀬藤右エ門 同 藤八 上原文吉 原田久次郎 瀬尾〇〇郎 同 新〇郎 同 村中

天満宮

〔右側面〕

戊十月

武蔵国〇〇村

4. 文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二七六番カ）所在地 大林・香取神社 石塔型式 不明（北向き・高さは低）年号 天保十年（一八三九）カ

〔左側面〕

月吉日

〔正面〕

〔庚〕 申塔

〔右側面〕

埼玉郡 大林村 講中

願主 大林寺鉄宗

※この庚申塔は破損して上部がなく、詳細がわからないが、『越谷市金石資料集』の庚申塔二七六番の庚申塔（造立日は天保十

正・吉、石塔型式は柱状型「角柱型」）と思われる。

5. 文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔一六八番）所在地 大林・香取神社

石塔型式 駒型（北向き・高さは中）年号 天明八年（一七八八）

〔左側面〕

天明八戊申三月吉日

〔正面〕

天下泰平

〔梵字〕（日月）青面金剛（三猿）

〔右側面〕

国土安全

大林村 講中

6. 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔六九番）

所在地 大林・香取神社

石塔型式 駒型（北向き・高さは中）年号 享保五年（一七二〇）

〔正面〕

奉造立庚申供養尊

瀬尾八郎右衛門 上原志兵衛 岩瀬又右衛門 會田七郎兵衛 根本藤右衛門 濱野忠兵衛 瀬尾弥五郎 宇田川弥三右衛門 根本八郎衛門 上原次右衛門 會田〇〇右衛門 岩瀬弥〇〇

享保五庚子年九月吉祥日 武蔵国新方領大林村

(2) 飯山家 (大林三〇五) 邸内

7. 金毘羅権現文字塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大林・飯山家 (大林三〇五) 邸内

石塔型式 祠型 (南向き・高さは低)

年号 文政十一年 (一八二八)

〔左側面〕

文政十一 子 六月吉日

〔正面〕

金毘羅 大権現

8. 道標石塔 (『越谷市金石資料集』道標八番)

所在地 大林・飯山家 (大林三〇五) 路傍

現在は、越谷市立郷土資料収納館に保管されている。

石塔型式 頭部山状角型 (南向き・高さは高)

年号 嘉永五年 (一八五二)

〔正面〕

野島地藏尊道

〔右側面〕 三十一

(五王子と)

嘉永〇〇年正月〇〇

※飯山家前の県道大野島・越谷線のT字路の飯山家側の角地に貴重な道しるべの石塔があったが、交通事故で破損された。折れ残った上部は越谷市立郷土資料館 (見田方遺跡公園内) に保管され、下部は大破し、残念ながら現存しない。

図の現存しない下部は越谷市史編さん室発行の『越谷ふるさと散歩』(上)一三三頁にある写真をもとにスケッチしたものである。

『越谷市金石資料集』の道標八番の記録によると、年号が嘉永〇〇・正吉、正面の文字は『野島地藏尊道三十三丁余のじま道』と刻まれ、石塔型式は柱状型、大きさは、高さ一五〇、幅三七、厚さ二〇とされる。

(3) 大林寺

戦前までは尼寺として知られた禅宗の寺院である。

9. 法華経供養塔 (『越谷市金石資料集』題目二番)

所在地 大林・大林寺の山門入口

石塔型式 上部丸型 (南向き・高さは高)

年号 寛保元年 (一七四一)

〔正面〕

寛保元 辛 西三月十七日

高徳院 南室 元壽 菴主

奉誦誦十八乘妙典一千部供養塔

養源院 得翁 海保 信尼

元文五 庚 申十二月晦日

享保十一 丙 午天三月吉祥日

※大乗妙典とは法華経のことをさす。

※「越谷ふるさと散歩(上)」(昭和五十四年発行)によると、『これは最近街道修理の際地中から掘り出されたものといわれるが、なぜ当所に埋められたかは不明である。』と説明されている。

10. 法華塔 (『越谷市金石資料集』題目二番)

所在地 大林・大林寺の墓地

石塔型式 変形角型 (頭部上面が盛り上がった角型・南向き・高さは高)

年号 文政二年 (一八一九)

〔左側面〕

光岳仙明尼上座 智俊貞鏡尼上座 祖山宗禪尼上座

禪山鉄宗尼菴主 王印賢明尼上座 徳宗諦林尼上座

物外義文尼上座 古春梅園尼上座 卍孝鉄大尼上座

〔正面〕

〔右側面〕

法華 塔

千茲文政二己卯仲秋吉旦法華誦誦一千部既了畢立塔供養講中連読及劣徒鉄宗尼隨読六百餘部特順拜西国四国秩父坂東神社仏閣其靈場土砂一袖米納于塔前拜石下更書寫今經全部般若理趣分等諸經奉納于塔中以供養恭敬其志欲令凡於此拜石上此塔礼拜誓不異順拜如上靈場又結法華會上見宝塔勝因也夫法華者自心之妙典自心之光明三昧也人入横索鼻孔看與靈山宝塔是同是別鑑在機前是為記

- 〔裏側面〕 大林璣山叟識
- 雄山古林首座 大光哲明尼上座 宗山苗尼上座
- 関宗徳仙沙弥 靈岩賢瑞尼上座 大安祖禪尼上座
- 洋念道西沙弥 瑞岩本光尼上座 戒圓定光尼上座
- 西来祖印尼庵主 江月智照禪尼 古学宗教尼上座
- 牧山性牛尼上座 誦道仙林尼上座 梅香賢瑞尼首座
- 佛来智法禪尼 禅外鉄苗禪尼 鉄山光禪尼首座
- 沢山祖治尼上座 徳有貞隣尼首座
- 智仙観明尼上座 道翁諦隆尼和尚
- 一念普明尼庵主 智參覚恵尼首座
- 慈海貞音尼庵主

※この石塔の文を書いた璉山和尚はこの寺院の中興である。

11・百八十八箇所巡礼塔（『越谷市金石資料集』諸国廻国六番）

所在地 大林・大林寺の墓地

石塔型式 変形角型（頭部上面が平らな山状様角型・南向き・高さは中）  
年 号 文政十一年（一八二八）

〔左側面〕

文政 十一 戊子 六月

願主 越後大圓 尾州碩苗 尼

〔正面〕

奉順拜 西国四国 供養塔  
秩父坂東

〔右側面〕

信士

妙信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

12・百八十八箇所巡礼塔（『越谷市金石資料集』諸国廻国七番）

所在地 大林・大林寺の墓地

石塔型式 変形角型（頭部上面がやや盛り上がる・南向き・高さは中）  
年 号 天保四年（一八三三）

〔左側面〕

寛中休心上座

潔皎良白信女

観月有寛沙弥

心圓智照信女

雲叔有観信士

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

信女

〔正面〕 慈海・貞音・尼庵主

奉順拜 西国四国 供養塔

秩父坂東 智俊・貞鏡・尼上座

〔右側面〕

慈海

智俊

天保四癸巳九月廿三日

※境内には秋葉神社が安置されている。秋葉神社に祭られる秋葉権現は火伏せの権現様である。秋葉信仰は密集した木造長屋の多い江戸市中で盛んで、この地もかつては大林寺の秋葉神社の秋葉講が盛んであった。

※大林寺は、享保五年（一七二〇）に下総国五霞村の曹洞宗の禅寺である「東昌寺」の住職となられた大震和尚（大震支暎「だいしんとん」大和尚、大久保彦左衛門の子孫で幼名は大久保馬之助）が、関宿（東昌寺）と江戸（下谷の龍谷寺）の往復の中継の宿泊所としてこの頃にこの地に創建したのが始まりである。最初は「大林庵」（だいらんあん）と称した。のち大震和尚は延享年間（一七四四〜四七）にこの大林庵を隠居寺とし、さらに秋葉堂と稻荷堂を建立した。大震和尚没後、三人の僧侶が相次いで隠居寺にしたが、その後は無住の寺となり荒れ果てた。

そこで東昌寺の住職の璉山和尚が倒壊寸前の堂宇を三人の弟子に修復再建させ、代官所に届けて寺号に取り立ててもらい「大林寺」と改称した。その後璉山和尚は享和年間（一八〇一〜〇七）にこの寺院に隠居され、この地をこよなく愛し、当寺を「大林学舎」と命名し、弟子を養成する一方、自らは書画を楽しんだ。璉山和尚は大林寺の中興となる。さらに璉山和尚は文化十二年（一八一五）に「大林学舎」を廃し、鉄宗（尼僧）に住職を受け継がせた。以後、現住職のご尊父が昭和十八年（一九四三）の暮れに住職となるまで五代にわたって尼僧が代々住職を引き継いできて、尼寺として知られた。そしてその尼寺の住職を「庵主（あんじゅ）さん」と呼ばれてきたのである。



旧大房村の石仏

(1) 元荒川土手そばの路傍

1. 道標付き文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔一七四番)

所在地 大房・北越谷五丁目元荒川土手そばの路傍

石塔型式 頭部山状角型(東向き・高さは中)

年号 寛政三年(一七九一)

〔左側面〕

寛政三 辛 五月吉日

亥 新方領

大房村

〔台石〕

〔正面〕

青面金剛 (三猿)

會田定右エ門  
瀬尾藤右エ門  
平林弥五兵衛  
中村五左衛門  
黒田平 蔵  
鈴木平右エ門  
同 久兵衛  
澤田伴 司  
黒田弁 蔵  
同 平 八  
同 治右エ門  
同 金右エ門

〔右側面〕

黒田弥兵衛  
同 忠右エ門  
同 幸右エ門  
同 吉右エ門  
藤井清右エ門  
萩野六右エ門  
平林源左エ門

左のじおんじ道

2. 光明真言曼陀羅塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大房・北越谷五丁目元荒川土手そばの路傍

石塔型式 駒型(東向き・高さは中)

年号 享保十年(一七二五)

〔正面〕

(光明) 享保十巳年

真言 法□円心不生位

曼陀羅) 九月廿八日

※1の道標付き文字庚申塔の前に表面を上にして敷石となっていたものを平成十年七月初旬にもう一つの敷石となっていた墓塔とともに立てられたものである。

(2) 大房稻荷神社

大房村の鎮守である。

3. 猿田彦文字庚申塔(『越谷市金石資料集』猿田彦・一三番)

所在地 大房・稻荷神社

石塔型式 頭部山状角柱型(南向き・高さは中)

年号 天保十五年(一八四四)

〔左側面〕

天保十五年 甲辰秋九月吉日

※「季」||「年」

〔正面〕 猿田彦大神

〔右側面〕

岐大神

※左側面の一部が割れて欠け落ちている。  
※猿田彦は、天孫ニギノミコトが高天原(たかまがはら)から高千穂(たかちほ)に降臨する時、天界からの分かれ道アノヤチマタ(数多くの道が分かれていた)にいて出迎え、天孫を道案内したという神。岐神(くなどのかみ、ふなどのかみ)は、イザナギの神が黄泉國(よみのくに)からの逃避の後、禊(みそぎ)祓(はらい)の時に投げ捨てた杖から生まれた神で、道の分かれる所に立っていて、種々の災いを退ける神である。「くなど」とは「来るな」という意味です。  
天孫を迎えるために天界からの分かれ道で待っていた猿田彦と道の分かれる所に立っていて様々な災いを退ける岐神の両者が同一視されたのであろう。神道では、庚申信仰の主導を猿田彦であるとしている。

4. 〔構宮〕文字塔(『越谷市金石資料集』その他・七番)

所在地 大房・稻荷神社

石塔型式 駒型(西向き・高さは中)

年号 嘉永六年(一八五三)



〔正面〕

櫓

宮

〔右側面〕

嘉永六 癸

丑 歳十一月吉辰建之

当町 會田氏

※樽宮（おうちのみや）とは、鳥取市にある樽谿（おうちだに）神社を  
さすと思われる。遠方の因幡国より會田氏によって樽谿神社の信仰が  
この地にもたらされたのであろう。

5・猿田彦文字庚申塔（『越谷市金石資料集』猿田彦五番）

所在地 大房・稻荷神社

石塔型式 頭部山状角柱型（西向き・高さは中）

年 号 文政八年（一八二五）

〔左側面〕

文政八 乙酉年

十一月吉日

〔正面〕

〔台石〕

黒田□左衛門

同□

同□

同□

同□

同□

同□

同□兵衛

同□

同□

同□

同□

同□

同□

同□

同□

同□

同□

同□

同□

同□

同□

同□

同□

同□

同□

〔正面〕

奉造立庚申講供養現当□□

〔日月〕（青面金剛像）（二鶏）（鬼）（三猿）

元禄六 癸酉天 九月吉祥日 施主敬白

黒田□□

松井□右門

7・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大房・稻荷神社

石塔型式 駒型（西向き・高さは中）

年 号 天保十二年（一八四一）

〔左側面〕

天保十二 辛丑年十一月吉日

〔正面〕

〔日月〕（青面金剛像）（二不明）（三猿）

〔右側面〕

天下泰平国□□□

8・猿田彦文字庚申塔（『越谷市金石資料集』猿田彦一四番）

所在地 大房・稻荷神社

石塔型式 頭部山状角型（西向き・高さは中）

年 号 天保十五年（一八四四）造立、明治三十二年（一八九九）改刻

〔左側面〕

天保十五季甲辰秋九月吉日

□新調修繕

明治三拾二年十一月吉日

奇附人 世 小嶋弥平治

東武鉄道請負人 話 川俣榮太郎

遠藤君蔵配下一同人 羽生久太郎

會田孫四郎  
瀬尾藤右門  
八木橋彦四郎  
鈴木伝兵衛  
中嶋新兵衛  
遠藤孫兵衛  
會田兵右門  
平林重右門  
山崎四郎兵衛  
中嶋四兵衛  
内田吉右衛門  
遠藤伝左  
井□兵衛  
田市左衛門  
松井□右門

〔正面〕

媛田彦大神

大房邸

〔右側面〕

太神

※この石塔は、もともと天保十五年造立であるが、その後、明治三十二年に東武鉄道建設請負人の遠藤君威配下の人々が新調修繕したのである。左側面にそのことが改刻されている。

※この石塔の向かって左隣には二十一仏板碑、左隣にある祠のさらに隣には弁財天の石祠（『越谷市金石資料集』の弁財天一番）、その隣に不明の石祠が二基ある。どれも正面は破損が激しく不明である。弁財天の祠は、左側面には「辨財天女 千手院有□」、右側面には「正徳四甲午天、九月大吉良日」とある。また不明の祠の一つは、左側面は「文政十三寅年九月吉日」、もう一つは、左側面は「奉造立水神 御社如意祈攸」、右側面は「元禄九丙子天三月十三日 別当 千手院 願主 黒田勘右門」と刻まれている。二十一仏板碑は、かつては今は無き大房道にあったという。

(3) 浄光九寺

浄光寺はかつては古梅園で有名な寺院であった。すなわち、浄光寺を中心とした地域に明治三十五年「越ヶ谷古梅園」が開園され、毎年大変な賑わいをみせた。害虫の発生が多く見られてくると、大正七年からは浄光寺が古梅園の管理を行ったのである。境内には、大正七年二月に建立した高さ約二〇〇センチ（台石を含む）の自然石の記念碑がある。表面には『古梅園記念』と刻まれ、裏面には『明治三十五年三月 開園』と刻まれている。

また浄光寺は、足立区にある西新井大師を一番とする新四国八十八ヶ所の札所三〇番霊場である。明治十七年頃からは、「三郡送り大師」と呼ばれた。

9. 光明真言曼陀羅塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大房・浄光寺墓地（参道そば）

石塔型式 駒型（北西向き・高さは中）

年 号 享保六年（一七二一） ※平成二十四年現在、所在不明。

〔正面〕

念心清信士 逆修 施主

〔光明真言〕

曼陀羅

妙念清信女 靈位 敬白

享保六年辛丑十一月十三日

10. 大房薬師堂の宝篋印塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大房・浄光寺境内（南東端）

石塔型式 宝篋印塔（北向き・高さは超高）

年 号 享保十六年（一七三二）

〔真裏面〕

享保十六年 亥天

法印深有

〔梵字アク〕

奉造立宝篋印塔一揆

〔左側面〕

十月 吉良日

〔梵字ウン〕

宝篋印陀羅尼經曰  
若有一華禮拜於此塔  
一香一華禮拜供養  
八十億劫生死重罪  
一時消滅免災殃  
一生佛家矣

〔正面〕

經文曰復有衆生重  
罪報故百病集身苦  
痛逼心誦此神咒二  
十一遍百病萬惱一  
時消滅壽命延長  
福德無盡矣

〔梵字タラク〕

〔右側面〕

〔梵字キリーク〕

經又曰有衆人或見  
塔形或聞鐸聲或其  
名或當其影罪障悉  
滅所求如意現世安  
穩後生極樂以滿足  
一切諸願

※埼玉鴨場（越谷市大林）そばの大房の薬師堂（現在この敷地に足利市にある宝性寺の別院が建てられている）にあった石塔が、平成二年に薬師堂の廃止とともに浄光寺に移されたのである。大房薬師堂は徳川幕府より浄光寺に堂領として与えられた高五石の御朱印地で、かつては「鶴の森の薬師」と称された大同二年（八〇七）創建と伝えられる由緒ある堂であった。龍華山大林寺の前住職である森道麟（故人）氏の作成した冊子（瓦版）『竜花』（りゅうげ）によると、大林村と大房村とがこの薬師堂の所有を目指して相撲で争い、勝った大房村が手に入れたという伝説があるという。

※また、この石塔の向かって右側（西側）隣には、同じく大房の薬師堂にあった五体の青銅の五智如来像、つまり向かって右側から紹介すると、釈迦如来（本来は不空成就如来）、阿弥陀如来、大日如来、薬師如来（本来は宝生如来）、阿閼如来があり、越谷市指定有形文化財となっている。かつては花祭りの四月八日（後に月遅れの新暦五月八日）の縁日には眼病や安産祈願のため遠方からも信者が参拝したという。

11・猿田彦文字庚申塔（『越谷市金石資料集』猿田彦八番）

所在地 大房・浄光寺境内（南東端）

石塔型式 頭部山状角柱型（北向き・高さは中）

年号 天保二年（一八三一）

〔左側面〕

天保二辛卯年

九月吉日

〔正面〕

〔台石〕

木村祢左衛門

源兵衛

門

門

五郎

門

門

伊之助

猿田彦大神

〔右側面〕

岐太神

※もとは日光道中（奥州道中）沿いの今はなき大房薬師堂（現、宝性寺別院）へ通じる通路の入口の南側角地にあった。